

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■現代経済専攻	マクロ経済学研究	1学期		2	1
	田中 淳平				
	ミクロ経済学研究	1学期		2	2
	朱 乙文				
	財政学研究	1学期		2	3
	藤 貴子				
	国際金融論研究	1学期		2	4
	前田 淳				
	経済政策論研究	1学期		2	5
	後藤 尚久				
	産業組織論研究	1学期		2	6
	後藤 宇生				
	統計学研究	1学期		2	7
	林田 実				
	計量経済学研究	1学期		2	8
藤井 敦					
地域経済論研究	1学期		2	9	
田村 大樹					
経済史研究	1学期		2	10	
山崎 勇治					
応用地域科学研究	1学期		2	11	
奥山 恭英					
会計学研究	1学期		2	12	
白石 和孝					
財務会計研究	1学期		2	13	
西澤 健次					
管理会計研究	1学期		2	14	
梅澤 俊浩					
経営学研究	1学期		2	15	
晴山 英夫					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	経営戦略論研究 浦野 恭平	1学期		2	16
	企業論研究 山岡 敏秀	1学期		2	17
	マクロ経済学演習 田中 淳平	2学期		2	18
	ミクロ経済学演習 朱 乙文	2学期		2	19
	財政学演習 藤 貴子	2学期		2	20
	国際金融論演習 前田 淳	2学期		2	21
	経済政策論演習 後藤 尚久	2学期		2	22
	産業組織論演習 後藤 宇生	2学期		2	23
	統計学演習 林田 実	2学期		2	24
	計量経済学演習 藤井 敦	2学期		2	25
	地域経済論演習 田村 大樹	2学期		2	26
	経済史演習 山崎 勇治	2学期		2	27
	応用地域科学演習 奥山 恭英	2学期		2	28
	会計学演習 白石 和孝	2学期		2	29
	財務会計演習 西澤 健次	2学期		2	30

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■現代経済専攻	管理会計演習 梅澤 俊浩	2学期		2	31
	経営学演習 遠藤 雄二	2学期		2	32
経営戦略論演習 浦野 恭平	2学期		2	33	
企業論演習 山岡 敏秀	2学期		2	34	
■文化・言語専攻	英米文学研究II (現代米文学) スコット・ピュー	1学期		2	35
	英米文学研究III (英文学) 木下 善貞	1学期		2	36
	英語学研究III (翻訳) 野島 啓一	1学期		2	37
	英米文学演習II (現代米文学) スコット・ピュー	2学期		2	38
	英米文学演習III (英文学) 木下 善貞	2学期		2	39
	英語学演習III (翻訳) 野島 啓一	2学期		2	40
	中国文学研究II (中国古典文学) 竹村 則行	1学期		2	41
中国文学演習II (中国古典文学) 竹村 則行	2学期		2	42	
中国民族文化研究 金縄 初美	1学期		2	43	
中国民族文化演習 金縄 初美	2学期		2	44	
■東アジア専攻	東アジア海域史研究 八百 啓介	1学期		2	45

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■東アジア専攻	東アジア経済研究 魏 芳	2学期		2	46
	東アジア国際政治研究 休講	1学期		2	
	現代中国政治研究 下野 寿子	1学期		2	47
	現代韓国経済研究 尹 明憲	1学期		2	48
	近代日本政治外交史研究 小林 道彦	1学期		2	49
	東南アジア地域研究I (ミャンマー) 伊野 憲治	1学期		2	50
	東南アジア地域研究II (マレーシア・シンガポール) 田村 慶子	1学期		2	51
	国際機構研究 山本 直	1学期		2	52
	アメリカ人種関係論研究 北 美幸	1学期		2	53
	アメリカ社会史研究 寺田 由美	1学期		2	54
	南欧地域研究 岡住 正秀	1学期		2	55
	ロシア地域研究 芳之内 雄二	1学期		2	56
	東アジア海域史演習 八百 啓介	2学期		2	57
	東アジア経済演習 魏 芳	2学期		2	58
	東アジア国際政治演習 休講	2学期		2	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■東アジア専攻	現代中国政治演習 下野 寿子	2学期		2	59
	現代韓国経済演習 尹 明憲	2学期		2	60
	近代日本政治外交史演習 小林 道彦	2学期		2	61
	東南アジア地域演習I (ミャンマー) 伊野 憲治	2学期		2	62
	東南アジア地域演習II (マレーシア・シンガポール) 田村 慶子	2学期		2	63
	国際機構演習 山本 直	2学期		2	64
	アメリカ人種関係論演習 北 美幸	2学期		2	65
アメリカ社会史演習 寺田 由美	2学期		2	66	
南欧地域演習 岡住 正秀	2学期		2	67	
ロシア地域演習 芳之内 雄二	2学期		2	68	
東南アジア近現代史研究 篠崎 香織	1学期		2	69	
東南アジア近現代史演習 篠崎 香織	2学期		2	70	
■共通科目	日本社会経済研究 土井 徹平	1学期		2	71
	日本社会経済演習 土井 徹平	2学期		2	72
■特別研究	特別研究 (M)IIA 朱 乙文	1学期	2	2	73
			2年		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IIA 前田 淳	1学期	2	2	74
		2年			
	特別研究 (M)IIA 別府 俊行	1学期	2	2	75
		2年			
	特別研究 (M)IIB 朱 乙文	2学期	2	2	76
		2年			
	特別研究 (M)IIB 前田 淳	2学期	2	2	77
		2年			
	特別研究 (M)IIB 別府 俊行	2学期	2	2	78
		2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■地域コミュニティ専攻	社会心理学研究 田島 司	1学期		2	79
	コミュニケーション論研究 休講	1学期		2	
	生涯学習論研究 恒吉 紀寿	1学期		2	80
	臨床心理学研究 田中 信利	1学期		2	81
	臨床教育学研究 楠 凡之	1学期		2	82
	児童福祉論研究 河嶋 静代	1学期		2	83
	障害者福祉論研究 小賀 久	1学期		2	84
	高齢者福祉論研究 石塚 優	1学期		2	85
	福祉コミュニティ研究 渡辺 良司	2学期		2	86
	人間環境学研究 野井 英明	1学期		2	87
生態人類学研究 竹川 大介	1学期		2	88	
文化社会学研究 須藤 廣	1学期		2	89	
都市社会学研究 稲月 正	2学期		2	90	
社会心理学演習 田島 司	2学期		2	91	
コミュニケーション論演習 休講	2学期		2		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■地域コミュニティ専攻	生涯学習論演習 恒吉 紀寿	2学期		2	92
	臨床心理学演習 田中 信利	2学期		2	93
	臨床教育学演習 楠 凡之	2学期		2	94
	児童福祉論演習 河嶋 静代	2学期		2	95
	障害者福祉論演習 小賀 久	2学期		2	96
	高齢者福祉論演習 石塚 優	2学期		2	97
	人間環境学演習 野井 英明	2学期		2	98
	生態人類学演習 竹川 大介	2学期		2	99
	文化社会学演習 須藤 廣	2学期		2	100
	都市社会学演習 稲月 正	2学期		2	101
	教育制度論研究 見玉 弥生	1学期		2	102
	臨床社会学研究 休講	1学期		2	
	環境社会学研究 岩松 文代	1学期		2	103
	教育制度論演習 見玉 弥生	2学期		2	104
	臨床社会学演習 休講	2学期		2	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■地域コミュニティ専攻	環境社会学演習	2学期		2	105
	岩松 文代				
■文化・言語専攻	英米文化研究I (米文化)	1学期		2	106
	前田 譲治				
	英米文化研究II (英文化)	1学期		2	107
	アダム・ヘイルズ				
	英米文学研究I (米文学)	1学期		2	108
	吉川 哲郎				
	英語学研究I (日英語比較)	1学期		2	109
	漆原 朗子				
	英語学研究II (社会言語学)	1学期		2	110
	平野 圭子				
	英語学研究IV (通訳)	1学期		2	111
	伊藤 健一				
	英米文化演習I (米文化)	2学期		2	112
	吉川 哲郎				
	英米文化演習II (英文化)	2学期		2	113
	アダム・ヘイルズ				
	英米文学演習I (米文学)	2学期		2	114
	前田 譲治				
	英語学演習I (日英語比較)	2学期		2	115
漆原 朗子					
英語学演習II (社会言語学)	2学期		2	116	
平野 圭子					
英語学演習IV (通訳)	2学期		2	117	
伊藤 健一					
中国文化研究	1学期		2	118	
板谷 俊生					
中国語学研究I (音声学)	1学期		2	119	
佐藤 昭					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	中国語学研究II (語法) 王 占華	1学期		2	120
	中国文化演習 板谷 俊生	2学期		2	121
	中国語学演習I (音声学) 佐藤 昭	2学期		2	122
	中国語学演習II (語法) 王 占華	2学期		2	123
	中国思想文化研究 鄧 紅	1学期		2	124
	中国思想文化演習 鄧 紅	2学期		2	125
	日本文化研究I (宗教文化) 佐藤 真人	1学期		2	126
	日本文化研究II (表象文化) 五月女 晴恵	1学期		2	127
	日本文学研究I (日本文学) 馬場 美佳	1学期		2	128
	日本語学研究 堀尾 香代子	1学期		2	129
	比較文学研究 木原 謙一	1学期		2	130
	比較言語研究 葛西 宏信	1学期		2	131
	日本文化演習I (宗教文化) 佐藤 真人	2学期		2	132
	日本文化演習II (表象文化) 五月女 晴恵	2学期		2	133
	日本文学演習I (日本文学) 馬場 美佳	2学期		2	134

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■文化・言語専攻	日本語学演習 堀尾 香代子	2学期		2	135
	比較文学演習 木原 謙一	2学期		2	136
	比較言語演習 葛西 宏信	2学期		2	137
	比較文化研究I (認知言語学) ダニエル・ストラック	1学期		2	138
	比較文化研究II (日米文化比較) ロジャー・ウィリアムソン	1学期		2	139
	比較文化演習I (認知言語学) ダニエル・ストラック	2学期		2	140
	比較文化演習II (日米文化比較) ロジャー・ウィリアムソン	1学期		2	141
	■東アジア専攻	東アジア政治思想研究 金 鳳珍	1学期		2
近代中国政治史研究 横山 宏章		1学期		2	143
現代中国経済研究 白石 麻保		1学期		2	144
国際協力研究 大平 剛		1学期		2	145
国際政治経済研究 阿部 容子		1学期		2	146
安全保障研究 戸蒔 仁司		1学期		2	147
アメリカ風景論研究 乗口 眞一郎		1学期		2	148
イギリス地域研究 久木 尚志		1学期		2	149

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■東アジア専攻	北欧地域研究 五月女 律子	1学期		2	150
	東アジア政治思想演習 金 鳳珍	2学期		2	151
	近代中国政治史演習 横山 宏章	2学期		2	152
	現代中国経済演習 白石 麻保	2学期		2	153
	国際協力演習 大平 剛	2学期		2	154
国際政治経済演習 阿部 容子	2学期		2	155	
安全保障演習 戸蒔 仁司	2学期		2	156	
アメリカ風景論演習 乗口 眞一郎	2学期		2	157	
イギリス地域演習 久木 尚志	2学期		2	158	
北欧地域演習 五月女 律子	2学期		2	159	
■共通科目	現代英文学研究 田部井 世志子	1学期		2	160
	英語表現法I クレイグ・ランバート	1学期		2	161
	英語表現法II クレイグ・ランバート	2学期		2	162
中国語表現法I 鄧 紅	1学期		2	163	
中国語表現法II 鄧 紅	2学期		2	164	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■共通科目	アメリカ社会研究 中野 博文	2学期		2	165
	中国社会史研究 堀地 明	1学期		2	166
	現代英文学演習 田部井 世志子	2学期		2	167
	アメリカ社会演習 中野 博文	2学期		2	168
	中国社会史演習 堀地 明	2学期		2	169
■特別研究	特別研究 (M)IIA 田島 司	1学期	2	2	170
	2年				
	特別研究 (M)IIA 恒吉 紀寿	1学期	2	2	171
	2年				
	特別研究 (M)IIA 松尾 太加志	1学期	2	2	172
	2年				
	特別研究 (M)IIA 見玉 弥生	1学期	2	2	173
	2年				
	特別研究 (M)IIA 田中 信利	1学期	2	2	174
	2年				
特別研究 (M)IIA 石塚 優	1学期	2	2	175	
2年					
特別研究 (M)IIA 前田 譲治	1学期	2	2	176	
2年					
特別研究 (M)IIA 鄧 紅	1学期	2	2	177	
2年					
特別研究 (M)IIA 王 占華	1学期	2	2	178	
2年					
特別研究 (M)IIA ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	179	
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究	特別研究 (M)IIB 田島 司	2学期	2	2	180
		2年			
	特別研究 (M)IIB 恒吉 紀寿	2学期	2	2	181
		2年			
	特別研究 (M)IIB 松尾 太加志	2学期	2	2	182
		2年			
	特別研究 (M)IIB 見玉 弥生	2学期	2	2	183
		2年			
	特別研究 (M)IIB 田中 信利	2学期	2	2	184
		2年			
	特別研究 (M)IIB 石塚 優	2学期	2	2	185
		2年			
特別研究 (M)IIB 田部井 世志子	2学期	2	2	186	
	2年				
特別研究 (M)IIB 前田 譲治	2学期	2	2	187	
	2年				
特別研究 (M)IIB 鄧 紅	2学期	2	2	188	
	2年				
特別研究 (M)IIB 王 占華	2学期	2	2	189	
	2年				
特別研究 (M)IIB 伊藤 健一	2学期	2	2	190	
	2年				

マクロ経済学研究【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、所得・支出モデルやIS-LMモデルといった短期のマクロ経済分析のための基礎理論を解説することで、景気循環のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 3回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 4回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 5回 所得・支出モデル(1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 6回 所得・支出モデル(2) 【均衡GDP】
- 7回 所得・支出モデル(3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 8回 所得・支出モデル(4) 【財政政策】【均衡予算乗数】
- 9回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 10回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 11回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 12回 流動性選好理論(4) 【貨幣乗数】【コールレート】
- 13回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 14回 IS-LMモデル(2) 【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(3回) 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学研究【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析を網羅し、修得する。具体的に、消費者理論、生産者理論、そして市場理論を学習し、それらを用いての、現実の種々の経済問題への理論的分析手法を理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 消費者行動理論(1):【選好】【効用】【無差別曲線】
- 3回 消費者行動理論(2):【予算制約】最適消費量の決定
- 4回 消費者行動理論(3):【スルーツキー方程式】
- 5回 消費者行動理論(4):【補償需要】
- 6回 生産者行動理論(1):【生産物市場】【生産要素市場】
- 7回 生産者行動理論(2):【生産理論】
- 8回 生産者行動理論(3):【費用理論】
- 9回 生産者行動理論(4):最適供給量の決定
- 10回 厚生経済学(1):【エッジワースのボックス・ダイアグラム】
- 11回 厚生経済学(2):【パレート最適】
- 12回 厚生経済学(3):【厚生経済学の定理】
- 13回 市場と市場調整
- 14回 経済とミクロ経済分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30% レポートもしくは小テスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、市場、厚生経済学

財政学研究【昼】

担当者名 /Instructor 藤 貴子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

租税論を体系的に学ぶとともに、日本税制の形成過程や仕組みを理解し、現実の税制を理論的に考察する。そして日本税制の抱える課題とその解決策について検討する。

教科書 /Textbooks

森信茂樹『日本の税制—何が問題か』岩波書店 2010年 ¥3,456

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇波弘貴『図説 日本の税制(平成25年度版)』財経詳報社 2013年 ¥2,268
 三木義一『日本の税金 新版』岩波新書 2012年 ¥864
 橋本恭之・鈴木善充『租税政策論』清文社 2012年 ¥3,672

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、税制の機能・役割
- 第2回 課税理論、税の転嫁と帰着
- 第3回 租税理論—包括的所得税、支出税、最適課税論
- 第4回 消費課税の種類
- 第5回 日本税制の歴史と税体系
- 第6回 所得税の概要と日本の所得税の課題
- 第7回 所得税をめぐる議論
- 第8回 社会保障と所得税
- 第9回 法人税の概要と課題
- 第10回 租税理論と所得課税
- 第11回 相続税の概要と課題
- 第12回 消費税の基本的仕組みと課題
- 第13回 地方分権と消費税
- 第14回 地方税の課題
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、小テスト(2回)40%、日常の授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。
 なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。適宜、学部レベルの財政学のテキストや参考文献等を参照して、復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、教科書を読んで予習をした上で受講すること。

キーワード /Keywords

財政 租税

国際金融論研究【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの全容を知ることが目的とする。新聞・ニュースの経済関係の報道内容を理解できるとともに、国際金融に関する諸問題について、自ら課題を設定し、論理展開し、レポートを作成できるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

川本明人 (2012) 『外国為替・国際金融入門』中央経済社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 外国為替とは何か
- 2回 外国為替取引の仕組み
- 3回 外国為替相場の種類
- 4回 外国為替相場の変動要因
- 5回 為替相場理論の古典と現代
- 6回 為替相場水準の考え方
- 7回 円相場の変動と為替リスク
- 8回 為替リスクと回避策
- 9回 資金取引のグローバル化
- 10回 国際収支の構造
- 11回 主要国の国際収支
- 12回 国際収支と為替相場
- 13回 国際金本位制の成立と崩壊
- 14回 プレトンウッズ体制の成立と崩壊
- 15回 変動相場制と欧州通貨統合

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 ... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

新聞・ニュースに触れる習慣を身につけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済政策論研究【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本で採用されたまたは採用している経済政策に関して国際比較をしながら学習する。産業政策、公共政策、雇用政策、社会福祉政策などを詳細に学習する。経済の国際化、日本の急速な少子高齢化など経済状況の変化に応じて制度変更が実施されてきている。その点に注目して学習を進め、今後の経済政策のあり方について考察を深める。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①経済・社会に関する問題を解決するための経済政策の知識を身につける。
- ②現実の経済問題を設定し、その解決策を考えることができる。

教科書 /Textbooks

『経済政策の考え方』河合正弘・武蔵武彦・八代尚宏著、有斐閣アルマ
『銀行の破綻と競争の経済学』菊池英博、東洋経済新報社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 経済政策論とは - 経済政策の必要性 -
- 2回 政府の役割 - 市場の失敗と政府の役割 - (1)【市場経済】【市場の失敗】
- 3回 政府の役割 - 市場の失敗と政府の役割 - (2)【政府の役割】【政府の失敗】
- 4回 産業政策(1)【市場の理論と企業の参入・退出について】
- 5回 産業政策(2)【農業政策について】
- 6回 産業政策(3)【経済のグローバル化と産業空洞化について】
- 7回 公共政策(1)【公共政策の理論】
- 8回 公共政策(2)【公益事業について】
- 9回 公共政策(3)【環境政策について】
- 10回 雇用政策(1)【失業対策について】
- 11回 雇用政策(2)【雇用維持・拡大政策の理論】
- 12回 福祉政策(1)【公的年金制度について】
- 13回 福祉政策(2)【公的医療政策について】
- 14回 福祉政策(3)【福祉政策の課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30% ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

経済政策論研究では、広範にわたる分野を深く学習するため、毎回予習が必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論研究【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ゲーム理論をベースに不完全競争かつ様々な経済環境での企業行動や企業戦略・産業の動きに関して解説を行う。特に市場構造に注目して講義を行う。また、理論とその実証分析に力点を置き、最新の先行研究も紹介しながら、解説を行う。学生は、講義に参加するだけでなく、道具を身につけるとい意識を持って出席して欲しい。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ Oz Shy. 1995. Industrial Organization. Cambridge, MA: MIT Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 産業組織論の概要
- 第2回 ミクロ経済学の復習
- 第3回 非協力ゲーム：静学ゲーム
- 第4回 非協力ゲーム：動学ゲーム
- 第5回 独占
- 第6回 寡占
- 第7回 寡占：カルテルと無限繰り返しゲーム
- 第8回 寡占：クールノーの極限定理
- 第9回 寡占：差別化された財とProduct Positioning
- 第10回 独占的競争
- 第11回 価格差別
- 第12回 産業動学
- 第13回 ネットワーク外部性
- 第14回 情報の役割
- 第15回 Marketing

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学研究【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

まず、統計処理ソフトウェアSASに習熟する。SASのデータステップ、プロシジャステップ、EXCELとの連携の仕方を学ぶ。次にCAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数などの経済理論を簡単に学習し、これらを題材にしたデータ解析の技術の習得を目指す。

到達目標

- ①SASによる統計解析ができるようになる。
- ②回帰分析の理論を理解し、実証分析に利用できるようになる。
- ③CAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数などの実証分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

E. R. Berndt, The Practice of Econometrics, Addison-Wesley Publishing Company, Inc., 1991.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 SASデータステップ
- 2 SASプロシジャステップ
- 3 SASとEXCEL
- 4 SAS出力の読み方
- 5 CAPMの初歩
- 6 CAPMの理論
- 7 CAPMの演習
- 8 CAPMと日本市場
- 9 人的資本論の初歩
- 10 人的資本論の理論
- 11 人的資本論の演習
- 12 人的資本論と日本経済
- 13 ヘドニック価格指数の初歩
- 14 ヘドニック価格指数の理論
- 15 ヘドニック価格指数の演習

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

統計学研究を既習していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SAS、CAPM、人的資本論、ヘドニック価格指数

計量経済学研究【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

経済学の実証分析でよく用いられる計量経済学的手法について学習する。学部レベルの統計学・計量経済学の知識を復習したのち、回帰分析をやや理論的に取扱う。経済データの特徴に対応した計量分析手法として、制限従属変数、時系列分析、パネルデータを扱う。理論的な展開と実証分析事例を平行させて理解を深める。
到達目標は、利用可能なデータと分析目的が与えられたときに、適切な分析手法を選択できることである。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトライン、統計学の復習(同時確率分布とモーメント)
- 2回 統計学の復習(推定、検定)
- 3回 計量経済学の復習(回帰分析、回帰診断、係数に関する検定)
- 4回 計量経済学の復習(系列相関と不均一分散、同時方程式)
- 5回 一般化最小二乗法による推定と検定
- 6回 同時方程式(識別問題)、SUR
- 7回 操作変数法、GMM
- 8回 最尤推定法
- 9回 母数に関する非線形制約の検定
- 10回 プロビット、ロジットモデル
- 11回 トービットモデル、サンプルセレクション
- 12回 時系列モデル1 (ARMA,VAR)
- 13回 時系列モデル2 (単位根,共和分)
- 14回 パネルデータ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト ... 80% , 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

数学の予備知識として、二次関数のグラフを描けるようにしておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済論研究【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

到達目標は、経済活動と都市との複雑な関わりを理解できるようになることである。
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市とは何か
2. 経済活動の場としての都市
3. 都市を支える人、物、情報のフロー
4. 交易と都市
5. 物財生産と都市
6. 都市化の進展
7. 工業都市から情報都市へ
8. 都市で行われる経済活動
9. 中心地論
10. 工業立地論
11. オフィス立地論
12. 都市システム論
13. コンピュータ・ネットワークと都市
14. 21世紀の都市像
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%
期末試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予備知識は不問となるよう努めます。
経済に対して強い関心を持っている方の参加を希望します。

キーワード /Keywords

経済史研究 【昼】

担当者名 山崎 勇治 / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

両大戦間期の世界経済の全体像を理解することができる。
そのことによって、現在のグローバル化した世界経済の実態をより正確に理解できる。
両大戦間期の主な流れは、ドイツとアメリカである。相対的安定期の形成と1929年世界恐慌の発生の関連が理解できる。
世界恐慌の打開策としてのニューディール政策、ナチス経済、大東亜共栄圏、英連邦の形成過程が理解できる。
恐慌の深化と各国の経済のブロック化、為替の切り下げ競争、その結果としての第2次世界大戦の必然性が理解できる。

教科書 /Textbooks

口述講義のため指定の教科書はなし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

塚本 健『ナチス経済』（東京大学出版会）
都留重人『アメリカ経済の発展』（勁草書房）
W.A Lewis, Economic Survey, 1919-1936, 6th ed., 1963.
林健太郎『両大戦間期の世界』（中央公論新書）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の目的と方法【両大戦間期】、【第一次世界大戦】
- 第2回 第1次大戦後の世界【ヨーロッパの没落】、【アメリカの台頭】、【ロシア革命】
- 第3回 ドイツの敗北とワイマール共和国、【ワイマール共和国】、【賠償金】【福祉国家】
- 第4回 賠償金問題とM. ケインズ【ルール地方】【天文学的インフレ】
- 第5回 ドーズ案とドイツの金本位制復帰【ドーズ案】【金本位制復帰】
- 第6回 第1次大戦後のアメリカ【永遠の繁栄】【自動車産業】【住宅産業】【総合産業】
- 第7回 アメリカ経済構造の問題と過剰資本【フォード】【自己金融】【過剰資本】
- 第8回 相対的安定期のドイツ経済【合理化投資】【短期資本】【相対的安定期】
- 第9回 アメリカのバブル経済の構造と暗黒の木曜日【バブル経済】【ウォール街】
- 第10回 ルーズベルト大統領とニューディール政策【ポンプの呼び水政策】【財政政策】
- 第11回 ヒットラーとナチス経済(1)【労働振興手形】【メフォ手形】【アウトパン】
- 第12回 ヒットラーとナチス経済(2)【ナチス経済圏】【第2次世界大戦】
- 第13回 両大戦間期のイギリス経済
- 第14回 世界恐慌と英連邦の形成過程
- 第15回 両大戦間期と現在との比較一結びに代えてー

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度20%、発表20%、試験60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を毎日読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用地域科学研究【昼】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、「地域科学」(Regional Science)についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、施策志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。ここで「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的で、しかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深く、しかも忍耐強く調査研究を試みるものである」という。

教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎1
- 5回 地域経済分析の基礎2
- 6回 地域経済分析の基礎3
- 7回 産業連関分析の基礎1
- 8回 産業連関分析の基礎2
- 9回 産業連関分析の基礎3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニック
- 15回 期末レポート発表および討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の学習態度深度、20% : レポート発表、30% : レポートの内容、50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計学研究【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Iでは財務会計の基礎に焦点を当てることにする。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義〈第14版〉』（中央経済社）、桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門（第8版2訂）』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心にテーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計研究 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理ははまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

教科書 /Textbooks

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 財務会計入門
- 2 回 収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
- 3 回 収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
- 4 回 収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
- 5 回 資産・負債アプローチの概要【意思決定有用性アプローチ】
- 6 回 資産・負債アプローチの理論構成【資産】【負債】【純資産】【資本等式】
- 7 回 資産・負債アプローチの問題点【純利益】【包括利益】
- 8 回 会計観の転換について【原価】【時価】【割引現在価値】
- 9 回 旧態の会計の諸問題【企業会計原則】【企業会計基準】
- 10 回 旧態の会計の存続可能性【内的整合性】
- 11 回 現代会計の諸問題【退職給付会計】
- 12 回 現代会計の諸問題【資産除去債務】
- 13 回 IFRSの検討【減損会計】
- 14 回 IFRSの検討【公正価値会計】
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に収益・費用アプローチと資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネットで学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計研究 【昼】

担当者名 /Instructor 梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

管理会計とは、会計学のうちで企業内部者、たとえば経営者や事業部長などの合理的な意思決定に役立つ会計情報について研究する分野である。本講義では、管理会計理論の応用分野の知識を深めることを目的とする。

履修者には、テキストの担当個所のレジユメを作成の上、パワーポイントで報告してもらう。

教科書 /Textbooks

佐藤紘光・齋藤正章『改訂新版 管理会計』放送大学教育振興会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 管理会計概論(1)
- 3回 管理会計概論(2)前半
- 4回 管理会計概論(2)後半
- 5回 管理会計概論(3)前半
- 6回 管理会計概論(3)後半
- 7回 資本予算(1)前半
- 8回 資本予算(1)後半
- 9回 資本予算(2)前半
- 10回 資本予算(2)後半
- 11回 株主価値を高める事業戦略 前半
- 12回 株主価値を高める事業戦略 後半
- 13回 株主価値と経営計画 前半
- 14回 株主価値と経営計画 後半
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...61% レポート...39% (全13回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルの「管理会計論」と「企業ファイナンス」の知識は習得済みであること。

毎回レポートを課します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学研究【昼】

担当者名 /Instructor 晴山 英夫 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスの論争を整理・検討する。

教科書 /Textbooks

今西宏治著 『株式会社の権力とコーポレート・ガバナンス』 文真堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

加護野・砂川・吉村共著 『コーポレート・ガバナンスの経営学』 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者は、毎回、テーマについて報告し、討議を行う。

- 1 - 2回 企業の支配構造の分析
- 3 - 4回 企業主権の検討
- 5 - 7回 内部統治の検討
- 8 - 11回 ガバナンスの国際比較 (アングロサクソン型、ライン型、日本型、中国型)
- 12 - 14回 日本のガバナンス改革
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%、討議 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

株式会社論の基礎知識を習得しておくのが望ましい。

キーワード /Keywords

経営戦略論研究【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。
到達目標は以下のとおりです。
・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究目的を考慮したうえで、経営戦略論の代表的文献の中から指定します。
昨年度使用教科書
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。
また、随時レポートの提出を求めます。
第1回 ガイダンス
第2～14回 上記テキスト各章を輪読、および討議。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。
学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

企業論研究【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

テーマ=持株会社の研究

我が国で戦後一貫して、その設立を禁止されていた持株会社が、ついに解禁された。1997年に持株会社が解禁されたのである。早くも現在、日本の巨大金融グループ・事業グループにおいて、積極的に利用され、その姿を現実のものとしている。そこで、講義では、持株会社の設立・持株会社の経営・持株会社のガバナンス（機関）を中心に学習していく。

ア、持株会社の設立～株式交換と株式移転

イ、持株会社の経営～迅速な意思決定とは。親会社の機能。

ウ、持株会社とガバナンス～親会社と子会社の新たな関係

教科書 /Textbooks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 1、企業論関係～①下谷正弘『持株会社解禁』中公新書、1996年・②下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣(○)、2006年・③ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年。
- 2、法律関係～①前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年(○)・②岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年(○)・③布井千博『会社法』新世社、2011年。
- 3、各社アニュアルレポート、EDINET

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 企業形態論1
- 2回 企業形態論2
- 3回 株式会社1
- 4回 株式会社2
- 5回 株式会社3
- 6回 株式会社と証券市場1
- 7回 株式会社と証券市場2
- 8回 ガバナンス1
- 9回 ガバナンス2
- 10回 ガバナンス3
- 11回 持株会社1
- 12回 持株会社2
- 13回 持株会社とガバナンス1
- 14回 持株会社とガバナンス
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レジュメの報告と内容。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

課題

- ①ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書、2006年を、四百字詰原稿用紙で10枚以上にまとめてみる。
- ②持株会社解禁によって、どのような問題が発生しているのか、新聞記事を中心にまとめてみる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態(個別企業形態と企業集中形態)・株式会社(公開株式会社・公開会社・非公開会社)・持株会社(事業持株会社と純粋持ち株会社)・ガバナンス(持株会社のガバナンス)

マクロ経済学演習【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

マクロ経済分析基礎（1学期開講）に引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、物価とマクロ経済の関係（AD-ASモデル）、伸縮価格モデル（価格や賃金が伸縮的に調整されるモデル）を分析の出発点に据える新古典派マクロ経済学の理論構造、経済成長のメカニズムなどである。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 IS-LMモデルの復習 【IS曲線】【LM曲線】【財政・金融政策】
- 3回 AD-ASモデル（1） 【総需要曲線】【総供給曲線】
- 4回 AD-ASモデル（2） 【デマンドプル・インフレ】【コストプッシュ・インフレ】【スタグフレーション】
- 5回 ケインズ体系と新古典派体系の比較：概観
- 6回 新古典派マクロ経済学（1） 【労働供給】【均衡賃金】
- 7回 新古典派マクロ経済学（2） 【自然失業率仮説】【財政政策】
- 8回 新古典派マクロ経済学（3） 【貨幣需要】【貨幣の中立性】【貨幣的景気循環】
- 9回 新古典派マクロ経済学（4） 【2期間モデル】【完全予見】
- 10回 新古典派マクロ経済学（5） 【実物的景気循環】【労働供給の分割不可能性】
- 11回 新古典派マクロ経済学（6） 【ニューケインジアン】【価格硬直性】
- 12回 新古典派成長理論（1） 【潜在的GDP】【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 新古典派成長理論（2） 【新古典派成長理論】
- 14回 新古典派成長理論（3） 【収束】【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（3回） 30% 期末試験 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学演習【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的なミクロ経済学の展開について学習し、ミクロ経済分析の論理と方法について理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 不完全競争の経済分析(1):【独占】、価格差別
- 3回 不完全競争の経済分析(2):【クールノー・ナッシュ均衡】
- 4回 不完全競争の経済分析(3):【寡占】、【独占的競争】
- 5回 不完全競争の経済分析(4):まとめ
- 6回 不確実性と情報の経済分析など(1):【不確実性】、【リスク】、
- 7回 不確実性と情報の経済分析など(2):【逆選択】【道徳的危険】
- 8回 不確実性と情報の経済分析など(3):【情報】、【シグナル】
- 9回 不確実性と情報の経済分析など(4):まとめ
- 10回 ゲーム理論とミクロ経済分析(1):ゲームの種類、ゲームの均衡概念
- 11回 ゲーム理論とミクロ経済分析(2):【非協力ゲーム】【同時ゲーム】
- 12回 ゲーム理論とミクロ経済分析(3):【逐次ゲーム】
- 13回 ゲーム理論とミクロ経済分析(4):【協力ゲーム】
- 14回 ミクロ経済分析の応用
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30% レポートもしくはテスト 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容を理解するために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと。

キーワード /Keywords

不完全競争、不確実性、情報、ゲーム理論

財政学演習【昼】

担当者名 /Instructor 藤 貴子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本では、2014年4月より消費税率が引き上げられ、消費税収は所得税収を上回る可能性が高い。経済のグローバル化は、各国の租税政策に大きな影響を与えており、このような所得税の地位低下は日本に限るものではない。この授業では、重要性を増す消費課税について、その理論的論拠とされる支出税の理論と思想を検討するとともに、最適課税論に基づく税制の包括的提案書であるマーリーズ報告を概観し、現代税制の将来展望を考察する。

教科書 /Textbooks

宮本憲一・鶴田廣巳・諸富徹編著『現代租税の理論と思想』有斐閣 2014年2月発行予定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮島洋『租税論の展開と日本の税制』日本評論社 1986年 ¥3,680
 八田達夫『消費税はやはりいらない』東洋経済新報社 1994年 ¥1,836
 宮本憲一・鶴田廣巳編著『所得税の理論と思想』税務経理協会 2001年 ¥3,564

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、消費課税について
- 第2回 支出税の理論と思想について概論
- 第3回 現代支出税論の源流(ホップズ・ミル・ピグー)
- 第4回 アーヴィング・フィッシャーの『支出税』の特徴と意義
- 第5回 カルドア『総合消費税』の理論と特徴
- 第6回 ウィリアム・ヴィックリーの支出税論
- 第7回 カーター報告の現代的意義
- 第8回 アンドリュースによる『現代的支出税』構想
- 第9回 ミード報告とイギリス型支出税
- 第10回 アメリカの消費ベース課税思想
- 第11回 古典的支出税論と現代的支出税論まとめ
- 第12回 経済活動のグローバル化と法人課税(マーリーズ・レビュー)
- 第13回 現代付加価値税の論理と課題(マーリーズ・レビュー)
- 第14回 課税ベースの選択と現代租税論の課題
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、小テスト(2回)40%、日常の授業への取り組み20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業は、基本的に講義形式で行う。
 なお、学部レベルの財政学を前提として講義を行う。適宜、学部レベルの財政学のテキストや参考文献等を参照して、復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、教科書を読んで予習をした上で受講すること。

キーワード /Keywords

財政 租税

国際金融論演習【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの基本的な枠組みと運動メカニズムを学ぶ。さらに、国際通貨・金融危機の原因とその対処など、国際金融システムが直面する諸課題について、学習する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【実為替レート】 【実効為替レート】
- 3回 国際収支表の概要 【経常収支】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 並為替と逆為替 【コルレス銀行】
- 6回 荷為替信用制度と決済 【信用状】
- 7回 グローバル化と直接投資 【投資収支】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【対外資産・負債】
- 9回 為替レートを左右するもの 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動が与える影響 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 経常収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際資本移動を左右するもの 【キャリー取引】
- 13回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 14回 国際通貨・金融危機の原因 【国際資本移動】
- 15回 危機の予防と対処 【IMFコンディショナリティー】 【プルーデンス政策】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済政策論演習【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を復習しながら、さらに応用的に金融に関する各種データを分析をする。理論と現実の整合性やギャップを確認する。さらに、今後の金融のあり方について、銀行経営や金融市場の側面から検討する。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の金融市場
- 3回 家計の金融活動
- 4回 企業の金融活動
- 5回 情報の非対称性と金融システム【アドバース・セレクション】
- 6回 情報の非対称性と金融システム【モラル・ハザード】
- 7回 金融仲介機関の存在理由
- 8回 地域金融と地域経済【地方銀行、第2地方銀行】
- 9回 地域金融と地域経済【信用金庫、信用組合など】
- 10回 銀行経営とガバナンス【BIS規制】
- 11回 銀行経営とガバナンス【内部ガバナンス】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化以前の財政投融资計画】
- 13回 郵政民営化【経営形態とその問題点】
- 14回 証券化と金融市場
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・30%、ディスカッションへの貢献・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

金融に関する学部レベルの知識をもっていると理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論演習【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

構造型推定のベースとなっている離散選択理論について解説を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Kenneth Train. 2009. Discrete Choice with Simulation. 2nd. Cambridge University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：はじめに
- 第2回：properties of discrete choice models
- 第3回：logit model
- 第4回：probit model
- 第5回：generalized extreme value model
- 第6回：mixed logit model
- 第7回：individual-level parameters
- 第8-10回：aggregate data type
- 第11回：numerical maximization
- 第12回：drawing from densities
- 第13回：simulation estimation
- 第14回：EM algorithms
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

統計学、計量経済学、微積分学、線形代数の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学演習【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

到達目標

- ① 統計的推定と検定を理解する。
- ② 正規分布をはじめとする密度関数の性質を理解する。
- ③ 漸近分布の概念を理解する。

教科書 /Textbooks

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 離散型確率変数
- 2 連続型確率変数
- 3 離散型確率変数の同時分布
- 4 連続型確率変数の同時分布
- 5 二項分布
- 6 ポアソン分布
- 7 ガンマ分布
- 8 正規分布
- 9 二変数正規分布
- 10 漸近分布
- 11 点推定
- 12 区間推定
- 13 統計的検定の初歩
- 14 一様最強力検定
- 15 尤度比検定

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績による (100%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

高校数学Cの確率統計を既習していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

計量経済学演習【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

実証分析の論文を読み、経済理論をどのようにして実際のデータで分析するのかを学ぶ。理論モデルに合わせた計量モデルの構築、データの収集とその検討、計量モデルの推定と検定、統計分析結果の報告の仕方と解釈、政策的合意の導出までの一定のプロセスを実例を用いて経験することが目的である。余裕があれば、コンピュータを用いた簡単な分析を体験する。

教科書 /Textbooks

適宜、実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 コースアウトライン、問題の背景→統計モデルの設定→推定・検定→解釈のシンプルな例を紹介
- 2回 回帰分析による実証分析：なぜ回帰分析を用いなければならないのか
- 3回 回帰分析による実証分析：回帰分析からどのような結論を引き出せるか
- 4回 パネルデータによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 5回 パネルデータによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 6回 パネルデータによる実証分析：パネルデータ用モデル特有の統計的推測
- 7回 多項ロジットモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 8回 多項ロジットモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 9回 多項ロジットモデルによる実証分析：多項ロジットモデル特有の統計的推測
- 10回 カウントデータモデルによる実証分析：なぜ通常の回帰分析ではだめなのか
- 11回 カウントデータモデルによる実証分析：理論的な特徴と応用事例との関係
- 12回 カウントデータモデルによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 13回 VARによる実証分析：通常の計量経済学モデルとどこが違うか
- 14回 VARによる実証分析：どのような結論を引き出せるか
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80% , 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域経済論演習【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

かつては、工場や工業地帯が地域経済を支える基盤であったが、今日ではその役割は都市が引き受けている。これは、経済活動の変化がもたらしたものであるが、その背後には経済を取り囲む諸環境の変化がある。本授業では、このような環境変化の中心に技術革新があると考え、特に今日のコンピュータ・ネットワークの急速な発達に都市経済にどのような影響を及ぼすかについて解説する。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 経済と環境
2. 技術について
3. 情報化社会と情報技術
4. 空間克服技術
5. 空間克服技術としてのコンピュータ・ネットワーク
6. 空間的フローについて
7. 情報のキャリアーとしての人間
8. 都市集積の理論
9. 光速の情報流の経済的意味
10. コンピュータの社会化の歴史
11. 企業の変容
12. Web 2.0はどこに
13. イノベーションと都市
14. 21世紀の都市
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%
試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「情報社会と都市」について一緒に考えたいと思います。

キーワード /Keywords

経済史演習【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

EUの形成過程を見る。戦後、欧州石炭鉄鋼共同体が形成され、それが発展してEU欧州連合へと結実していった。EUは、第2次世界大戦の反省から生まれたものといえる。そのEUが経済危機に直面している。いったいなぜそうなったのか。そしてEUの将来はいかなる方向に展開するのか。こういった問題意識が理解できる。具体的には第1に、欧州石炭鉄鋼共同体からEUまでの発展過程が理解できる。第2に、政治統合を目指すEUのコアとなったユーロについて理解ができる。第3に、西欧を中心として結成されたEUに、東欧や南欧諸国が加盟したことによってどんな問題が発生したのかが理解できる。最後に、ギリシャ危機やスペイン、アイルランドの財政危機とユーロ安の問題を取り上げ、それらが理解できる。これらの考察を通じて、EUの将来を見極めることができる。

教科書 /Textbooks

口述講義

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 第2次大戦後の世界経済
- 第2回 アメリカ主導のIMFとGATTの形成
- 第3回 アメリカ主導のIMFとGATTの形成
- 第4回 マーシャルプランと欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC)
- 第5回 ECSCの形成とその意図
- 第6回 欧州経済共同体 (EEC)の発足
- 第7回 欧州共同体 (EC)の発足
- 第8回 マーストリヒト条約と欧州連合 (EU)
- 第9回 統一通貨ユーロの導入
- 第10回 ユーロ導入の条件と財政問題
- 第11回 南欧諸国のEC加盟とユーロ問題
- 第12回 なぜギリシャはECに加盟できたのか
- 第13回 ギリシャ財政危機とEU首脳国の対応
- 第14回 ユーロ安と日本の円高の関係
- 第15回 EUの将来—結びに代えて—

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストおよびレポート 20%、発表 30%、定期試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日本経済新聞を毎日読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用地域科学演習【昼】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、施策志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。ここで「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的で、しかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深く、しかも忍耐強く調査研究を試みるものである」という。

教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎 1
- 5回 地域経済分析の基礎 2
- 6回 地域経済分析の基礎 3
- 7回 産業連関分析の基礎 1
- 8回 産業連関分析の基礎 2
- 9回 産業連関分析の基礎 3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用 1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用 2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニック
- 15回 期末レポート発表および討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の学習態度深度、20% : レポート発表、30% : レポートの内容、50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

会計学演習【昼】

担当者名
/Instructor

白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的な原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学IIではより高度な会計学の専門的内容を取り扱うことになる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義（第14版）』（中央経済社）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心にテーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計演習 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

教科書 /Textbooks

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○
西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務報告の目的【財務報告】
- 2回 「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
- 3回 会計情報の質的特性【意思決定有用性】
- 4回 「会計情報の質的特性」の検討【関連性】【内的整合性】【信頼性】
- 5回 財務諸表の構成要素【資産】【負債】【純資産】
- 6回 「財務諸表の構成要素」の検討【資本等式】
- 7回 財務諸表における認識と測定(その1)【認識】
- 8回 財務諸表における認識と測定(その2)【測定】
- 9回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その1)【写像】【築像】
- 10回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その2)【定量化】【定性化】
- 11回 財務報告の問題点(その1)【財務報告】【非財務報告】
- 12回 財務報告の問題点(その2)【純利益】【包括利益】
- 13回 概念フレームワークと実証研究【実証性】
- 14回 財務報告とその他の重要な論点【会計基準】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況・・・ 60% レポート・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

本講義は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としているので、事前に収益・費用アプローチと資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネットで学習しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

管理会計演習 【昼】

担当者名 /Instructor 梅澤 俊浩 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

管理会計とは、会計学のうちで企業内部者、たとえば経営者や事業部長などの合理的な意思決定に役立つ会計情報について研究する分野である。本講義では、管理会計理論の応用分野の知識を深めることを目的とする。

履修者には、テキストの担当箇所についてレジュメを作成の上、パワーポイントで説明をしてもらう。

教科書 /Textbooks

佐藤紘光・齋藤正章『改訂新版 管理会計』放送大学教育振興会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の方針、内容や評価についての説明
- 2回 管理会計概論(1)
- 3回 管理会計概論(2)前半
- 4回 管理会計概論(2)後半
- 5回 管理会計概論(3)前半
- 6回 管理会計概論(3)後半
- 7回 資本予算(1)前半
- 8回 資本予算(1)後半
- 9回 資本予算(2)前半
- 10回 資本予算(2)後半
- 11回 株主価値を高める事業戦略 前半
- 12回 株主価値を高める事業戦略 後半
- 13回 株主価値と経営計画 前半
- 14回 株主価値と経営計画 後半
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...61% レポート...39% (全13回×3点)

* 各評価指標のウェイトが若干変更する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部レベルの「管理会計論」と「企業ファイナンス」の知識は習得済みであること。

毎回レポートを課します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学演習【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本の企業経営について考える。

教科書 /Textbooks

「失われた20年」の間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、その原因を探っていく。関連する資料を随時、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の内容について解説する。
2回 - 15回 1つ1つの企業を取り上げ、その経営内容について考えていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、討議50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論演習【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。
到達目標は以下のとおりです。
・ 経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
・ その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究目的を考慮したうえで、経営戦略論の代表的文献の中から指定します。
昨年度使用教科書
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。
また、随時レポートの提出を求めます。
第1回 ガイダンス
第2～14回 上記テキスト各章を輪読、および討議。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20% 発表・報告内容80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。
学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

企業論演習【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近年、盛んに議論されている企業統治（コーポレートガバナンス）論について学習及び研究していく。なかでも、「純粹持株会社とコーポレートガバナンス」というテーマで研究していく。

1700年代後半、早くもアダム・スミスは、その著『国富論』において、株式会社とは無責任な会社であると警告していた。出資者たる株主および雇われ経営者も会社経営に無頓着であると。その後も、こうした警告・注意は、ある意味で途絶えることはなかった。我が国において戦後、順調にその軌跡を展開した日本企業もバブル崩壊後、大転換・再編を迫られた。同時に、この大転換の中にあつて、出資者・経営者・会社間のバランスを根源的に問題にする企業統治（コーポレートガバナンス）論が盛んとなること自体、当然のことでもあった。

なかでも、1997年に持株会社が解禁され、親会社と子会社との間に新たな関係が展開されている。いわゆる戦略本社としての親会社と経営の現場としての子会社との関係。しかし、子会社の株主は基本的に一人株主たる親会社である。では、この親会社は、子会社が発生せしめたトラブル・問題・企業不祥事等にどのように、対応するのであろうか。ここに、企業統治（コーポレートガバナンス）問題の新たな局面がある。

授業では、こうした持株会社にかかわる企業統治（コーポレートガバナンス）問題を学習・研究していく。

研究テーマに応じた参考文献を担当者が紹介・指示するとともに、受講者が参考文献一覧を作成し、その中から必要な文献を順次講読・検討していく。

教科書 /Textbooks

下谷正弘の持株会社に関する文献3冊(人数如何では、こちらから用意します)。

『持株会社解禁』中公新書、1996年

『持株会社の時代』有斐閣、2006年

『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

持株会社に関する文献。

1、企業論関係～①箱田(他)編『持株会社の実務～第5版～』東洋経済新報社、2007年・②高橋宏幸『戦略的持ち株会社の経営』中央経済社、2007年。

2、法律関係～①前田重行『持株会社法の研究』商事法務、2012年・②岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、2012年。

3、各社アニュアルレポート、EDINET

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 過去の研究テーマの紹介・説明
- 2回 研究テーマの設定
- 3回 参考文献表の作成
- 4回 論文構成について
- 5回 英語参考文献の紹介と精読
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 第1回プレゼンテーション
- 13回 第2回プレゼンテーション
- 14回 第3回プレゼンテーション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 ... 60% 学習態度(他者の発言に対して質問をする・予習や復習をする) ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店、2009年を学習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習にも時間を費消しましょう。

企業論演習【昼】

キーワード /Keywords

企業形態・ガバナンス・持株会社・持株会社の機能

英米文学研究II (現代米文学) 【昼】

担当者名 /Instructor スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Anglo-American Modernism: The course looks at emergence of 20th century Modernism beginning in late 19th century and continuing through early 20th century. Course considers early critique and rejection of 19th century Romantic celebration of self, origins of Modernist attitudes in European Aestheticism, emphasis on place of artist within a tradition (and exploration of alternative 'traditions'), arguments for "classicism," as well as first experimental writing in Modernist mode.

教科書 /Textbooks

Printed materials provided by instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Modernism: Contemporary Perspectives
- 2 回 A Great Tradition?
- 3 回 Contextualizing Modernism: 19th century Aestheticism
- 4 回 Pre-Modernism--Henry James
- 5 回 Pre-Modernism--Henry James
- 6 回 Pre-Modernism--Willa Cather
- 7 回 The New Classicism--T.E. Hulme
- 8 回 T. E. Hulme
- 9 回 Ezra Pound--Imagism and Early Poetry
- 1 0 回 Pound--heroic ideals?
- 1 1 回 T. S. Eliot and the Modernist anti-hero, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"
- 1 2 回 Eliot, "The Love Song of J. Alfred Prufrock"
- 1 3 回 Eliot, Essays
- 1 4 回 Eliot, Essays
- 1 5 回 Review and Summation

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 25 % Participation ... 25 % Term paper ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Admission to the Graduate Program in English and American Literature.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Modernism, Aestheticism, New Classicism, T. E. Hulme, Ezra Pound, T. S. Eliot

英米文学研究Ⅲ (英文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Henry JamesとVirginia WoolfとJames Joyceの代表作を比較検討しながら、語り手の視点の特徴、語り手と「映し手」(reflector)の関係、語り手の潜在化の度合い、「映し手」の内的焦点化の深度等を順次分析する。

教科書 /Textbooks

『英国小説の「語り」の構造』(開文社出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『鳩の翼』(講談社)
『ダロウェイ夫人』(みすず書房)
『若き日の芸術家の肖像』(新潮文庫)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回序論
- 2 回『鳩の翼』叙述分析(語り手)
- 3 回『鳩の翼』叙述分析(作中人物)
- 4 回『鳩の翼』叙述分析(語りの特徴)
- 5 回『鳩の翼』構造分析
- 6 回『ダロウェイ夫人』叙述分析(語り手)
- 7 回『ダロウェイ夫人』叙述分析(作中人物)
- 8 回『ダロウェイ夫人』叙述分析(語りの特徴)
- 9 回『ダロウェイ夫人』構造分析
- 10 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析(語り手)
- 11 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析(作中人物)
- 12 回『若き日の芸術家の肖像』叙述分析(語りの特徴)
- 13 回『若き日の芸術家の肖像』構造分析
- 14 回『鳩の翼』と『ダロウェイ夫人』の叙述比較
- 15 回『鳩の翼』と『ダロウェイ夫人』と『若き日の芸術家の肖像』の叙述比較

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

扱う小説をしっかりと読み込んでおく。課題にword fileで回答する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究Ⅲ (翻訳) 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The goal of this seminar functions as translation as well as familiarize with working knowledge of theories on translation. Varieties of theoretical framework will be introduced to students to prepare for professional work in their own fields. Students are recommended to locate their own research topic for class projects.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

教科書 /Textbooks

Theories of Translation R.Schulte and J. Biguenet Cambridge University Press ¥6,528

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introductory Lecture.
- Week 2 On the Art of Translation.
- Week 3 On Translation.
- Week 4 On Language and Words
- Week 5 From On the Different Methods of Translating.
- Week 6 From Introduction to His Translation of Agamemnon.
- Week 7 Translations.
- Week 8 Preface to The Early Italian Poets.
- Week 9 On the Problem of Translation.
- Week 10 The Task of Translator.
- Week 11 Guido's Relations.
- Week 12 Knowing translation.
- Week 13 Towards characterizing translator experience.
- Week 14 An evidence-based approach to applied translation studies
- Week 15 The difference that translation makes and Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

It is required to submit a term paper in English of more than 2,000 words.
in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

英米文学演習II (現代米文学) 【昼】

担当者名 /Instructor スコット・ピュー / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

Modernism II: Course undertakes survey of key developments in English and American literature from High Modernist period to emergence of Postmodernist fiction and poetry in mid-20th century. Discussion addresses repercussions of First World War and subsequent disillusion, Modernist critique of Western civilization, emergence of a new parodic 'voice,' and intimations of a new Postmodernist attitude in art and literature.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Modernism in Historical and Cultural Context
- 2 回 T. S. Eliot, "The Waste Land"
- 3 回 Eliot, "The Waste Land"
- 4 回 Eliot, "The Waste Land"
- 5 回 James Joyce, "The Dead"
- 6 回 Joyce, "The Dead"
- 7 回 Ernest Hemingway, "In Our Time"
- 8 回 Hemingway, "In Our Time"
- 9 回 Jazz Age and Disillusion
- 10 回 F. Scott Fitzgerald, "The Great Gatsby"
- 11 回 Fitzgerald, "The Great Gatsby"
- 12 回 Samuel Beckett, "Waiting for Godot"
- 13 回 Beckett, "Waiting for Godot"
- 14 回 Beckett, "Waiting for Godot"
- 15 回 Review and Summation

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation ... 25 % Participation ... 25 % Term Paper ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Admission to the Graduate Program in English and American Literature.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Modernism, Postmodernism, T. S. Eliot, James Joyce, Hemingway, Fitzgerald, Beckett

英米文学演習Ⅲ (英文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 木下 善貞 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文学テキスト叙述分析を体得する。Anthony Trollopeの代表作Framley Parsonage を扱う。語り手の視点の取り方、語り手の視点の特徴、語りの技法等を順次分析する。

教科書 /Textbooks

Anthony Trollope :Framley Parsonage (Penguin Books)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その他適宜プリントを配布してテキストとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回序論
- 2 回 Chapter 1 - 4
- 3 回 Chapter 4 - 7
- 4 回 Chapter 8 - 11
- 5 回 Chapter 12 - 15
- 6 回 Chapter 16 - 19
- 7 回 Chapter 20 - 23
- 8 回 Chapter 24 - 27
- 9 回 Chapter 28 - 31
- 10 回 Chapter 32 - 35
- 11 回 Chapter 36 - 39
- 12 回 Chapter 40 - 43
- 13 回 Chapter 44 - 48
- 14 回 Chapter 1 - 23章の総括
- 15 回 Chapter 24 - 48章の総括。結論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストをしっかりと読み込んでおく。議長と発表者として議論の展開に積極的にとりくんでもらう。課題にword fileで回答する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学演習Ⅲ (翻訳) 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold:

1. To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
2. To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
3. To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

教科書 /Textbooks

Printed Material:
Visual Material: (News, Speech Scripts)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introductory Lecture
- Week 2 Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
- Week 3 Issues in translation: English grammar and recommended solutions
- Week 4 Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
- Week 5 Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
- Week 6 Project Work (I): Relevance-theoretic Approach.
- Week 7 Project Work (II): Translation Principles.
- Week 8 Project Work (III): Communication Situations
- Week 9 Communicative Clues
- Week 10 Inter-lingual Interference
- Week 11 Direct Translation and Indirect Translation
- Week 12 A Unified Account of Translation
- Week 13 Research Program: Planning and structuring
- Week 14 Research Program: Presentation technique and criticism
- Week 15 Course review

成績評価の方法 /Assessment Method

in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam (60%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

中国文学研究II (中国古典文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は「王昭君文学史研究」と題する。中国の漢代に実在し、匈奴に嫁した悲劇の女性王昭君を描いた記録や文学作品について、系統的に学習し、王昭君を題材にした中国文学史研究を意図する。あわせて、中国の四大美人とされる王昭君の魅力や日本文学史における王昭君故事についても研究したい。民族問題は長年の中国の解決困難な問題であり、王昭君の事跡について知ることは、中国の現代的な問題にも触れることになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料はその都度プリントして配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『王昭君故事的伝承と嬪嬙』(張文徳、学林出版社、2008年)
『歴代歌詠昭君詩詞選注』(魯歌他編注、長江文芸出版社、1982年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

進み具合にもよるが、ほぼ以下の関連記述を系統的に読解する。

- 一 はじめに 目的と概容紹介
- 二 後漢書
- 三 琴操
- 四 西京雜記
- 五 李白・杜甫・白居易他
- 六 王安石I
- 七 王安石II
- 八 漢宮秋I
- 九 漢宮秋II
- 十 和戎記I
- 十一 和戎記II
- 十二 双鳳奇縁I
- 十三 双鳳奇縁II
- 十四 木魚書
- 十五 まとめ 王昭君像の変遷と現代意義

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 日頃の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

王昭君 中国文学史

中国文学演習II (中国古典文学) 【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業は「王昭君文学史研究」と題する。漢代の中国に実在し、匈奴に嫁した悲劇の女性王昭君に取材した様々な記録や作品を系統的に読解することを目的とする。更に、中国四大美人として有名な王昭君の実像や日本文学への影響等についてもあわせて研究したい。中国人の王昭君が国境を越えて日本文学に融合していることを学んで欲しい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料はその都度配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『王昭君故事的伝承と嬪嬙』(張文徳、学林出版社、2008年)
『歴代歌詠昭君詩詞選注』(魯歌他編注、長江文芸出版社、1982年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、王昭君に関する下記の歴史記録・文学作品を踏まえた上で、日本文学作品に描かれた王昭君記事についても探求と分析を行う。進捗状況によって前後することもあるが、おおよその方向は次の通り。

- 一 はじめに 授業の目的と概容の紹介
- 二 漢書・後漢書
- 三 琴操
- 四 西京雜記
- 五 李白・杜甫・白居易
- 六 唐物語I
- 七 唐物語II
- 八 百詠和歌・漢故事和歌集
- 九 謡曲
- 十 古文真宝
- 十一 唐詩選
- 十二 白氏文集
- 十三 川柳・絵画
- 十四 その他故事
- 十五 まとめ 日本文学における王昭君故事

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 日頃の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

王昭君 中国文学史 日本文学

中国民族文化研究 【昼】

担当者名 金縄 初美 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
							○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国は56の民族が居住する多民族国家であり、各民族の文化的特徴が異なることから多様な中国文化が形成されている。本講義では中国に居住する民族の文化について原書講読を通じて専門知識を習得するとともに、民族研究における調査・研究方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

『民俗学概論』 陶立璠 著 中央民族学院出版社 1987年 プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国少数民族の信仰と習俗 上巻』 賈光広等編者 伊藤清司監修 王汝瀾訳
『中国少数民族の信仰と習俗 下巻』 賈光広等編者 伊藤清司監修 林雅子訳
その他授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 中国少数民族に関する概要
- 2回 中国少数民族の基本特徴と分類
- 3回 中国少数民族に関する研究の動向について
- 4回 物質文化(飲食文化)
- 5回 物質文化(服飾文化)
- 6回 物質文化(建築文化)
- 7回 人生儀礼(誕生儀礼)
- 8回 人生儀礼(成人儀礼)
- 9回 人生儀礼(婚姻儀礼)
- 10回 人生儀礼(葬儀)
- 11回 精神民俗(巫術と民俗)
- 12回 精神民俗(宗教信仰と民俗)
- 13回 口承伝承と民俗
- 14回 口承伝承と民俗
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における発表内容・質問や発言の内容により評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

事前に配布する関係論文や資料を熟読し講義に備える。
授業中に与えられた課題について次回の授業までに調べてくる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国民族文化演習【昼】

担当者名 金縄 初美 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国民族文化研究で習得した内容をふまえ、「異文化受容」「文化交流」「文化継承問題」といった多くの民族が直面している課題について、主に多くの民族が居住する雲南省における少数民族の婚姻、家庭形態を通して理解を深める。

教科書 /Textbooks

『摩梭母系制研究』巖汝嫻・劉小幸著 雲南人民出版社 2011年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『多民族国家 中国』王柯著 岩波新書 2005年
その他授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 雲南省少数民族文化の概要
- 2回 調査方法
- 3回 理論と基本的観点
- 4回～5回 母系制と婚姻制度
- 6回～7回 母系制と社会制度の関連
- 8回～9回 母系制と社会変遷
- 10回～11回 文化継承
- 12回～14回 各自のテーマでの発表
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、質疑応答により評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを輪読するので、指示された箇所の和訳を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア海域史研究 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

17～19世紀の前近代東アジア国家に共通する特質である海禁政策について、わが国における幕藩制国家における鎖国制を取り上げ、オランダ東インド会社をはじめとするヨーロッパ人および唐船（ジャンク船）貿易の活動の拠点としての長崎の港市としての機能、砂糖の輸入と流通、思想・学問の受容の書誌学的研究などを行う。

前半は研究史の説明を行い、後半はそれらについて個々の史料の講読を行う予定である。

教科書 /Textbooks

1～7回 コピーを配布します。

8～14回 児玉幸多編『くずし字解説辞典 普及版』（東京堂出版1970）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村質『近世長崎貿易史の研究』（吉川弘文館1985）
- 太田勝也『鎖国時代長崎貿易史の研究』（思文閣出版1992）
- 石田千尋『日蘭貿易の史的 research』（吉川弘文館2004）
- 石田千尋『日蘭貿易の史的 research 展開』（吉川弘文館2009）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 長崎貿易研究史①制度
- 3回 長崎貿易研究史②貿易品
- 4回 出島オランダ貿易研究史①制度
- 5回 出島オランダ貿易研究史②貿易品
- 6回 蘭学研究史①18世紀
- 7回 蘭学研究史②19世紀
- 8回 文献コピー講読①西洋紀聞
- 9回 文献コピー講読②蘭学事始
- 10回 文献コピー講読③野そう独語
- 11回 文献コピー講読④華夷通商考
- 12回 文献コピー講読⑤管れい秘言
- 13回 文献コピー講読⑥采覧異言
- 14回 補論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済研究【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は、大学院レベルの国際経済理論、とくにミクロ経済側面の国際貿易理論を学習する。貿易発生の仕組み、貿易政策の経済効果、海外直接投資の分析を中心に、国際経済の諸問題を経済学の視点から理解できることを目標としている。さらに、東アジア諸国の経済問題と経済統合問題など取り上げ、現実の東アジア経済に対する理解を深める。

到達目標は以下の通りである。

- ① 国際経済に関する知識を養い、経済分析の手法を身につける。
- ② 現実の国際経済問題を経済学の視点から説明できる。
- ③ 東アジア諸国、特に日中韓三カ国の相互依存関係を理解できる。

教科書 /Textbooks

中西訓嗣・広瀬憲三・川井一宏著『国際経済理論』（有斐閣ブックス）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木村福成著『国際経済学入門』（日本評論社）
伊藤元重・大山道広著『国際貿易』（岩波書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカードモデルI【比較優位】【貿易パターン】
- 3回 リカードモデルII【2国多財モデル】【相対賃金】【技術進歩】
- 4回 特殊要素モデルI【特殊要素】【生産構造】
- 5回 特殊要素モデルII【比較静学】
- 6回 ヘクシャー・オリーンモデルI【ヘクシャー・オリーン定理】【要素価格均等化定理】
- 7回 ヘクシャー・オリーンモデルII【ストルパー・サムエルソン定理】【リプチンスキー定理】
- 8回 貿易均衡【交易条件】【オファー・カーブ】
- 9回 貿易政策論の基礎I【小国】【ラーナーの対称性定理】
- 10回 貿易政策論の基礎II【大国】【関税と数量規制政策の同値性】
- 11回 海外直接投資I【国際資本移動】【マクドゥーガル分析】
- 12回 海外直接投資II【多国籍企業】【取引コスト】
- 13回 東アジア経済発展【幼稚産業保護論】【工業化戦略】
- 14回 東アジア経済統合【統合の経済効果】【相互依存】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 % 課題提出(回数) 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易、直接投資、経済統合

現代中国政治研究 【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国の現代史を踏まえて、①中華人民共和国の成立過程、②中国の政治体制と課題について検討し、理解を深めることを授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

Kenneth Lieberthal, Governing China: From Revolution through Reform, 2nd edition, W.W.Norton & Company, 2004.
天児慧『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動 - 毛沢東vs.鄧小平』講談社、2004年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年。
- 毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	イントロダクション
2回	『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動』はじめに・1章
3回	” 2・3章
4回	” 4・5章
5回	” 6・7章
6回	” 8・9章
7回	Governing China Chap.1
8回	” Chap.2
9回	” Chap.3
10回	” Chap.4
11回	” Chap.5~6
12回	” Chap.7~8
13回	” Chap.9~10
14回	” Chap.11~12
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60 % 課題提出物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点(3点程度にまとめる)等を用意してから授業に臨むこと。
中国・台湾の地図や新聞記事などを授業内容理解のために活用すること。
中国の近現代史についての基礎知識を習得していること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代韓国経済研究【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、アジアNIEsの一角として急速な経済発展に成功し、また地理的な近さから経済交流がもっとも活発な韓国経済について学習することをねらいとする。韓国がどのような発展戦略によって経済発展を実現させ、その発展戦略がどのような構造的問題点を内包してきたか。そして、経済危機後に採用された発展戦略がどのように変化し、何をもたらしたかを明らかにする。

教科書 /Textbooks

趙淳(深川博史監訳/藤川昇悟訳) 『韓国経済発展のダイナミズム』、法政大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション「序論」
- 第2回 「1950年代と1960年代の経済発展」
- 第3回 「概観」(1)：輸出志向工業化と重化学工業化
- 第4回 「概観」(2)：構造調整と民主化
- 第5回 「産業組織」(1)：大企業と中小企業の関係
- 第6回 「産業組織」(2)：政府の政策
- 第7回 「労働」(1)：韓国の労働事情
- 第8回 「労働」(2)：労働問題と政策的含意
- 第9回 「金融制度」(1)：銀行制度と証券市場
- 第10回 「金融制度」(2)：金融政策と金融改革
- 第11回 「対外貿易」(1)：貿易政策と貿易状況
- 第12回 「対外貿易」(2)：世界経済の中の韓国
- 第13回 「IMF経済危機」
- 第14回 「危機以降の韓国経済」
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

指定文献の報告...30%、授業での討論参加状況...30%、レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発独裁、財閥、輸出志向工業化、通貨危機、構造改革

近代日本政治外交史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史の研究書、とりわけ、政軍関係論に関するものを読み進めていきます。毎回担当範囲を決めて、学生諸君に報告していただきます。本講義の狙いは、近代日本政治外交史研究のレベルを理解してもらうことにあります。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上決定しますが、森靖夫『日本陸軍と日中戦争への道』（ミネルヴァ書房、6825円）、黒沢文貴・小林道彦編著『日本政治史のなかの陸海軍』（ミネルヴァ書房、6000円）を予定しております。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 外務省編・刊『日本外交文書並主要文書』上・下巻（原書房、1965年）。
- 中西寛・小林道彦共編著『歴史の桎梏を越えて』（千倉書房、5775円）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 『日本陸軍と日中戦争への道』序章の講読。
- 3回 同上第1章の講読。
- 4回 同上第2章の講読。
- 5回 同上第3章の講読。
- 6回 同上第4章の講読。
- 7回 同上第5章の講読。
- 8回 同上第6章と終章の講読。
- 9回 『日本政治史のなかの陸海軍』第1章1・2・3の講読。
- 10回 同上第1章4・5の講読。
- 11回 同上第3章1・2・3・4の講読。
- 12回 同上第3章5・6・7の講読。
- 13回 同上第6章1・2の講読。
- 14回 同上第6章3・4の講読。
- 15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告の内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

明治期の文語体の文章を読んでおいて下さい。あらかじめ、ある程度テキストに目を通しておいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

前期に2冊を通読するというスケジュールはややハードですが、がんばって参りましょう。なお、受講者の能力によってはシラバスの内容に若干の変更を加えることもあり得ます。この点、ご了承下さい。

キーワード /Keywords

東南アジア地域研究I (ミャンマー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ミャンマーの現代政治について、地域研究的観点から分析し、その特質についての理解を深める。

教科書 /Textbooks

随時指示、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：ミャンマー現代史（植民地化以前の略史）【植民地化以前】
- 第3回：ミャンマー現代史（植民地化と社会変容）【植民地化】【社会変容】
- 第4回：ミャンマー現代史（独立運動とナショナリズム）【独立運動】【ナショナリズム】
- 第5回：ミャンマー現代史（独立以降）【独立】
- 第6回：ビルマ式社会主義体制の特質【社会主義体制の特質】
- 第7回：ビルマ式社会主義体制の問題点【社会主義体制の問題点】
- 第8回：社会主義体制の崩壊【社会主義体制の崩壊】
- 第9回：民主化運動の発生と展開【民主化運動】
- 第10回：アウンサンスーチーと民主化運動【アウンサンスーチー】
- 第11回：軍政の論理【軍政】
- 第12回：アウンサンスーチーの論理【慈悲の政治】
- 第13回：民衆にとっての民主化運動【民衆の論理】
- 第14回：ミャンマー民主化運動の現状と課題【現状と課題】
- 第15回：まとめ・質問

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

適宜、指示する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア地域研究II (マレーシア・ シンガポール) 【 昼 】

東アジア専攻

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ（華僑、華人問題）、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習やグループ報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることができるよう指導する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：
 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
 村田翼夫編『東南アジア諸国の国民統合と教育』東信堂、2001年。
 Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年。
 * 「学としての国際政治」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
 * 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。
- 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。
- 柿崎一郎『東南アジアを学ぼう』筑摩書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回 『アジア政治とは何か』序章「アジア政治を見る眼」を輪読、議論する
- 第3回 『アジア政治とは何か』第1章「開発体制」を輪読、議論する
- 第4回 『アジア政治とは何か』第1章「開発体制」の事例を紹介、議論する
- 第5回 『アジア政治とは何か』第2章「民主化」を輪読、議論する
- 第6回 『アジア政治とは何か』第3章「民主主義」を輪読、議論する
- 第7回 『アジア政治とは何か』第4章「アジア政治の課題と展望」を輪読、議論する
- 第8回 『東南アジア諸国の国民統合と教育』多民族国家の教育が抱える課題を議論する
- 第9回 『東南アジア諸国の国民統合と教育』マレーシアを輪読、議論
- 第10回 『東南アジア諸国の国民統合と教育』フィリピンを輪読、議論
- 第11回 『東南アジア諸国の国民統合と教育』シンガポールを輪読、議論
- 第12回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序論（華人の移住の歴史）を輪読、議論
- 第13回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのいくつかの国の教育の項目を輪読、議論する
- 第14回 これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
- 第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。
 アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことのない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講して欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

国際機構研究 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代国際関係における国際機構の政策、法および実践を多面的に研究する。

教科書 /Textbooks

Ian Hurd, International Organizations: Politics, Law, Practice, Cambridge University Press, 2011.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 はじめに
- 第2回 教科書講読第1章【国際機構研究への導入】
- 第3回 教科書講読第2章【国際機構概説】
- 第4回 教科書講読第3章【世界貿易機関 (WTO)】
- 第5回 教科書講読第4章【国際通貨基金 (IMF)】【世界銀行】
- 第6回 教科書講読第5章【国際連合の法と行政】
- 第7回 教科書講読第6章【国際連合による国際平和および安全】
- 第8回 中間総括
- 第9回 教科書講読第7章【国際労働機関 (ILO)】
- 第10回 教科書講読第8章【国際司法裁判所 (ICJ)】
- 第11回 教科書講読第9章【国際刑事裁判所 (ICC)】
- 第12回 教科書講読第10章【地域機構】【EU】【AU】【ASEAN】
- 第13回 教科書講読第11章【教科書結論】
- 第14回 教科書総括
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加状況... 50% 研究報告... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上記「授業計画・内容」に挙がっている各種の国際機構について文献を事前に講読しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係論研究 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、史的・総合的に取り扱う。

教科書 /Textbooks

Lawrence H. Fuchs, The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.
 Marc Dollinger, Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.
 Matthew Frye Jacobson, Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.
 Murray Friedman, What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance, New York: Free Press, 1995.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. アメリカ人種関係論の概要
3. 新しい「社会史」の登場
4. アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
5. アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
6. 「白人性(ホワイトネス)」議論の登場
7. ホワイトネス各論1: M.ジェイコブソン
8. ホワイトネス各論2: D.ローディガー
9. ホワイトネス各論3: その他の主要な著作
10. 人種混淆の理論
 11. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀前半
 12. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開: 20世紀後半
 13. その他のグループ間関係
 14. 21世紀のアメリカの人種関係
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席は単位認定の大前提である。
 授業中の発言・報告...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員(北美幸)の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト(読んでおくべき文献のリスト)も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会史研究 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

17世紀から現代までのアメリカ社会を、「自由」をキーワードに、政治、経済、文化、思想など広範な視点から論じることで、アメリカ社会を支えてきた人々の営み考え方、感じ方を受講生にとらえさせる。講義に際しては、適宜アメリカ史に関する基本文献や一次史料等を用いる。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 南北戦争までの時代：植民地時代～共和国形成期
- 3回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告内容...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を積極的に読むことを薦める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

南欧地域研究 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

世界史のなかで19世紀は「ヨーロッパの世紀」と言われます。19世紀末以来、南欧地域は依然として農村的で、経済的「停滞」や「後進性」というイメージがつきまといます。講義では、南スペインを代表するアンダルシアに焦点を絞り、比較史の視点から、近現代のアンダルシア地域論を近年の研究成果を踏まえて再考します。

テーマはやや特殊ですが、同じラテン系の国々、イタリア・フランスの近代との比較検討ができるレベルを目指します。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関哲行他編『スペイン史 2 近現代・地域からの視座』山川出版社、2008年
- 立石博高・塩見千加子編『アンダルシアを知るための53章』明石書店、2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「長い19世紀」ヨーロッパと南欧世界
- 2回 イスパニストたちによる研究
- 3回 スペイン近代【挫折史観】をめぐって
- 4回 工業化のなかのアンダルシア【地域的不均衡発展】
- 5回 アンダルシア農村社会【カシキスモ】【ラティフンディオ】
- 6回 アンダルシア社会の近代の変容
- 7回 外部で創られるアンダルシア・イメージ
- 8回 内からの地域アイデンティティの模索
- 9回 19世紀末のスペインと地域主義
- 10回 アンダルシア【地域主義】
- 11回 地域主義者プラス・インファンテの思想
- 12回 フランコ体制下のアンダルシアの社会変容
- 13回 20世紀70年代のアンダルシア論
- 14回 今日のアンダルシアの状況
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

上に挙げた参考文献は読むこと。専門用語は辞典でしっかり押さえる。
質疑応答の時間を活用すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア地域研究【昼】

担当者名 /Instructor 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ソ連時代の民族政策・言語政策・教育政策、ポスト・ソビエト諸国が抱える言語問題について理解を深めることを目的とする。到達目標は、世界における言語問題について理解し、言語と社会の関係について説明できるようになることです。

教科書 /Textbooks

塩川伸明『民族と言語-多民族国家ソ連の興亡(1)』岩波書店、2004年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

中井和夫『ソヴィエト民族政策史』御茶の水書房、1988年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 民族・エスニシテイ・言語問題への視点
- 2回 ソ連の民族・エスニシテイ問題：ロシア帝国の構造と特徴
- 3回 ソヴェト政権の民族政策：初期の民族政策
- 4回 スターリン時代の民族政策
- 5回 ポスト・スターリン時代の民族政策
- 6回 ベレストロイカからソ連解体へ 前半期
- 7回 ベレストロイカからソ連解体へ 後半期
- 8回 ソ連解体後への展望
- 9回 ソ連言語政策史再考：帝政末期からポスト・スターリン時代
- 10回 ソヴェト体制末期における言語状況：言語問題の数々
- 11回 ソヴェト体制末期における言語状況：その類型化
- 12回 ベレストロイカ期の言語法問題：エストニア、モルドヴァ
- 13回 ベレストロイカ期の言語法問題：ウクライナ、カザフスタン
- 14回 ソ連解体後への展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト、参考文献に挙げている書を読み、重要事項を事典等で調べて授業準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア海域史演習 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

江戸時代の歴史とりわけ文化・思想の背後にある社会経済的背景を当時の史料から理解します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本都市生活史料集成』(学習研究社)
- 『日本庶民生活史料集成』(三一書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 平戸町人別帳① 川崎屋
- 第3回 平戸町人別帳② 高麗人
- 第4回 犯科帳①抜荷
- 第5回 犯科帳②遊女
- 第6回 犯科帳③欠落
- 第7回 犯科帳④博奕
- 第8回 犯科帳⑤無宿
- 第9回 博多津要録①捨て子
- 第10回 博多津要録②茶屋
- 第11回 博多津要録③水主役
- 第12回 博多津要録④興業
- 第13回 博多津要録⑤寺内
- 第14回 補論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア経済演習【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業は、不完全競争市場下の貿易政策の経済分析を学習する。その分析ツールを用いて、国際経済の分析に応用できることを期待している。

到達目標は以下の通りである。

- ① 不完全競争の市場構造を理解できる。
- ② 貿易政策の経済分析の基本ツールを身につける。
- ③ 現実の貿易政策を調査し、経済学の視点から分析できる。

教科書 /Textbooks

Helpman E. and P.R. Krugman 『Trade Policy and Market Structure』 (MIT Press)
和訳：大山道広訳『現代の貿易政策』 (東洋経済新報社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』 (東京大学出版社)
柳川範之著『戦略的貿易政策』 (有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策と市場支配力【戦略的效果】【生産効率】
- 3回 完全競争下の貿易政策I【関税】【輸入割当】【輸出補助金】
- 4回 完全競争下の貿易政策II【最適関税理論】
- 5回 保護と国内市場支配力I【国内独占】【関税】【輸入割当】
- 6回 保護と国内市場支配力II【国内寡占】
- 7回 外国企業による市場支配I【外国独占】【関税】【数量制限】
- 8回 外国企業による市場支配II【クールノー型寡占】【ベルトラン型寡占】
- 9回 外国企業による市場支配III【寡占のもとでの割当】
- 10回 戦略的輸出政策I【戦略的輸出補助金政策】【レントシフト】
- 11回 戦略的輸出政策II【価格競争】【規模の経済】
- 12回 戦略的輸入政策I【関税】【輸入割当】
- 13回 貿易政策調査発表I
- 14回 貿易政策調査発表II
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 30 % 課題提出・発表 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国政治演習【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代中国政治研究（1学期）で習得した知識を基に、最近の研究動向にも注目しながら中国が抱える政治社会問題および外交関係について検討し、問題発生メカニズムと要因について理解を深める。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションで指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 政治体制（1）【イデオロギーと中国社会】
- 3回 政治体制（2）【共産党と中国社会】
- 4回 政治体制（3）【政府と中国社会】
- 5回 政治体制（4）【軍と中国社会】
- 6回 政治体制（5）【中央地方関係】
- 7回 政治体制（6）【その他の政治アクター】
- 8回 中国映画から浮かび上がる中国社会と政治
- 9回 対外関係（1）【1945年以前の日中関係】
- 10回 対外関係（2）【1945～1972年の日中関係】
- 11回 対外関係（3）【1972年以後の日中関係】
- 12回 対外関係（4）【アジアにおける日中関係】
- 13回 文献講読と担当者による報告
- 14回 講評と討論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...60% 課題提出物...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

あらかじめ課題を熟読して論点を把握し、自分の抱いた問題点（3点程度にまとめる）等を用意してから授業に臨むこと。
中国・台湾の地図や新聞記事などを活用して理解を深めること。
現代中国政治研究を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代韓国経済演習【昼】

担当者名 /Instructor 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、アジアNIEsの一角として急速な経済発展に成功し、また地理的な近さから経済交流がもっとも活発な韓国経済について学習することをねらいとする。韓国がどのような発展戦略によって経済発展を実現させ、その発展戦略がどのような構造的問題点を内包してきたか。そして、経済危機後に採用された発展戦略がどのように変化し、何をもたらしたかを明らかにする。

教科書 /Textbooks

趙淳(深川博史監訳/藤川昇悟訳) 『韓国経済発展のダイナミズム』、法政大学出版社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション「序論」
- 第2回 「1950年代と1960年代の経済発展」
- 第3回 「概観」(1):輸出志向工業化と重化学工業化
- 第4回 「開発5カ年計画:概観」(1):構造調整と民主化
- 第5回 「産業組織」(1):大企業と中小企業
- 第6回 「産業組織」(2):政府の政策
- 第7回 「労働」(1):韓国の労働事情
- 第8回 「労働」(2):労働問題と政策的含意
- 第9回 「金融制度」(1):銀行制度と証券市場
- 第10回 「金融制度」(2):金融政策と金融改革
- 第11回 「対外貿易」(1):貿易政策の展開
- 第12回 「対外貿易」(2):世界経済の中の韓国
- 第13回 「IMF経済危機」
- 第14回 「危機以降の韓国経済」
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

指定文献の報告...30%、授業での討論参加状況...30%、レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発独裁、財閥、輸出志向工業化、通貨危機、構造改革

近代日本政治外交史演習【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史の研究書を読み進めていきます。毎回分担範囲を決めて、学生諸君に報告していただきます。本講義の狙いは、近代日本政治外交史研究のレベルを理解してもらうことにあります。また、関連する草書体史料の解説も同時に行っていきます。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定しますが、伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』（千倉書房2014年8月刊行、定価未定）などを予定しております。関連史料はこちらでコピーして配布いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編・刊『日本外交文書並主要文書』上・下巻(原書房、1965年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第1章1・2の講読(台湾統治と統帥権)
- 3回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第1章3・4・5の講読(行政整理と公式令)
- 4回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第2章1・2の講読(新聞ジャーナリズム)
- 5回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第2章3・4・5の講読(日露講和と対外硬世論)
- 6回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第3章1・2の講読(イギリス的立憲政治)
- 7回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第3章3・4の講読(第一次世界大戦)
- 8回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第3章5・6の講読(宮中と府中)
- 9回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第4章1・2の講読(21カ条要求と日中関係)
- 10回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第4章3・4の講読(政友会と対中強硬論)
- 11回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第4章5・6の講読(国際協調外交と原敬)
- 12回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第5章1・2の講読(高橋是清と経済政策)
- 13回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第5章3・4の講読(山本達雄と経済政策)
- 14回 伊藤之雄編『原敬と政党政治の確立』第6章1・2・3の講読(松田正久と九州派)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50% 報告の内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

明治期の文語体の文章を読んでおいて下さい。あらかじめ、ある程度テキストに目を通しておいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文講読と史料解説を同時に進めてまいります。内容的にややハードですが、がんばって参りましょう。

キーワード /Keywords

東南アジア地域演習I (ミャンマー) 【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

東南アジアを対象としながら、地域研究的なアプローチのあり方を考え、その上で、自己の研究テーマへの方法論的還元を目指す。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：地域研究の起源【起源】
- 第3回：地域研究と社会諸科学との関係【社会諸科学との関係】
- 第4回：地域研究における総合的認識【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像の把握【全体像の把握】
- 第6回：地域研究における文化主義的認識【文化主義的認識】
- 第7回：東南アジア研究の視点(風土・生態系)【風土・生態系】
- 第8回：東南アジア研究の視点(宗教・世界観)【宗教・世界観】
- 第9回：東南アジア研究の視点(人間関係)【人間関係】
- 第10回：東南アジア研究の視点(歴史)【歴史】
- 第11回：地域研究における総合的認識に関する文献の輪読・議論【総合的認識】
- 第12回：文化相対主義に関する文献の輪読・議論【文化相対主義】
- 第13回：ミャンマー人の世界観に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の世界観】
- 第14回：ミャンマー人の人間関係に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の人間関係】
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%
報告内容50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究

東南アジア地域演習II (マレーシア・ シンガポール) 【 昼 】

東アジア専攻

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ (華僑、華人問題)、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることができるよう指導する。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：
 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
 Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
 * 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
 * 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。
- 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2回 『アジア政治とは何か』序章を輪読、議論する
- 第3回 『アジア政治とは何か』開発体制を輪読、議論する
- 第4回 『アジア政治とは何か』各人が開発体制のいくつかの事例を紹介、議論する
- 第5回 『アジア政治とは何か』民主主義を輪読、議論する
- 第6回 アジア政治の課題について議論する
- 第7回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序章を輪読、議論する
- 第8回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのマレーシアを輪読、議論する
- 第9回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのインドネシアを輪読、議論する
- 第10回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのフィリピンを輪読、議論する
- 第11回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのタイを輪読、議論する
- 第12回 The Encyclopedia of the Chinese Overseasのベトナムを輪読、議論する
- 第13回 華人の東南アジアへの移住の歴史と国民国家建設における役割について議論する
- 第14回 これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
- 第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。
 アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことのない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講するなど、自主的に・積極的に学習して欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

国際機構演習 【昼】

担当者名 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

国際機構に関する理解を深めるために、その目的、制度、機能、課題等を研究する。

教科書 /Textbooks

Clive Archer, International Organizations, third edition, Routledge, 2001.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストの講読と報告を通じて、国際機構の現代的展開を概観および考察する。

- 第1回 はじめに
- 第2回 テキスト第1章【国際機構の定義】
- 第3回 テキスト第1章【国際機構の歴史】
- 第4回 テキスト第2章【加盟】
- 第5回 テキスト第2章【国際機構の目的と構造】
- 第6回 テキスト第3章【国際機構の役割】
- 第7回 テキスト第3章【国際機構の機能】
- 第8回 テキスト第3章【グローバル・ガバナンス】
- 第9回 テキスト第4章【リアリズム】
- 第10回 テキスト第4章【修正主義】
- 第11回 テキスト第4章【ラディカルズ】
- 第12回 テキスト第4章【国際機構の文献】
- 第13回 テキスト第5章【国際機構の展望】
- 第14回 テキスト第5章【国際機構の改革】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加の状況... 50% 報告... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

国際機構に関する入門書・専門書を事前に購読しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係論演習【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行う。

教科書 /Textbooks

Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.
 David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].
 David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.
 Karen Brodtkin, How Jews Became White Folks and What That Says About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 優生学の登場
3. 「新移民」と人種
4. ホワイト・エスニックとは
5. 反ユダヤ主義の系譜
6. 戦争と人種問題 1: アフリカ系アメリカ人
7. 戦争と人種問題 2: ホロコーストの記憶と反省
8. 戦争と人種問題 3: 日系人と強制収容
9. 公民権運動をめぐる議論 1: 1950年代
10. 公民権運動をめぐる議論 2: 1960年代前半
11. 公民権運動をめぐる議論 3: 1960年代後半
12. ポスト公民権運動期の人種関係
13. 文化多元主義と多文化主義
14. 今日のアメリカの人種関係とその展望
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席は単位認定の大前提である。
 授業中の発言・報告...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員(北美幸)の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト(読んでおくべき文献のリスト)も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会史演習 【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

現代アメリカ社会の始まりは、19世紀末～20世紀初頭の革新主義時代であるとされる。本授業においては、革新主義時代のアメリカ社会形成を中心に、現代アメリカ史に関する基本文献を読み、アメリカ社会をよりよく理解する端緒とする。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 都市の時代：1893年シカゴ万博と都市の拡大
- 3回 都市の時代：ハル・ハウスと移民の生活
- 4回 都市の時代：ハル・ハウスと貧困・階級
- 5回 労働争議の時代：ブルマン・ストライキと労働問題
- 6回 労働争議の時代：労働組合と労働問題
- 7回 労働争議の時代：フォーティズムと労働問題
- 8回 大衆消費の時代：郊外化とアメリカ文化
- 9回 大衆消費の時代：都市化とアメリカ文化
- 10回 大恐慌の時代：不況と政治
- 11回 大恐慌の時代：不況と家族・家庭
- 12回 大恐慌の時代：不況と労働運動
- 13回 冷戦の時代：冷戦と反共主義
- 14回 冷戦の時代：冷戦と家族・家庭
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 授業への貢献度...20% 授業中の報告...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの参考文献を積極的に読むことを薦める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

南欧地域演習 【昼】

担当者名 /Instructor 岡住 正秀 / okazumi masahide / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

南欧に特徴的な居住空間であるアグロタウン（とくに地中海ヨーロッパに典型的な準農村都市）に焦点を当て、共同体論からソシアビリティに関する論文を解説しながら、人々の日常性を持続と変容の諸相で観察し、近現代の南欧の文化と社会を読み解きたいと思います。

アグロタウンで織りなされる人間関係とそこに見られる思考を学び、人間関係が希薄化する、われわれの今日的状況との違い、あるいは共通する側面を議論できるようにしたい、と思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。プリントを配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ビット・リバース『シエラの人々』
Corbin, J.R., The anarchist Passion, Aldershot, 1993.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スペインの民族学者による共同体研究の動向
- 2回 人類学者コービンについて
- 3回 テキスト「序論」
- 4回 アンダルシアの「ブエプロ」について
- 5回 アグロタウンとは？
- 6回 コービンの基礎構造について
- 7回 基礎構造（文化）
- 8回 基礎構造（コミュニティー）
- 9回 基礎構造（社会）
- 10回 緊急構造（階級闘争）
- 11回 コービンの評価について
- 12回 アンダルシア社会の変容
- 13回 南イタリアとの比較（地中海民族学の視点から）
- 14回 最近のアグロタウン研究の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート,100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

参考文献に挙げた日本語文献を読む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ロシア地域演習【昼】

担当者名 芳之内 雄二 / Yoshinouchi Yuji / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

多言語社会が抱える課題（言語政策、バイリンガル教育、言語権、言語法、異民族間婚姻など）について認識を深めることを目的とする。到達目標は、世界における言語問題について理解し、言語と社会の関係について説明できるようになることです。

教科書 /Textbooks

プリント配布（移民社会の言語社会状況、旧ソ連における言語社会状況、言語権等に関する文献から選択予定）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三浦信孝編『多言語主義とは何か』藤原書店
田中克彦『言語から見た民族と国家』岩波書店
塩川伸明『民族と言語』岩波書店
東照二『バイリンガリズム』講談社新書
岡澤憲英、村井誠人編著『北欧世界のことばと文化』成文堂
「ことばを訪ねて」朝日新聞、2011年11 - 12月8回分

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方と輪読テキストの選択
- 2回 要約発表の方法とルール、発表分担割り当て
- 3回 移民社会における言語社会状況（1）在日韓国朝鮮人
- 4回 移民社会における言語社会状況（2）ブラジル在住日系人
- 5回 移民社会における言語社会状況（3）東南アジアの華僑
- 6回 EUにおける言語関連法令、言語権について
- 7回 クレオールに関するビデオ資料鑑賞：内容についての討論
- 8回 非母語で文筆活動する人物について（1）日本在住の作家
- 9回 非母語で文筆活動する人物について（2）旧ソ連在住の作家
- 10回 エストニアにおける言語社会状況
- 11回 ラトビアにおける言語社会状況
- 12回 カザフスタンにおける言語社会状況
- 13回 ウクライナにおける言語社会状況
- 14回 旧ソ連におけるロシア語使用状況のまとめ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み60%、質疑応答40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

言語政策、EUの多言語主義、バイリンガルなど社会言語学関係の書物を複数冊読んで授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア近現代史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。まず、19世紀から20世紀にかけて伝統的な港市国家が近代的な植民地国家に再編された過程をおさえる。そのうえで、その過程で展開した社会変容への対応、自立の模索、人やモノの越境などのテーマを中心的に取り上げ、受講生による報告・討論を行う。

教科書 /Textbooks

弘末雅士『東南アジアの港市世界-地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。
 杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年。
 加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。
 池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史第7巻）』岩波書店、2002年。
 後藤乾一ほか編集『国民国家形成の時代（岩波講座東南アジア史第8巻）』、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。
 このほかにも授業中に別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 3回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(2) 第2章～第4章
- 4回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(3) 第5章～終章
- 5回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 6回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(2) 第2章、第3章
- 7回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(3) 第9章、第10章
- 8回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(1) 【開発】
- 9回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(2) 【貿易】
- 10回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(1) 【抵抗運動】
- 11回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(2) 【ナショナリズム】
- 12回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(3) 【革命】
- 13回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論(1) 【脱植民地化】
- 14回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論【国家形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基本的にテキストに沿って進める。東南アジアについて基本的な知識がない受講者は、学部（国際関係学科）で開講している東南アジア研究概論、東南アジアの社会と歴史、東南アジアの政治と外交などを受講のうえ本科目を受講するか、これらの科目を本科目と並行して受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア近現代史演習 【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、東南アジア島嶼部における近代から現代への移行を、国家のあり方の変遷に注目してとらえる。それによって、様々な事象が国民国家によって規定される今日の社会のあり方をとらえる視点を養う。具体的には、19世紀から20世紀半ばにかけて展開した植民地国家の形成・発展、人の大量越境、脱植民地化と国民国家形成などを扱う。受講者による基本文献の輪読と報告・討論を中心に授業を進める。

教科書 /Textbooks

Butcher, John G. and Howard Dick. Eds. 1993. The Rise and Fall of Revenue Farming : Business Elites and the Emergence of the Modern State in Southeast Asia, St. Martin's Press, New York.
Ariffin Omar, 1993. Bangsa Melayu: Malay Concept of Democracy and Community 1945-1950, Oxford University Press, Kuala Lumpur.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 The Rise and Fall of Revenue Farming : 理論的位置づけ
- 3回 The Rise and Fall of Revenue Farming : 概論
- 4回 The Rise and Fall of Revenue Farming : 事例(1) イギリス領マラヤ
- 5回 The Rise and Fall of Revenue Farming : 事例(2) オランダ領東インド
- 6回 The Rise and Fall of Revenue Farming : まとめ
- 7回 Bangsa Melayu : 理論的位置づけ
- 8回 Bangsa Melayu : 植民地期のマラヤ
- 9回 Bangsa Melayu : 植民地期の東スマトラ
- 10回 Bangsa Melayu : マラヤの脱植民地化
- 11回 Bangsa Melayu : 東スマトラの脱植民地化~インドネシアへ
- 12回 Bangsa Melayu : 「民主主義」の導入
- 13回 Bangsa Melayu : 共同体とアイデンティティ
- 14回 Bangsa Melayu : まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 50 % レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基本的にテキストに沿って進める。東南アジアについて基礎的な知識がない受講者は、学部(国際関係学科)で開講している東南アジア研究概論、東南アジアの社会と歴史、東南アジアの政治と外交などを受講のうえ本科目を受講するか、あるいはこれらの科目を本科目と並行して受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本社会経済研究【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

歴史学は過去に何があったのか、歴史的事実を知ることが目的とはしていません。それはあくまで手段であり、歴史学は過去の事実をもとに経済あるいは社会を分析し、これらを相対化し客観化することで現状認識に役立てることを目的とする社会科学です。

では、過去の事実から具体的に何がみえてくるのか。過去を知ること、いかなる現状認識が可能となるのか。本講義では、近代の産業革命を事例として、実際に経済・社会を歴史学的に分析することで、歴史学によって明らかになる諸事実を皆さんに提示していきたいと考えています。そして皆さんが、歴史を受動的に教わるのではなく、歴史を主体的に学び活用する姿勢を養える授業にしたいと思います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「経済史」という方法論
- 第2回 「大いなる分岐」 - 経済成長の分岐点 -
- 第3回 「マルサスの罠」 - 1800年以前の経済生活 -
- 第4回 歴史人口学的見地から見た近世日本
- 第5回 産業革命の謎 - 産業革命を巡る諸言説 -
- 第6回 技術の進歩と社会制度
- 第7回 産業革命の社会的影響
- 第8回 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」 - 近代的人格の形成 -
- 第9回 近代的な時間の誕生 - 「時は金なり」の時代 -
- 第10回 産業革命と家族経済 - 労働者家族の経済生活 -
- 第11回 個人・企業・社会 - 「企業社会」の誕生 -
- 第12回 「帝国」の役割 - 資本主義と国家 -
- 第13回 産業革命はアジアで起こり得たか
- 第14回 「近代」と「現代」の連続と断絶
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科学としての歴史学で必要なのは、知識や記憶力ではなく、主体的に社会を分析しようとする姿勢と思考力=分析力です。知識や記憶力に自信がなく「歴史が苦手」と信じてきた方でも、歴史を学問することはまったく可能ですので、歴史をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

経済史 社会経済史 産業革命 大いなる分岐 マルサスの罠 近代化

日本社会経済演習【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この演習は、近現代の日本経済史を、その背景にある社会・文化・制度・慣習などもふまえ、多角的に分析できる能力を身につけることを目的としています。

そのために、まずは優れた研究成果にふれ、その方法を学んでいただきます。具体的には、学術書・論文を実際に読んで、その要約と論点を授業で報告し、学生間で議論を行ってまいります。

この際、参考文献や論文の検索方法や、引用の仕方、経済史の分析の手法など、リテラシーに関する指導も適宜行います。

演習の後半は、個々が具体的なテーマを決め、その研究成果を報告していただきます。ここでは、自説の提示の仕方（論文の書き方）、論文執筆時のルールなどについての指導もまた行います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2回～6回 輪読・論文の要約の報告

第7回～15回 個々の研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

研究・研究報告の内容、議論における積極性などをもとに評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習の後半は、研究報告がメインとなりますので、履修にあたって自分の興味関心がどこにあるのか、自身の研究テーマについてしっかりと考えておいてください。

キーワード /Keywords

日本経済史 近現代史 社会経済史 産業史 経営史 労働史 労働社会史

特別研究 (M)IIA 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
ミクロ経済分析について論究し、特別研究論文の作成のために、「特別研究 (M) IA・ B」の研究内容をもとにして、研究テーマを決定する。

教科書 /Textbooks
未定、受講生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2～4回 「特別研究 (M) IA・ B」：興味・関心のあるミクロ経済問題について調査報告
- 5～6回 特定ミクロ経済分析的アプローチ論究
- 7～14回 各自の研究テーマに関連するミクロ経済理論の調査・研究・報告・議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
授業参加態度 ... 30 % レポート ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
ミクロ経済学の復習の徹底

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

各自、研究テーマを決めて、発表形式で演習を行う。また、研究テーマに関する参考文献として適宜指示ないし配布された資料のレジユメを受講者は作成し、報告する。

教科書 /Textbooks

なし。各自のテーマにそって適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容・進め方の説明。研究テーマの候補の話し合い
- 2回 研究テーマ、論文の仮タイトル、問題設定の報告・検討
- 3回 研究テーマ、論文の仮タイトル、問題設定の報告・検討
- 4回 研究テーマの確定、参考文献表の報告・検討
- 5回 研究テーマの確定、参考文献表の報告・検討
- 6回 研究内容の報告
- 7回 研究内容の報告
- 8回 研究内容の報告
- 9回 修正された研究内容の報告
- 10回 修正された研究内容の報告
- 11回 修正された研究内容の報告
- 12回 修正された研究内容の報告
- 13回 論文の内容の発表
- 14回 論文の内容の発表
- 15回 論文の内容の発表

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0 % 発表内容とその成果物提出...100 % 期末試験...0 %

※出席が授業回数の3分の1に達しない場合には、単位を認定しない。遅刻は2回で欠席1回とカウントする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

問題を設定し、それに対する結論を明記し、結論にいたる根拠・証明を述べるというプレゼンの基本を必ず押さえること。出所を明かさずに本・論文やネットから引用あるいはコピー&貼りつけすることは、絶対に禁止する。事前に発表内容を下調べし、決められた時間内で説明できるようにスライドを作っておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～14回 修論中間発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に無し

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析について論究し、「特別研究 (M) IIA」の研究内容をもとにして、最終的に特別研究論文を作成する。

教科書 /Textbooks

未定、受講生のミクロ経済学に対する理解の程度を確認し、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～2回 「特別研究 (M) IIA」の研究状況の報告
3～14回 各自の研究テーマに関する調査研究報告・議論
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 ... 30 % レポート ... 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学の復習の徹底

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

各自、研究テーマを決めて、発表形式で演習を行う。また、研究テーマに関する参考文献として適宜指示ないし配布された資料のレジユメを受講者は作成し、報告する。

教科書 /Textbooks

なし。各自のテーマにそって適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業内容・進め方の説明。研究テーマの候補の話し合い
- 2回 研究テーマ、論文の仮タイトル、問題設定の報告・検討
- 3回 研究テーマ、論文の仮タイトル、問題設定の報告・検討
- 4回 研究テーマの確定、参考文献表の報告・検討
- 5回 研究テーマの確定、参考文献表の報告・検討
- 6回 研究内容の報告
- 7回 研究内容の報告
- 8回 研究内容の報告
- 9回 修正された研究内容の報告
- 10回 修正された研究内容の報告
- 11回 修正された研究内容の報告
- 12回 修正された研究内容の報告
- 13回 論文の内容の発表
- 14回 論文の内容の発表
- 15回 論文の内容の発表

成績評価の方法 /Assessment Method

出席...0 % 発表内容とその成果物提出...100 % 期末試験...0 %
※出席が授業回数の3分の1に達しない場合には、単位を認定しない。遅刻は2回で欠席1回とカウントする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

問題を設定し、それに対する結論を明記し、結論にいたる根拠・証明を述べるというプレゼンの基本を必ず押さえること。出所を明かさずに本・論文やネットから引用あるいはコピー&貼りつけすることは、絶対に禁止する。事前に発表内容を下調べし、決められた時間内で説明できるようにスライドを作っておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
第2～14回 修論中間発表
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

論文内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特に無し

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会心理学研究【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも、それほど受講者数が多くない場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論、考え方、研究方法などを理解し、受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

社会心理学の研究法の主な特徴を理解した上で、社会心理学の理論が他の複数の学問分野にどのように関連するかを理解し、説明できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半(7, 8回程度)の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には、受講者からテキストの各節(参加人数によって、各自の担当ページ数や進度は異なる)の内容を報告してもらい、その内容について補足の講義を行う。その後、皆で議論する。

後半(7, 8回程度)は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする。受講者が8名以下であれば、1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また、受講者各自の研究テーマの発表を交えながら、様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義、及び議論をする場合もある。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 社会心理学の特徴1【実験】
- 3回 社会心理学の特徴2【統計】
- 4回 動機づけと感情1【外発的動機づけ】
- 5回 動機づけと感情2【内発的動機づけ】
- 6回 人格と個性
- 7回 人格と文化
- 8回 社会的行動1【役割】
- 9回 社会的行動2【集団間関係】
- 10回 社会心理学と認知心理学との関連
- 11回 社会心理学と教育心理学との関連
- 12回 社会心理学と臨床心理学との関連
- 13回 社会心理学と福祉心理学との関連
- 14回 社会心理学と福祉学、教育学、社会学、人類学等との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 % 議論への参加等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習論研究【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- パトリシア・クラプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房
- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- その他、学会年報や紀要など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 生涯学習とは何か
- 3 政策動向と論点
- 4 社会教育学としての研究動向
- 5 生涯学習としての研究動向
- 6 国際的な政策・研究動向と論点
- 7 成人教育論の理論展開
- 8 成人教育論の論点
- 9 子どもの教育学と成人教育学
- 10 意識変容の学習とは
- 11 自己決定型学習とは
- 12 学習と学習支援
- 13 学習支援者の専門性と役割
- 14 学習成果の還元、学習社会とは
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と質疑応答…70%、レポート…30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学研究【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 E.Eriksonの漸成理論を拠り所にして、乳児期から老年期までの生涯発達を通じて、各発達段階における不適応の諸特徴、ならびに発達課題と不適応との関連を理解すると同時に、各発達段階に応じた臨床心理学的援助のあり方について考究する。その際、治療現場での臨床事例を取りあげ、その治療プロセスを詳細に検討することで、理論的・実践的な理解を深めていくこととする。

教科書 /Textbooks
 特に指定しない。プリントを配布する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 松島恭子 (編) 『ライフサイクルの心理療法』 創元社
 ○ 『臨床心理学体系3 ライフサイクル』 金子書房
 ○ 下山晴彦・丹野義彦 (編) 『講座 臨床心理学5 発達臨床心理学』 東京大学出版会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	オリエンテーション：本科目の概要と進め方
第2回～第4回	乳幼児期の不適応と臨床心理学的援助
第5回～第7回	児童期の不適応と臨床心理学的援助
第8回～第10回	青年期の不適応と臨床心理学的援助
第11回～第13回	中年期・老年期の不適応と臨床心理学的援助
第14回～第15回	ライフサイクルと不適応(これまでの内容をもとに全体討論を実施)

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業参加度 ... 10% 発表 ... 60% 討論への参加度 ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks
 発表者はレジユメを作成すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学研究【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本授業では、①発達障害、知的障害の子ども・青年に対する理解と支援、② いじめ、不登校、摂食障害、自傷行為など、多様なかたちで生じてくる今日の青少年の問題事象に対する理解と援助、③ 児童虐待、育児不安、産後うつ病などのかたちで生じてきている今日の「子育ての危機」の問題について、理論的なアプローチと事例研究的なアプローチの二つの側面から検討していくことを課題としたい。

教科書 /Textbooks

参加者と相談のうえ、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 事例検討 その1 幼児期の発達障害の事例
- 3回 事例検討 その2 児童期の発達障害の事例
- 4回 事例検討 その3 思春期の発達障害の事例
- 5回 事例検討 その4 被虐待状況に置かれている子どもの事例
- 6回 事例検討 その5 虐待サバイバーの方の事例
- 7回 講読演習 テキスト 第一章
- 8回 講読演習 テキスト 第二章
- 9回 講読演習 テキスト 第三章
- 10回 講読演習 テキスト 第四章
- 11回 講読演習 テキスト 第五章
- 12回 講読演習 テキスト 第六章
- 13回 参加者の研究計画の検討
- 14回 参加者の研究計画の検討
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70% 期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

フィールドを持っている方は積極的な事例報告をお願いしたい。講読演習のテキストは必ず事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論研究【夜】

担当者名
/Instructor

河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日の児童福祉問題と子どもを取り巻く社会環境について理解する。子どもとは何か、子どもの特性や子どもを理解する視点を踏まえ、子どものニーズに対応する社会システムについて考察する。児童福祉の理念としての子どもの権利条約を踏まえた子ども支援の方策について考察する。日本の子どもの現状だけではなく、世界の子どもの目を向け、今世界で何が起きているのが、子どもを取り巻く環境としての国や社会の在り方について考察する。
スウェーデンの学校や児童家庭福祉サービス等について、視聴覚教材や文献を用いて紹介する。

教科書 /Textbooks

必要に応じて提示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 子どものニーズと社会システム 【ヒューマンニーズの階層】
- 3回 子どもの成長・発達 【発達課題】 【発達観】 【ソーシャルスキル】
- 4回 子どもを理解する視点
- 5回 関係性に生きる存在、主体的存在としての子どもの事例
- 6回 歴史的、社会的存在としての子どもの事例
- 7回 子どもの歴史 【児童観の変遷】 【近代家族と子育て】 【母性神話】
- 8回 子どもの権利条約と児童福祉の理念 【国連子どもの権利委員会の勧告】 【子どもの意見表明権】
- 9回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 10回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 11回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 12回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 13回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 14回 子どもの権利をめぐる日本と世界の子どもたち
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50%、レポート・発表50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の発表も予定していますので、授業中に指示された事柄についての自主的学習とレポートの作成が必要になります。

キーワード /Keywords

障害者福祉論研究【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「社会福祉援助の実践と研究の視角」

社会福祉援助の（ないしは社会福祉援助に近接する）領域において、援助現場から汲み取ることのできる研究上の課題や、または社会福祉援助のあり方をめぐる研究課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、研究対象・方法を明らかにする。

教科書 /Textbooks

適時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1～5回 社会福祉援助の動向を、子ども、高齢者、障がい者、低所得・貧困者層の各領域で俯瞰する
- 第6～10回 社会福祉援助の課題に関する検討をおこなう
- 第11、12回 社会福祉援助の方法に関する報告と討論
- 第13～15回 社会福祉援助に関する研究論文の意味と位置を検討する

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告を総合して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

徹底して文献講読を行うので、そのための時間の確保に努めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者福祉論研究【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

講義は介護保険制度を中心に進めるが、福祉に対する文化社会的な視点、価値観等に照らし合わせて制度を考えるとともに、高齢者の生活基盤である地域社会における多様な問題を随時、検討する。また、高齢者の福祉に限定せず、受講者の身近に感じる問題や課題を取り入れて進める。この過程で介護サービスの柱である介護保険制度から高齢者福祉へと考察を広げていく。従って、講義は、介護保険制度や高齢者福祉を理解し習得するとともに、福祉に限定しない視点から、文化社会的課題と関連して、高齢者福祉の課題を明確化することをねらいとする。学生は人口高齢化による社会的課題と介護保険制度を理解し、身につけることができる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について
- 第2回 老年観、価値観等の文化的特徴【老年観】
- 第3回 高齢化・少子化、人口減少の現状
- 第4回 少子化に伴う社会的課題
- 第5回 人口減少の地域社会への影響
- 第6回 混住化と地域社会の現状【地域社会活動】
- 第7回 混住化と地域社会の現状【社会関係資本】
- 第8回 混住化と地域社会の現状【近隣関係】
- 第9回 老人福祉の推移【1990年まで】
- 第10回 老人福祉の推移【1990年以降】
- 第11回 介護保険制度の概要①【制度の概要】
- 第12回 介護保険制度の概要①【財源・政策論】
- 第13回 介護保険制度の概要②【法改正】
- 第14回 介護保険制度の概要②【法改正と改正後の課題】
- 第15回 孤立化と地域社会の課題【社会関係】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出40% 課題報告30% 参加度30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉コミュニティ研究【夜】

担当者名 /Instructor 渡辺 良司 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

社会情勢の変化は、家族や地域社会の関係性に影響を及ぼし、虐待や孤立死の問題など全国的に顕在化している。東日本大震災がもたらしたコミュニティへの影響も看過できない。これらの課題を、コミュニティ再生の視点から検証し、目指すべき「福祉コミュニティ」について考える。

また、北九州市における「福祉コミュニティ」形成の実践を中心としながら、住民活動と政策動向の両面から理解を深め、今後の「福祉コミュニティ」形成に向けた手法、理念について考察したい。

到達目標は、以下のとおり。

- ・ コミュニティの意味、機能を理解し、「福祉コミュニティ」形成に向けた自らの役割が判断できるようになる。
- ・ 住民活動や政策に関する理解を深め、自らの活動領域における関わりを明確にする。

教科書 /Textbooks

使用しない (必要に応じてプリント)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「福祉コミュニティ形成の研究 新版」大学教育出版
 「北九州市発21世紀の地域づくり」中央法規出版
 「誰もが安心して生きられる 地域福祉システムを創造する」ミネルヴァ書房
 「地域を拓いた人たち」北九州市社会福祉協議会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

第 1 回～第 3 回 現代社会とコミュニティ【コミュニティ】【福祉コミュニティ】【超高齢社会】

【地域組織】

第 4 回～第 6 回 福祉コミュニティの課題【個人と家族】【孤立】【コミュニティケア】【住民参加】

【災害時要援護者】

第 7 回 福祉コミュニティの理論【地域福祉】【ソーシャルインクルージョン】【住民自治】

第 8 回～第 10 回 北九州市の福祉コミュニティづくり【コミュニティワーク】【ネットワーク】

第 11 回～第 12 回 福祉コミュニティ事例研究【当事者組織化】【まちづくり】【権利擁護】【介護予防】

第 13 回 福祉コミュニティ形成の技術【ニーズ把握】【啓発】【福祉教育】【地域福祉計画】

第 14 回～第 15 回 福祉コミュニティ形成の課題【エンパワメント】【地域包括システム】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・平常点... 30% 期末試験(レポート)... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

受講にあたっては、自分の住む町や北九州市の住民活動、行政の保健福祉、コミュニティ施策の状況をできるだけ情報収集して授業にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境学研究【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、歴史時代を通して変化しており、文明は環境の変遷に伴って生まれ消滅してきました。環境変遷と、文明の盛衰との関連を考えることは、現代の環境問題の解決、ひいては文明の行く末を見きわめる手がかりともなると考えられます。本演習では、環境変遷と文明の関連について、特に日本人の日本列島への渡来と環境の関係について考えます。

この科目の主な到達目標は以下のとおりです。
人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。
人間と文化の環境との関わりに関する諸問題を調査・分析できる。

教科書 /Textbooks

「日本人はるかな旅 1～5」(NHKスペシャル「日本人」プロジェクト編 NHK出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「環境と倫理 自然と人間の共生を求めて」(加藤尚武編 有斐閣 1890円)
「人類史のなかの定住革命」(西田正規著 講談社 950円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
最初の授業で、分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールを進めることになります。
テキストを読んで発表・討論し、併せて同一タイトルで出版されているDVDも視聴します。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 30% 発表の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表の担当でない回でもテキストを読んでおいてください。また、新聞など目を通し、関連する記事があれば読んでおくことより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生態人類学研究【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら、多様な環境における人間の適応と社会システムについて検討する。また方法論としてのフィールドワークによるデータの分析・考察の手法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

各自の興味を考慮し文献を決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の興味を考慮し文献を決める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認と文献の選択。
- 第1講 生態人類学の先行研究
- 第2講 文献の発表とそれに基づくディスカッション【人間性の起源】
- 第3講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第4講 文献の発表とそれに基づくディスカッション【異文化理解】
- 第5講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第6講 文献の発表とそれに基づくディスカッション【共役不可能性】
- 第7講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第8講 文献の発表とそれに基づくディスカッション【自然と人間】
- 第9講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第10講 文献の発表とそれに基づくディスカッション【贈与交換】
- 第11講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第12講 文献の発表とそれに基づくディスカッション【環境認知】
- 第13講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第14講 文献の発表とそれに基づくディスカッション
- 第15講 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッションとレポート

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学研究【夜】

担当者名 須藤 廣 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文化研究をめざす者と地域研究をめざすもの両方の研究、学習に役立つような授業をめざす。現代文化の特徴、特にポストモダン文化の特徴の解説に力点をおく。

教科書 /Textbooks

受講生と話し合った後に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と話し合った後に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文を読み(又は社会調査を行い)参加学生がレジュメにて報告
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う。テーマは以下の通り。

- 1回目 後期近代について
- 2回目 Z・パウマン論
- 3回目 J・ヤング論
- 4回目 A・ギデンズ論
- 5回目 リスク社会について
- 6回目 ポストモダニズムの文化についての理論
- 7回目 ポストモダニズムの文学
- 8回目 ポストモダニズムの哲学
- 9回目 ポストモダニズムの映画
- 10回目 ポストモダニズムの絵画
- 11回目 ポストモダニズムの音楽
- 12回目 F・ジェイムソンとポストモダニズム
- 13回目 観光文化とポストモダニズム
- 14回目 デイズニー化論
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20% レジュメ 30%、レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文化社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズの領域に興味があり、かつある程度の知識があること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ポストモダニズム、現代アート、カルチュラルスタディーズ、文化、言語、

都市社会学研究【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。

具体的には、以下の事柄について理解する。

- (1) 産業化と都市化の関係
- (2) 都市社会学の2大潮流としてのシカゴ学派都市社会学と新都市社会学の基本的な考え方
- (3) さまざまな社会現象における「都市的なるもの」の意味
- (4) 都市計画の課題と可能性
- (5) 都市における社会現象を把握する技法

なお、授業は演習形式も交えて行う。

教科書 /Textbooks

『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』, 町村敬志・西澤晃彦著, 2000, 有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『よくわかる都市社会学』, 中筋直哉・五十嵐泰正編著, 2013, ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 近代都市の誕生
- 第3回 都市へのまなざし
- 第4回 都市的世界の構造
- 第5回 個性化のメカニズム
- 第6回 階級・階層生成のダイナミクス
- 第7回 都市生活の基盤
- 第8回 居住点から広がる社会
- 第9回 郊外という迷宮
- 第10回 政治権力と都市
- 第11回 見える都市、見えない都市
- 第12回 都市の計画と再生
- 第13回 ユートピアとしての都市
- 第14回 都市研究の方法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)... 70% 参加・貢献度... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。

文献について報告してもらうので、(1) 概要、(2) 内容要約、(3) 論点整理、(4) 議論を記したレジュメの用意が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ、都市問題、シカゴ学派、人間生態学、アーバニズム、ネットワーク分析、新都市社会学、構造分析、集合的消費、社会階層、社会移動、社会的資源、エスノグラフィー、社会地図、参与観察、NPO、町内会、都市レジーム、地域開発、都市計画、再開発、反都市主義

社会心理学演習【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

地域コミュニティという専攻の特質上、受講生各自が持つ問題意識は多岐にわたっている。それらの問題が、実際の社会心理学の研究とどのように関連しているかを理解してもらうことが目標である。社会心理学の研究論文を各自が読んでまとめたものを発表し、受講者で議論するという標準的な演習形式で進める。最初の数回の授業では、各自が興味をもつ社会現象等を発表し、それらがこれまで蓄積されてきた社会心理学的研究のどこに関連するのを探り、その後の授業は発表と議論にあてられる。

各受講生が関心を持つ特定の社会現象について、社会心理学的研究の内容を踏まえることで解釈が変化したことを説明できるようになることが到達目標である。

教科書 /Textbooks

発表に用いるのは『心理学研究』、『社会心理学研究』、『実験社会心理学研究』等の雑誌である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の2, 3回(受講の人数によって異なる)は、各自が興味をもつ社会現象等を発表し、それらがこれまで蓄積されてきた社会心理学的研究のどのような分野に関連するのを探っていく。

実際の社会心理学的研究に関連しそうでいくつかのキーワードが出てきた時点で、『心理学研究』、『社会心理学研究』、『実験社会心理学研究』等の中から発表したい論文を選び、その内容を報告してもらう。論文内容を報告するとともに、自分の研究テーマとの関わりを紹介し、それについて議論する。

1回の授業に発表者は1人。1編の論文を報告してもらう。従って発表回数は受講の人数によって異なるが、例年は1人2回程度である。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 興味のある社会現象を発表
- 3回 関連するキーワードの選出
- 4回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【ストレス】
- 5回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【バーンアウト】
- 6回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【児童虐待】
- 7回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【親子の愛着】
- 8回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【エラーの指摘】
- 9回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【リスク認知】
- 10回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【進路決定過程】
- 11回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【職業アイデンティティ】
- 12回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【友人関係】
- 13回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【家族関係】
- 14回 研究論文の報告、自分の研究テーマとの関連について議論【組織行動】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 % 議論への参加等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表者は前の回の授業で次回の発表内容の概略を伝える事、その予告をもとにして他の受講生は予習をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習論演習【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

ライフステージごとの学習要求や学習課題、生涯にわたる学習や教育について、学習者がどのように変容していくのか、また、そうした変容を促す働きかけや条件とは何か。学習者の成長の法則性を明らかにしながら、それらを編成・促進する専門性について理解を深めることをねらいとしている。

教科書 /Textbooks

必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

社会教育学会年報や紀要など
月刊社会教育

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

個々の研究テーマに近接する学習や教育に関わる研究や、諸課題を「解決」する動向・運動の展開について整理しながら、その教育的価値や変容のプロセス、支援のあり方に関する討議を行う。

- 1 ガイダンス
(2～14 発表をもとに討議を行う)
- 2 学習ニーズと学習課題
- 3 子育て・家庭教育
- 4 学校教育と社会教育
- 5 子どもの学校外教育
- 6 若者の学習
- 7 女性の学習
- 8 高齢者の学習
- 9 社会的排除と学習
- 10 学習をめぐる法制度
- 11 生涯学習関連施設と学習支援者
- 12 NPO・NGOと学習
- 13 地域づくりと学習
- 14 自己教育と相互教育
- 15 まとめ—総括討論

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (発表と討議)
授業態度と発表・・・70%、討論参加・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床心理学演習【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

心理臨床は現在、教育、福祉、医療、保健、司法といった多様な領域においてその専門性が発揮されている。そこで本演習では、心理臨床がこれらの各領域でどのように機能しているかを把握することに主眼をおくこととする。具体的には、受講者が関心を持つ領域での臨床心理士の活動に関する文献を各自で検索・収集して演習でプレゼンテーションし、それを題材として全体でのディスカッションを行いながら、心理臨床の実際についての理解を深めることとする。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 不適応の発生メカニズムについて理解することができる。
- ・ 不適応に対する具体的な援助の指針や進め方を導き出すことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。プリントを配布する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要と進め方
- 第2回 教育領域における心理臨床(その1)【不登校】
- 第3回 教育領域における心理臨床(その2)【いじめ】
- 第4回 福祉領域における心理臨床(その1)【虐待】
- 第5回 福祉領域における心理臨床(その2)【愛着障害】
- 第6回 医療・保健領域における心理臨床(その1)【精神障害】
- 第7回 医療・保健領域における心理臨床(その2)【心理療法】
- 第8回 医療・保健領域における心理臨床(その3)【心理アセスメント】
- 第9回 医療・保健領域における心理臨床(その4)【乳幼児健診】
- 第10回 医療・保健領域における心理臨床(その5)【子育て相談】
- 第11回 司法・矯正領域における心理臨床【非行】
- 第12回 産業領域における心理臨床(その1)【ニート】
- 第13回 産業領域における心理臨床(その2)【キャリアカウンセリング】
- 第14回 臨床心理士は何ができるのか？
- 第15回 まとめ：心理臨床の実際(これまでの内容を基に全体討論を実施)

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 60% 討論への参加度 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表者はレジユメを作成すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学演習【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description
 本授業では、今日子ども・青年の中で生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題について、文献講読と事例検討を通じて深めていく。

教科書 /Textbooks
 参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 授業中に適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 全体オリエンテーション
 - 2回 事例検討 その1 児童期の発達障害の事例
 - 3回 事例検討 その2 思春期の発達障害の事例
 - 4回 事例検討 その3 学生の発達障害の事例
 - 5回 事例検討 その4 被虐待児の事例
 - 6回 事例検討 その5 虐待サバイバーの方の事例
 - 7回 講読演習 テキスト 第一章
 - 8回 講読演習 テキスト 第二章
 - 9回 講読演習 テキスト 第三章
 - 10回 講読演習 テキスト 第四章
 - 11回 講読演習 テキスト 第五章
 - 12回 講読演習 テキスト 第六章
 - 13回 参加者の研究計画の検討
 - 14回 参加者の研究計画の検討
 - 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常点50%、期末レポート50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

児童福祉論演習【夜】

担当者名
/Instructor

河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期

2学期

授業形態

演習

クラス

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

児童家庭福祉の研究にジェンダーの視点を取り込むことをねらいとしている。今日、「格差」をめぐる問題が顕在化し、「貧困の女性化」として母子世帯の貧困問題が福祉の課題となっている。また、育児や介護の担い手としての「ケアの女性化」をめぐる問題、児童虐待、配偶者の暴力など家族内暴力の背景にもジェンダーの問題が介在している。児童家庭問題の背景にジェンダーの問題がどのように介在しているかは、国や社会の在り方と大きく関係している。雇用、社会保障、福祉における家族の位置づけ、ジェンダー平等政策など、いくつかの福祉国家の姿を通して児童家庭問題の背景にあるジェンダー問題を浮き彫りにできればと考える。スウェーデン社会の状況については、視聴覚教材を用いて紹介するつもりである。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 大沢真理 『福祉国家とジェンダー』 明石書店
- 河嶋静代 「フェミニズムの視点による社会福祉研究の視座」 『アジア女性研究』 第17号
- 杉本貴代栄 『社会福祉の中のジェンダー』 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 福祉レジーム
- 3回 福祉レジーム 【家族モデル】 【社会保障】
- 4回 福祉レジーム 【ケア労働の女性化】 【貧困の女性化】
- 5回 児童家庭問題とジェンダー
- 6回 児童家庭問題とジェンダー
- 7回 児童家庭問題とジェンダー
- 8回 児童家庭問題とジェンダー
- 9回 福祉国家とジェンダー
- 10回 福祉国家とジェンダー
- 11回 福祉国家とジェンダー
- 12回 福祉国家とジェンダー
- 13回 福祉国家とジェンダー
- 14回 福祉国家とジェンダー
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況... 50% レポート・発表... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の発表も予定していますので、授業の中で指示された事柄について自主学習とレポートの作成が必要です。

キーワード /Keywords

障害者福祉論演習【夜】

担当者名 /Instructor 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「障害者福祉の現代的課題と研究の視角」

障害者福祉の（ないしは障害者福祉問題に関連する近接）領域において頻繁に取り上げられる重要なキーワードを拾い上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべき課題を明らかにする。そのことを通して研究方法のあり方や研究課題の設定の仕方をも身につけることを目的とする。

いくつかのキーワード

【障害者福祉の思想 - ノーマライゼーション・インクルージョン、インクルージョン】

【福祉ミックス - 福祉供給システムの多元化】

【ピアカウンセリング】 【エンパワーメント】

【権利擁護システム（例えばオンブズマン、成年後見制度・日常生活自立支援事業）】

【福祉の市場化】 【社会福祉基礎構造改革】 【措置制度から契約制度へ】

【施設解体・地域生活支援】 【施設 - 地域コンフリクト】 【障害者プラン - 障害福祉計画】

【障害者とIT】 【障害者スポーツ】 【扶養義務規定と家族支援】 【出生前検診】

【障害者と介護保険】 【障害者総合支援法】

など。

教科書 /Textbooks

小賀 久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～5回 障害者福祉領域の課題・動向に関する講義
- 第6～13回 主要なキーワードに関する報告と討論
- 第14、15回 まとめの議論

成績評価の方法 /Assessment Method

参加意欲・レポート・報告等を総合して最終的に評価を行なう。

参加意欲 ... 20% レポート ... 40% 報告 ... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキスト、参考文献の熟読。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者福祉論演習【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

人口構成の高齢化が進展し、2050年頃には40%近い高齢化率に達すると推計されている。この間に、75歳以上人口や85歳以上人口の増加が見込まれている。このような高度高齢社会への人口転換がもたらす社会的影響について、心理・社会的な視点から講義を進める予定。これにより高度高齢社会への移行期に生じうる心理・社会的課題について理解することができる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない(資料配布等による)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方
- 第2回 人口構造の高齢化の推移と要因
- 第3回 人口ボーナスと人口オナー
- 第4回 高齢者の社会的適応と社会理論 (心理学的視点から)
- 第5回 高齢者の社会的適応と社会理論 (社会学的視点から)
- 第6回 高齢者の心理・社会的課題 (認知機能の変化)
- 第7回 高齢者の心理・社会的課題 (文化的位置づけとアイデンティティ)
- 第8回 高齢者のQOLの課題
- 第9回 高齢者の家族関係 (介護、認知症、虐待等)
- 第10回 近隣の社会関係の課題
- 第11回 高齢者の介護・福祉・医療の制度的側面 (介護保険制度、後期高齢者医療制度)
- 第12回 社会保障の財政的課題
- 第13回 高齢化に伴う労働力の課題
- 第14回 人口高齢化に伴う地域的政策課題 (社会参加、社会的支援等)
- 第15回 まとめ (高齢化の長所、短所など)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの提出40%、講義への参加 (報告等) 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境学演習【夜】

担当者名 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、歴史時代を通して変化しており、文明は環境の変遷に伴って生まれ消滅してきました。環境変遷と、文明の盛衰との関連を考えることは、現代の環境問題の解決、ひいては文明の行く末を見きわめる手がかりともなると考えられます。

本演習では、環境変遷と文明の関連について、特に日本人の日本列島への渡来と環境の関係について考えます。

教科書 /Textbooks

「日本人はるかな旅1～5」(NHKスペシャル「日本人」プロジェクト編 NHK出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 「環境と倫理 自然と人間の共生を求めて」(加藤尚武編 有斐閣 1890円)
- 「人類史のなかの定住革命」(西田正規著 講談社 950円)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

最初の授業で、分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールを進める。

テキストを読んで発表・討論し、併せて同一タイトルで出版されているDVDを見る。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の積極性 ... 30% 発表の内容 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

発表の担当でない回でもテキストを読んでおくこと。また、新聞など目を通し、関連する記事があれば読んでおくことより理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生態人類学演習【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

人類学や社会学など社会科学の分野で広くおこなわれている質的調査の方法論のひとつであるフィールドワークについて実地のデータを用いながら学習する。各自の研究テーマを題材にして、フィールドでのデータの収集・考察の手法を学ぶ

教科書 /Textbooks

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認とオリエンテーション
- 第1講 フィールドワークに関する基本的文献
- 第2講 実際のデータの活用のされ方と分析手法
- 第3講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【基礎】
- 第4講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【実践】
- 第5講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション【応用】
- 第6講 調査課題の提出
- 第7講 調査計画の検討
- 第8講 データの収集と類型化
- 第9講 データの分析と考察
- 第10講 先行研究とのすりあわせ
- 第11講 他の調査方法との組み合わせ
- 第12講 研究成果に関するディスカッション
- 第13講 研究成果に関するプレゼンテーション
- 第14講 問題点の抽出
- 第15講 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション 70%
レポート 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。
実際の調査データを収集する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク
社会調査

文化社会学演習【夜】

担当者名 /Instructor 須藤 廣 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

文化社会学、社会意識論のセミナーである。文化を研究する院生と地域社会を研究する院生両方の研究に役立つような研究をめざす。一学期の文化社会研究セミナーの議論を踏まえ、さらに現代文化研究に関する論文を読み、討論を行う。学外における実証的研究の指導も含む。

教科書 /Textbooks

受講生と話し合った後に指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と話し合った後に指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文を読み(又は社会調査を行い)参加学生がレジュメにて報告
司会、発表者、コメンテーター共に学生が分担して行う。テーマは以下の通り。

- 1回目 後期近代について論文を輪読する
- 2回目 A・ギデンズについての論文を輪読する
- 3回目 ポストモダニズムの文化についての理論についての論文を輪読する
- 4回目 ポストモダニズムの文化についての理論
- 5回目 ポストモダニズムの文学・哲学についての論文を輪読する
- 6回目 F・ジェイムソンとポストモダニズムについての論文を輪読する
- 7回目 F・ジェイムソンとポストモダニズムについての論文を輪読する
- 8回目 観光文化とポストモダニズムについての論文を輪読する
- 9回目 観光文化とポストモダニズムについての論文を輪読する
- 10回目 デイズニー論についての論文を輪読する
- 11回目 デイズニー論についての論文を輪読する
- 12回目 デイズニー論についての論文を輪読する
- 13回目 受講生の研究関心について発表する
- 14回目 受講生の研究関心について発表する
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20% レジュメ 30%、レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文化社会学、文化人類学、カルチュラル・スタディーズの領域に興味がありかつ知識があること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ポスト・モダニズム、観光文化、消費主義、デイズニー

キーワード /Keywords

都市社会学演習【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「都市と社会的排除」に関する著書・論文についてのテキスト批評を行う。
議論を通して、都市社会を実証的に分析するための基本的な考え方と技法を身につける。

教科書 /Textbooks

授業の第1回目に報告文献リストの中から決定する。

以下のものを考えている。

稲月正・奥田知志編著、『生活困窮者自立支援』,明石書店,2014(予定)
岩田正美著、『社会的排除 - 参加の欠如・不確かな帰属』,有斐閣,2008
西澤晃彦著、『貧困の領域 - 誰が排除されているのか』,河出ブックス,2010
青木秀男編、『ホームレス・スタディーズ - 排除と包摂のリアリティ』,ミネルヴァ書房,2010 など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN / テキストの決定
- 第2回 生活困窮とは何か、社会的排除とは何か
- 第3回 貧困と社会的排除の関係
- 第4回 ホームレス化の過程
- 第5回 若年ホームレスと社会への「中途半端な接合」
- 第6回 地域空間と社会的排除
- 第7回 福祉制度と社会的排除
- 第8回 野宿者の社会的世界
- 第9回 「国民」化と社会的排除
- 第10回 「社会的なもの」と社会の再構築
- 第11回 家族規範とホームレス
- 第12回 「女性ホームレス」から見えてくるもの
- 第13回 社会的排除へ対抗するもの
- 第14回 社会的包摂のあり方
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(レポート)...70% 参加・貢献度...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告者は、(1)文献概要、(2)内容要約、(3)論点の整理、(4)議論を記したレジユメを用意する必要がある。また、報告者以外の受講者も(当然のことながら)報告文献について事前に読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活困窮、経済的困窮、社会的孤立、社会的排除、社会的包摂、貧困、ホームレス、都市政策

教育制度論研究【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育のシステムについての専門的な知識を習得し、理解を深める。

目標

- ①教育のシステムを研究する上で必要な知識を習得する。
- ②教育のシステムの諸課題を整理し、対応策について考えることができる。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 多様なニーズと学習権
- 3回 公教育の「危機」と「再生」
- 4回 多様化する学校教育の供給主体
- 5回 教育の「質」確保と教育システム
- 6回 教育のアーティキュレーション
- 7回 「学ぶ」ことと「働く」ことの接続
- 8回 「効果的な学校」とは？ チャータースクール
- 9回 「効果的な学校」とは？ コミュニティスクール
- 10回 エスニシティと多文化教育
- 11回 エスニシティと「シティズンシップ」の教育
- 12回 教師の力量とアイデンティティ形成
- 13回 学習する組織
- 14回 学校と地域の協働
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度... 40% 発表報告... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境社会学研究【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま(山)」、さらに森や社、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

教科書 /Textbooks

- コンラッド・タットマン「日本人はどのように森をつくってきたのか」
 - 宮本常一「山村と国有林」「日本の中央と地方」
 - 「森林・林業白書」前年度版
- その他、各自の関心にあわせて紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
- 2 回 本講義の基礎知識と議論 1 (森林と資源)
- 3 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 4 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 5 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 6 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 7 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 8 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 9 回 本講義の基礎知識と議論 2 (森林と社会)
- 10 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 11 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 12 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 13 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 14 回 文献講読 (文献の読み取りと討論)
- 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (討論への参加含む) ...50% 事前調査と発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

森林 (山林)、林業、山村 (農村、村) をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくことが期待される。

キーワード /Keywords

教育制度論演習【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

教育の制度についての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。

授業前半は教育の制度に関わる共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。

後半は教育の制度に関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

目標

①教育の制度を研究する上で必要な専門的知識を習得する。

②教育の制度に係わる諸課題について、調査・分析できる。

教科書 /Textbooks

なし。

資料は初回に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 3回 学校教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 4回 教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 5回 学校教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 6回 学校教育の制度（英語圏以外の欧州）に関する研究論文の検討
- 7回 学校教育の制度（東・東南アジア）に関する研究論文の検討
- 8回 中間まとめ
- 9回 収集した文献・資料の検討1【日本の学校教育】
- 10回 収集した文献・資料の検討2【日本の社会教育】
- 11回 収集した文献・資料の検討3【英語圏の教育制度】
- 12回 収集した文献・資料の検討4【東・東南アジアの教育制度】
- 13回 収集した文献・資料の検討5【学校とコミュニティ】
- 14回 収集した文献・資料の検討6【教育と福祉】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境社会学演習【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま(山)」、さらに森や社、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

教科書 /Textbooks

- 筒井迪夫「森林文化への道」
- 北村昌美「森林と日本人」
- その他、各自の関心テーマにあわせて選択する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
- 2回 森林文化に関わる研究史について
- 3回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 4回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 5回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 6回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 7回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 8回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 9回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 10回 新しい森林文化の研究について
- 11回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 12回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 13回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 14回 文献講読(文献の読み取りと討論)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(討論への参加含む)...50% 事前調査と発表内容...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

森林(山林)、林業、山村(農村、村)等をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくことが期待される。

キーワード /Keywords

英米文化研究I (米文化)

【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

アメリカ現代演劇を代表するアーサー・ミラーとテネシー・ウィリアムズの戯曲のテキストを精読・解釈・分析する。その際には、アメリカ社会の独自性、特殊性を作品がどのように映し出しているかという点を特に理解できるように注意を払っていく。既成の評価にとらわれず、可能な限り、独自の作家像を授業を通して提示したい。そのような作業を通して、作者の人間観、世界観の特質、作品と社会背景との関連性などに関する分析力を身に付けることを目的とする。

また、アーサー・ミラーは、ユダヤ系アメリカ人である。そのような作者の民族性が作品にどのような形で反映されているかを考えることにより、作品におけるユダヤ人的な視点、発想が、純アメリカ的な他の文学作品の中の視点と、どのような関係を形成しているかに関する理解も深めてもらう。同様に、ウィリアムズの作品が舞台としている南部の文化の独自性と作品内容との関連性についても理解を深めたい。また、『欲望という名の電車』は映画化されている。原作と映画を比較検討することにより、原作と映画との関係に関する分析力も高めたい。

他にも、作品に関連した英語の評論文の読解も時間が許す限り行ないたい。そうすることにより、英語の評論文や古典的な文学作品を読みこなせるだけの英語力も、可能な限り身に付けたい

教科書 /Textbooks

Death of a Salesman Arthur Miller 南雲堂
A Streetcar Named Desire Tennessee Williams A New Directions Paperback ISBN: 978-0-8112-1602-9
受講希望者は事前に、上記テキストをアマゾンや生協等で購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アーサー・ミラー全集I』 早川書房 倉橋健訳
- Willy Loman Ed. Harold Bloom Cherssea House Publishing
- 『欲望という名の電車』 テネシー・ウィリアムズ 新潮文庫
- The Cambridge Companion to Tennessee Williams Ed. Matthew Roudane Cambridge UP

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|--------------------------------|------------------------------|
| 1回 | Arthur Miller に関する概説 | |
| 2回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 過去の位置付けのユダヤ的特質に関する分析 |
| 3回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 女性描写のユダヤ的特質の分析 |
| 4回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | スポーツ描写のユダヤ的特質の分析 |
| 5回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 家族描写のユダヤ的特質の分析 |
| 6回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 物質主義の取り扱い方の分析 |
| 7回 | Death of a Salesmanの読解・分析 | 英語評論文の輪読 |
| 8回 | Tennessee Williamsに関する概説 | |
| 9回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 小道具がテーマの展開に如何に寄与しているかについての考察 |
| 10回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 作中の音楽と南部文化との関連性に関する考察 |
| 11回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | ブランチの生き方の南部性に関する考察 |
| 12回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 作者の世界観、人間観の南部的特質の考察 |
| 13回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 作中の女性像の特質に関する考察 |
| 14回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 原作と映画の比較研究 |
| 15回 | A Streetcar Named Desireの読解・分析 | 英語評論文の輪読 |

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストの指定された箇所(20ページ程度)を、授業前に読んでおくこと。
また、発表を担当する際には、指示に従ってレジユメを作成しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化研究II (英文化) 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean comedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare) ed. by Jonathan Bate and Eric Raasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)
A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen understanding and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – 'Reading' Shakespeare
Class 2: Defining Comedy 1: The Fool
Class 3: Defining Comedy 2 Endings
Class 4: The Business of Comedy 1: Pleasure
Class 5: The Business of Comedy 2: Pain
Class 6: The Players: Casting and Creation
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Marriage 1: Historical Accounts
Class 9: Renaissance Marriage 2: Fictional Accounts
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director's Problems

成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Required preparation will be discussed during the first class

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文学研究I (米文学) 【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

英米文学研究I (米文学研究) では、「20世紀の意識の流れの文学」の先駆となったH. James、「ロストジェネレーション」の代表的作家F. S. フィッツジェラルド、E. ヘミングウェイ等を読む。

教科書 /Textbooks

テキストは以下の通りです。各作家と作品の参考文献と翻訳等は図書館にあります。

Mark Twain: The Adventures of Huckleberry Finn (Norton Critical Edition)

Ernest Hemingway: The Sun Also Rises (Norton Critical edition)

F.S. Fitzgerald: The Great Gatsby (Charles Scribner & Son)

Henry James: The Portrait of a Lady (Norton Critical Edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考文献と資料等は、その都度プリントにして配布いたします。

参考書などは、図書館の指定図書コーナーに開架し、さらに授業中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Mark Twain: The Adventure of Huckleberry Finn 第1章～第10章
- 第2回 Mark Twain: The Adventure of Huckleberry Finn 第11章～第20章
- 第3回 Mark Twain: The Adventure of Huckleberry Finn 第21章～第30章
- 第4回 Mark Twain: The Adventure of Huckleberry Finn 第31章～第42章
- 第5回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 第1章～第4章
- 第6回 F. S. Fitzgerald: The Great Gatsby 第5章～第9章
- 第7回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 第1章～第5章
- 第8回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 第6章～第10章
- 第9回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 第11章～第15章
- 第10回 Ernest Hemingway: The Sun Also Rises 第16章～第19章
- 第11回 Henry James: The Portrait of a Lady 第1章～第10章
- 第12回 Henry James: The Portrait of a Lady 第11章～第22章
- 第13回 Henry James: The Portrait of a Lady 第23章～第34章
- 第14回 Henry James: The Portrait of a Lady 第35章～第46章
- 第15回 Henry James: The Portrait of a Lady 第47章～第55章

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート (70%) と発表 (30%) で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストは読むこと、また、授業中に指示した参考書等を読むこと。

発表者は、前日までにE-mail等で発表レポートを提出すること。

発表者は、前日までにE-mail等で発表レポートを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【アメリカ人とは】【新大陸アメリカvs旧大陸ヨーロッパ】【フロンティア】【American Dream】【資本主義 (成金) 】【世界大戦】【ニヒリズム】【アメリカの新しい女たち】【意識の流れの文学】

英語学研究I (日英語比較) 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本語と英語は、系統はもとより語彙・文法も大きく異なる2言語である。本講義では音韻・形態・語彙・統語・意味・談話などの面からその違いを取り上げ、比較対照しつつ、その裏にあるより抽象度の高いレベルでの共通性・一般性を、生成文法理論や機能主義理論の枠組みを用いてとらえる。

そして、そのような分析が実際の英語教育や日本語教育の現場で遭遇する問題にどう生かせるかも議論する。

教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定
その他プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中右 実(編)『日英語比較選書』。研究社。
 - Levin, B. 1993. English Verb Classes and Alternations. Chicago: The University of Chicago Press.
 - Tsujiura, N.(ed.) 1996. The Handbook of Japanese Linguistics. Cambridge: Basil Blackwell.
- その他授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学および英語学の研究方法
- 第2回 音声学・音韻論1：日英語の音素比較
- 第3回 音声学・音韻論2：日英語の音節構造比較
- 第4回 形態論1：日英語の派生形態論と屈折形態論
- 第5回 形態論2：日英語の複合語形成比較
- 第6回 統語論1：日英語の文構造比較
- 第7回 統語論2：日英語の文構造を決定するパラメータ
- 第8回 意味論1：日英語の項構造比較
- 第9回 意味論2：日英語の語彙概念構造比較
- 第10回 語用論1：日英語の発話行為比較
- 第11回 語用論2：日英語のポライトネス比較機能主義言語学の日英語比較
- 第12回 談話分析：日英語の情報構造比較
- 第13回 事例研究1：英語の冠詞指導と日本語の助詞指導
- 第14回 事例研究2：日英語の会話指導
- 第15回 事例研究3：CALLシステムを用いた指導

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 5% 発表 30% 期末レポート 65%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究II (社会言語学) 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義は英語という言語を様々な視点から観察し、英語学研究に必要な基本的知識と理論を受講生が習得することを目的とする。英語史（英語の歴史）、英語音声学（英語の発音・強勢・リズム・イントネーション）、音韻論（英語発音の規則）、社会言語学（英語の地域変種・社会変種、英語の変化）等の分野に焦点を当てる。各研究分野の具体例を紹介しながら基本的理論を解説し、受講生の英語学研究分野に関する理解を深めることを目指す。

教科書 /Textbooks

（予定）山内信幸・北林利治 共編著（2014）『現代英語学へのアプローチ』．英宝社．

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODククション
- 2回 英語学とは
- 3回 英語史(1) 英語の誕生
- 4回 英語史(2) 近代英語
- 5回 英語史(3) 新大陸の英語
- 6回 社会言語学(1) 英語の地域的変種
- 7回 社会言語学(2) 英語の言語接触
- 8回 社会言語学(3) 英語の社会的変種 I
- 9回 社会言語学(4) 英語の社会的変種 II
- 10回 英語音声学(1) 母音
- 11回 英語音声学(2) 子音
- 12回 音韻論
- 13回 協調の原理とポライトネス
- 14回 英語の習得
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学研究Ⅳ (通訳) 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、「通訳」を理論的に考察することを目的としています。英語学研究という表題からも窺えるように、おもに英語と日本語の間での通訳について、そのメカニズムを分析し、そこで起こっていることをコミュニケーションの立場から見つめ、通訳理論を検証し言語学的に分析したりといった理論的な側面を中心に取り組んでいきたいと思ひます。ただし、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳についても考えていきます。こうしたことを念頭に置いた上で、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいかなど、通訳者として務めていくために考えなければならない様々な問題についても検討し、ディスカッションしていきます。ただし、この分野は音楽やスポーツと同様で、実技を伴わない考察は深まりませんので、通訳訓練を体験してもらうことも予定に組み込みます。また、通訳訓練法や通訳理論を英語教育に応用すること、背景知識、特に政治・経済・国際情勢等について学ぶことも、この授業の研究課題としたいと思ひます。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳という業務、通訳者の役割を学ぶ、②通訳理論、通訳に必要なスキルを学び、必要な実践を行なう、③通訳に必要な背景知識を身につける、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 異文化間コミュニケーションとしての通訳
- 第03回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(1)：コミュニティー通訳、等
- 第04回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(2)：会議通訳、ビジネス通訳、等
- 第05回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(3)：医療通訳、法廷通訳、等
- 第06回 アジアにおける通訳事情とリレー通訳
- 第07回 通訳者養成のための訓練法概説
- 第08回 通訳者養成のための訓練法の実践
- 第09回 リスニングの考察
- 第10回 ノートテキングの理論と実践
- 第11回 背景知識を学ぶ(1)：ニュース記事から政治・経済について学ぶ
- 第12回 背景知識を学ぶ(2)：ニュース記事から国際情勢について学ぶ
- 第13回 背景知識を学ぶ(3)：ニュース記事から諸情報を得る
- 第14回 通訳の実践演習
- 第15回 全体のまとめとディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
授業への積極的参加の度合い50% + 発表または実技50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎時間、次週の内容を確認しますので、あらかじめご準備いただいた上でご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実戦した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思ひます。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード /Keywords

英米文化演習I (米文化)

【夜】

担当者名 吉川 哲郎 / KIKKAWA TETSUROU / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1960年代のミュージカル映画と演劇について学ぶ。

教科書 /Textbooks

文献は初回の授業で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 1920年代～1950年代
- 3回 時代背景
- 4回 『ウエストサイド物語』
- 5回 『マイ・フェア・レディ』
- 6回 『サウンド・オブ・ミュージック』
- 7回 「イギリス人の侵入」
- 8回 ザ・ビートルズ
- 9回 ロック・ミュージカル
- 10回 アフロ・アメリカンの音楽
- 11回 「人種のサラダ」
- 12回 「寛容な社会」
- 13回 ポプ・フォッシー
- 14回 アンドリュー・ロイド＝ウェーバー男爵
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...20% 発表...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習を必ず行い、プレゼンの資料を用意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の頭で考えてください。教師に対し理論的な戦いを挑み、倒すことを考えている院生を大歓迎します。
演習室はコロシアム。

キーワード /Keywords

【ミュージカル演劇】 【時代との関連】 【作品の種類】

英米文化演習II (英文化) 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education
Class 6: Politics and the Play
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Required preparation will be discussed during the first class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文学演習I (米文学) 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによって、アメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて、本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critica Edition ISBN: 978-0-393-96640-4
受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- *Huck Finn* Ed. Harold Bloom Chelsea House Publisher
- *Coming to Grip with Huckleberry Finn* Tom Quirk University of Missouri Press
- 『ハックルベリーフィンの冒険』(上、下) 西田実訳 岩波文庫

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方に関するオリエンテーション Mark Twain に関する概説
- 2回 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説
- 3回 1 - 4章 作中のキリスト教の位置づけ
- 4回 5 - 8章 アメリカ文学における父親のイメージ
- 5回 9 - 12章 ハックのジムに対する姿勢の本質
- 6回 13 - 16章 ハックとジムの論争の描写の意味について
- 7回 17 - 23章 グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴
- 8回 24 - 27章 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義
- 9回 28 - 31章 メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性
- 10回 32 - 35章 なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。
- 11回 36 - 40章 トムが主導するジムの救出作戦の描写は、何を読者に伝えようとしての結果なのか。
- 12回 41 - 43章 ハックのジムに対する姿勢は、作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。
- 13回 南部の奴隷制度に関する論文の読解
- 14回 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解
- 15回 作品に関する論文の読解、全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...70% 発表...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

作品の事前に指定された箇所(25ページ程度)を事前に読んでおくこと。
また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。
発表の担当となっている場合は、指示に従ってレジュメを作成しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学演習I (日英語比較) 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

言語学における形態論の位置づけ、形態論の基本的概念、分析方法などを学んだ上で、日本語・英語をはじめ、学生の興味ある言語における現象について観察し、議論する。

教科書 /Textbooks

学生の興味・関心・レベルに応じて決定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Spencer, A. et al. 1998. The Handbook of Morphology. Blackwell Publishers.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 言語学の対象と目的
- 第2回 言語学における形態論の位置づけ
- 第3回 形態論の基本的概念(1)：自由形態素、拘束形態素、唯一形態素、異形態
- 第4回 形態論の基本的概念(2)：派生
- 第5回 形態論の基本的概念(3)：屈折
- 第6回 形態論の基本的概念(4)：複合語
- 第7回 形態論の基本的概念(5)：省略、混成、逆形成、頭文字語
- 第8回 形態論の基本的概念(6)：接語
- 第9回 アメリカ構造主義言語学における形態論
- 第10回 生成文法理論における形態論
- 第11回 語彙的緊密性
- 第12回 主要部と第一姉妹の原則
- 第13回 生産的語形成と限定的語形成
- 第14回 分散形態論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 10%
発表 40%
期末レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献(特に英語文献)の予習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学演習II (社会言語学) 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学の概念や理論を踏まえた上で、日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とする。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察する。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学ぶ。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論する。

教科書 /Textbooks

Meyerhoff, Miriam. (2011). Introducing Sociolinguistics, 2nd ed. Oxon: Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会言語学について
- 2回 Introduction
- 3回 Variation and language
- 4回 Variation and style
- 5回 Language attitudes
- 6回 Being polite as a variable in speech
- 7回 Multilingualism and language choice
- 8回 Real time and apparent time
- 9回 Social class
- 10回 Social networks and communities of practice
- 11回 Gender
- 12回 Language contact
- 13回 学生による研究報告(1)
- 14回 学生による研究報告(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況...50%、レポート...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学演習Ⅳ(通訳)【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1学期開講の「英語学研究Ⅳ(通訳)」では、若干の実技も行ないましたが、おもに通訳理論等を学びましたので、2学期開講のこの科目では、「通訳」実技を集中的に行ないたいと思います。ここではおもに英語と日本語の間での通訳を想定して実技指導を行ないますが、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳に応用することも視野に入れて指導します。

近年、通訳訓練法が効果的な英語学習法として注目を集めるようになってきました。この科目を受講される皆さんの中には、高度な英語力を鍛えることを目標にしている人もいらっしゃることでしょう。通訳訓練法として認知されているシャドーイングやその他のテクニックを用いて、正確に英語による発話を聞き取り、平明な日本語に置き換える、また日本語による発話を聞き取って正確な英語に通訳する、それとともに、背景知識の量を増やしていくことも、わかりやすい通訳のためには大切です。皆さんには、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいかなど、1学期に議論したことをよく考えて実践していただきたいと思います。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳訓練および通訳の実技を通して、わかりやすい通訳とは何かを深く理解する、②ボランティア通訳検定A級(2008年度以降休止中)レベルの通訳実技を身につける、③通訳に必要な背景知識を増強する、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思っています。

教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 通訳基礎訓練：通訳の実際と、そのために必要な技能を認識する。
- 第03回 通訳基礎訓練：日本語と英語の音声を比較検討する。
- 第04回 通訳基礎訓練：語彙と背景知識を増やす。
- 第05回 通訳基礎訓練：クイックレスポンスを中心に
- 第06回 通訳基礎訓練：シャドーイングを中心に
- 第07回 通訳基礎訓練：リプロダクションを中心に
- 第08回 通訳基礎訓練：ノートテイキングの理論と実践
- 第09回 英日逐次通訳演習(一般的な内容のスピーチ)
- 第10回 英日逐次通訳演習(やや専門的な内容のスピーチ)
- 第11回 日英逐次通訳演習(一般的な内容のスピーチ)
- 第12回 日英逐次通訳演習(やや専門的な内容のスピーチ)
- 第13回 英日同時通訳演習
- 第14回 日英同時通訳演習
- 第15回 全体のまとめと実技発表

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
授業への積極的参加の度合い50% + 発表または実技50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎時間、次週の内容を確認しますので、あらかじめご準備いただいたうえでご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実戦した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思います。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード /Keywords

中国文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅『中国小説史略』）の紹介、中国近代白話小説-魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回 中国近代と巖谷『天演論』の影響について
- 第3回 中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回 義和団事件と女性解放運動のパイオニア・秋瑾について
- 第5回 魯迅と故郷紹興および作品集『吶喊』について
- 第6回 魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回 魯迅と辛亥革命について
- 第8回 啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回 五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回 イブセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回 五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回 革命文学論争-「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回 中国左翼作家聯盟成立とその活動について
- 第14回 国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代文学芸術、魯迅、五四新文化運動

中国語学研究Ⅰ(音声学)【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業のテーマは、現代中国語の音声について。今日、大学の中国語教育に携わる人にとって、中国語音声学の知識をきちんと習得していることは必須の要件と考えられる。この講義では、学部レベルの基礎知識を前提に、より深く、多角的、体系的に中国語音声に関する諸問題を考察し議論していく。学生のための発音教授法・発音学習法といった実用的なテーマも積極的に取り上げる。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 平井勝利『教師のための中国語音声学』 白帝社2012年
- 小泉 保『音声学入門』 大学書林1995年
- 福盛貴弘『基礎からの日本語音声学』 東京堂出版、2010年
- 張本楠・楊若薇『普通話連読音変』 香港商務印書館2000年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション(授業の進め方)
- 第2回 表音文字(ローマ字)と音声の関係
- 第3回 発音器官と言語音の分類
- 第4回 日本語の音節と中国語の音節
- 第5回 中国語の声母・韻母とローマ字表記
- 第6回 中国語の声調と声調変化
- 第7回 中国語におけるさまざまな発音変化
- 第8回 日中両言語の音声対照(日中比較音声学)
- 第9回 中国語の重音音節と軽音音節
- 第10回 イントネーション・プロミネンス・ポーズ
- 第11回 中国語の多音多義字
- 第12回 漢字の形声文字とその発音
- 第13回 中国語の方言音と方言区分
- 第14回 中国語の古代音と現代音
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業態度と討論参加... 60% レポート作成... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

授業で紹介する参考文献にもできるだけ多く目をとおして、研究の基礎知識を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語・日本語を中心とした一般音声学についても、一定の理解があることが望ましい。

キーワード /Keywords

中国語音声 ピンインローマ字 声母・韻母 声調

中国語学研究II (語法) 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修論の研究方向に関する文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解させた上で、実践的な練習を通じて、修論の展開を試みる。

教科書 /Textbooks

資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版)駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』(中国語原書と日訳)白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 文法研究概説 文法研究の対象 文法研究の方法
2. 構造主義と中国語文法研究
3. 認知文法と中国語文法研究
4. 「配価(結合価)文法」と中国語文法研究
5. 語義特徴分析理論と中国語文法研究
6. 格文法と中国語文法研究
7. 生成文法理論と中国語文法研究
8. 機能文法・第二言語教育と中国語文法研究
9. 語用論と中国語文法研究
10. これまでの重要な研究(問題別の観点・著作・論文)
 11. 現代中国語文法研究における重要課題
 12. 中国の有名な文法研究者及びその観点と論述
 13. 日本の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
 14. 海外の有名な中国語文法研究者及びその観点と論述
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基礎を固めた上視野を広め、修論を作成するための授業なので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。また常に各課の内容に合わせて、「中国語学」「中国語文」「世界漢語教学」などの学術誌を参考するよう要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国文化演習 【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・話劇（新劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新戯や時事新戯の立役者・汪笑儂から中国話劇が誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。（3）その時の顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイブセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、のちに中国近代演劇の父と称される曹禺が『雷雨』で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時期の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
- 第2回 早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
- 第3回 中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその関わりについて
- 第4回 辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
- 第5回 イブセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
- 第6回 中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
- 第7回 近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
- 第8回 中国小劇場運動のパイオニア田漢お中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
- 第9回 田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
- 第10回 上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
- 第11回 劇作家夏衍の国防演劇『賽金花』『秋瑾伝』について
- 第12回 夏衍の上海映画演劇界における活躍について
- 第13回 欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
- 第14回 曹禺戯曲における悲劇性について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代演劇、中国話劇の誕生、イブセン劇の受容、中国近代演劇の父-曹禺

中国語学演習I (音声学) 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 昭 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

授業のテーマは、中国語語音史について。中国語の発音の変化・変遷を歴史的に観察しようというもので、時代的には、隋・唐代から現代までの1400年間の中国語音を対象とする。最初に中古音（隋・唐代 - 宋代）の音韻体系の概略を学び、ついで、中古音-近代音（元・明・清代）-現代音という語音の歴史的な対応関係を示し、それに基づいて、中国語音の現代までの変遷過程を、声母・韻母・声調の3部門に分けて考察する。

教科書 /Textbooks

佐藤昭著『中国語語音史-中古音から現代音まで』 白帝社、2002年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王力『漢語史稿』第二章 (pp45 - 208) 中華書局、1996年
- 中国社会科学院語言研究所編『方言調査字表』 商務印書館、1988年
- 丁声樹・李栄『漢語音韻講義』 上海教育出版社、1984年
- 唐作藩『漢語語音史教程』北京大学出版社、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション (授業の進め方)
- 第2回 中国語語音史研究の資料と文献
- 第3回 中古音・現代音の音韻体系
- 第4回 中古音声母の音価推定
- 第5回 中古音韻母の音価推定
- 第6回 中古音声母 (幫系・端系声母) の音韻変遷
- 第7回 中古音声母 (知系・見系声母) の音韻変遷
- 第8回 中古音陰声韻母の音韻変遷 (韻尾ゼ口・ i・ u の韻母)
- 第9回 中古音陽声韻母の音韻変遷 (韻尾 m・ n・ ng の韻母)
- 第10回 中古音入声韻母の音韻変遷 (韻尾 p・ t・ k の韻母)
- 第11回 中古音四声調 (平・上・去・入) の音韻変遷
- 第12回 唐詩を現代南方方言音 (広東語・福建語・客家語) で読む
- 第13回 中国語中古音と日本漢字音 (漢音・呉音) との対応関係
- 第14回 中国語中古音と朝鮮漢字音との対応関係
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業態度と討論参加... 60% レポート作成... 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中古・現代の中国語音を表記する音声記号の使い方と発音法にも習熟してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本人としては、中国語中古音と関係が深い「日本漢字音」についても理解を深めてほしい。

キーワード /Keywords

中国語音韻史 中古音 近代音 現代音 日本漢字音

中国語学演習II (語法) 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修論の研究方向に関する文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解させた上で、実践的な練習を通じて、修論の展開を試みる。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版) 駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』(中国語原書と日訳) 白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 語・フレーズ・文 文法関係の一致性
- 第2回 平述文 疑問文 命令文 感嘆文
- 第3回 主述文 非主述文
- 第4回 動詞述語文
- 第5回 形容詞述語文
- 第6回 名詞述語文
- 第7回 連動文
- 第8回 兼語文
- 第9回 “把”構文
- 第10回 二重目的語文
- 第11回 存現文
- 第12回 文の階層性とその分析
- 第13回 文の変換
- 第14回 認知文法の視点より中国語文構造の解釈
- 第15回 系統効能文法のアプローチ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

基礎を固めた上視野を広め、修論を作成するための授業なので、積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。また常に各課の内容に合わせて、「中国語学」「中国語文」「世界漢語教学」などの学術誌を参考するよう要求する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国思想文化研究【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国古代思想史全般について、幾つかの教科書を講読することによって、中国思想史の基本知識を学び、中国文化の源流を理解する。

教科書 /Textbooks

○小島祐馬著『中国思想史』 創文社2000年（必要に応じてコピーして配る）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○胡適著『中国古代哲学史大綱(上)』商務印書館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序説
- 第2回 中国古代の社会状態
- 第3回 孔子
- 第4回 孟子
- 第5回 子思子
- 第6回 荀子
- 第7回 墨子
- 第8回 農家
- 第9回 老子
- 第10回 莊子
- 第11回 列子・楊子
- 第12回 法家
- 第13回 易・五行
- 第14回 春秋
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の予習状況 20%、受講準備 30%、レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国思想文化演習【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国中古の思想史を勉強することによって、中国思想史研究の基礎を築き、中国文化のルーツに対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

○『中国思想史の流れ』（上、両漢・六朝） 橋本高勝編 晃洋書房

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

胡適著『中国中古思想史長編』（関連部分をコピーして配布）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 概説
- 第2回 賈誼
- 第3回 劉安
- 第4回 董仲舒
- 第5回 司馬遷
- 第6回 揚雄
- 第7回 王充
- 第8回 王符
- 第9回 何休
- 第10回 黄老
- 第11回 孔融
- 第12回 仲長統
- 第13回 何晏
- 第14回 王弼
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平時の予習状況50%、レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究I (宗教文化) 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

『扶桑略記』の講読。

仏教関係記事を中心とする編年体歴史書である『扶桑略記』から卷廿三「醍醐天皇 上」以降の記事を受講者が分担して輪読する。日本漢文の読解力を身につけてもらうとともに、日本宗教史に関する諸問題について議論していきたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋秀樹『古記録入門』(東京堂出版)
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の進め方
- 2 回 『扶桑略記』と古記録の読み方について
- 3 回 『扶桑略記』 輪読
- 4 回 『扶桑略記』 輪読
- 5 回 『扶桑略記』 輪読
- 6 回 『扶桑略記』 輪読
- 7 回 『扶桑略記』 輪読
- 8 回 『扶桑略記』 輪読
- 9 回 『扶桑略記』 輪読
- 1 0 回 『扶桑略記』 輪読
- 1 1 回 『扶桑略記』 輪読
- 1 2 回 『扶桑略記』 輪読
- 1 3 回 『扶桑略記』 輪読
- 1 4 回 『扶桑略記』 輪読
- 1 5 回 『扶桑略記』 輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

『扶桑略記』 仏教 神道

日本文化研究II (表象文化) 【夜】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

昨年、板橋区立美術館の館長である安村敏信氏が、『江戸絵画の非常識-近世絵画の定説をくつがえす』（敬文舎）を出版された。同書では、美術を専門とはしていない一般の人たちが、常識だと信じ込んでいる幾つかの事柄が、実は近代以降に美術史という学問が行われるようになってから流布した誤りであることを分かり易く論じている。

本講義では、同書の本文中で紹介されている先行研究や比較作品を確認しながら、それらの常識だと信じられている事柄が誤りであることを確認して行きたいと思う。

教科書 /Textbooks

安村敏信『江戸絵画の非常識-近世絵画の定説をくつがえす』敬文舎、2013年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の説明
- 2回 常識その1「俵屋宗達の『風神雷神図屏風』は、晩年に描かれた傑作である。」(前半)
- 3回 常識その1「俵屋宗達の『風神雷神図屏風』は、晩年に描かれた傑作である。」(後半)
- 4回 常識その2「光琳は宗達を乗り越えようとして、琳派を大成した。」(前半)
- 5回 常識その2「光琳は宗達を乗り越えようとして、琳派を大成した。」(後半)
- 6回 常識その3「江戸狩野派は粉本主義によって疲弊し、探幽・常信以降は見るべきものがない。」(前半)
- 7回 常識その3「江戸狩野派は粉本主義によって疲弊し、探幽・常信以降は見るべきものがない。」(後半)
- 8回 常識その4「応挙が出て京都画壇は一変した。」(前半)
- 9回 常識その4「応挙が出て京都画壇は一変した。」(後半)
- 10回 常識その5「長崎に渡来した沈南蘋は、三都に強い影響を与えた。」(前半)
- 11回 常識その5「長崎に渡来した沈南蘋は、三都に強い影響を与えた。」(後半)
- 12回 常識その6「秋田蘭画は秋田で描かれた。」(前半)
- 13回 常識その6「秋田蘭画は秋田で描かれた。」(後半)
- 14回 ディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回、本文中で取り上げている先行研究論文を読んでから授業に臨むこと。また、テキストに関する講義を受けた後は、テキストの内容について自らの意見を積極的に述べることを求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学研究I (日本文学) 【夜】

担当者名 /Instructor 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本の近現代の文学を概説および講読していく。

学習のポイントは以下の通り。

- ①近現代文学の主要な作家・作品を通して、知識を培い教養を深めること。
- ②時代状況のなかで文学を位置づける歴史的視座を得ること。
- ③近代文体の成立から現代文の達成までを、具体的な表現にそくして理解すること。

教科書 /Textbooks

文庫本の購入、もしくはプリント等を配布。
初回時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 各種、日本文学史

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 日本の近代 / 現代文学 研究入門
- 2 明治期の文学 (1) 夏目漱石
- 3 明治期の文学 (2) 森鷗外
- 4 明治期の文学 (3) 樋口一葉
- 5 大正期の文学 (1) 芥川龍之介
- 6 大正期の文学 (2) 谷崎潤一郎
- 7 大正期の文学 (3) 小林多喜二
- 8 昭和戦前期の文学 (1) 宮澤賢治
- 9 昭和戦前期の文学 (2) 川端康成
- 10 昭和戦中期の文学 (1) 太宰治
- 11 昭和戦中期の文学 (2) 中島敦
- 12 昭和戦後期の文学 (1) 安岡章太郎
- 13 昭和戦後期の文学 (2) 三島由紀夫
- 14 平成期の文学 (1) 村上春樹
- 15 平成期の文学 (2) 水村美苗

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 期末レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

講義を聞くための事前準備として提示された作品を読んで参加のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では古代日本語（奈良時代～平安時代の日本語）を扱います。多様な角度からの言語観察を通して、ことばや言語現象とそれを支える古代人の思考の論理（物の捉え方や認識方法など）との関わり、それを育んだ文化的背景や時代的背景との関わりについて考えます。一つ一つのことばの持つ本質的な意義と古代人の思考・思想との関わりや、それぞれの言語現象の持つ時代的意味を考察していきます。物語のストーリーをなぞることに重点を置くのではなく、あくまでもことばや言語現象を通して、古代日本を生きた人々の価値観・認識・認知・思考方法・社会通念などに迫っていくことを目的とします。

教科書 /Textbooks

小学館『万葉集』日本古典文学全集○
 小学館『万葉集』新編日本古典文学全集○
 小学館『源氏物語』日本古典文学全集○
 小学館『源氏物語』新編日本古典文学全集○

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語の時代区分について 上代から中古にかけての日本語
- 第2回 上代～中古の言語資料の性質
- 第3回 辞書の果たす役割とその限界
- 第4回 注釈書の基礎
- 第5回 写本について
- 第6回 語学関係の論文を読む(1)
- 第7回 語学関係の論文を読む(2)
- 第8回 語学関係の論文を読む(3)
- 第9回 語義関係の論文を読む(1)
- 第10回 語義関係の論文を読む(2)
- 第11回 語義関係の論文を読む(3)
- 第12回 文化関係の論文を読む(1)
- 第13回 文化関係の論文を読む(2)
- 第14回 発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

なお、受講者の発表をもとに講義を展開していく回もありますので、発表に際してはある程度の準備時間が必要となることを承知しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

フォルマリズムから脱構築までの文学理論の変遷を学ぶとともに、どの言語の文学を学ぶ学生にとっても必要となる、ポストコロニアル批評、新歴史主義、カルチュラル・スタディーズ、フェミニズム批評などの基礎的な現代の文学研究の基礎的な方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

テリー・イーグルトン『新版 文学とは何か-現代批評理論への招待』（岩波書店，1996）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文学研究を歴史的に追ひ、現代における文学研究の可能性について探る。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 文学の定義と文学研究のあり方について
- 第3回 文学批評、文学理論
- 第4回 文学批評の誕生と黎明期の文学研究
- 第5回 初期文学批評
- 第6回 現象学と文学研究
- 第7回 解釈学と文学研究
- 第8回 受容理論と文学研究
- 第9回 構造主義と文学研究
- 第10回 記号論と文学研究
- 第11回 ポスト構造主義と文学研究
- 第12回 精神分析批評
- 第13回 政治的批評
- 第14回 現代の文学研究
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素、課題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回課せられるテキストを十分に読んでくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較言語研究 【夜】

担当者名 葛西 宏信 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

生成文法の『原理とパラメター』の理論的枠組みの中で、言語間の違いがどのようにして分析されてきたかを概観する。また、受講生の興味に応じて、様々な言語現象を取り上げ、分析を行う。到達目標は以下の通りである。

生成文法の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
統語論の基本的な考え方を理解し、統語分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 生成文法の概説
- 第3回 句構造理論
- 第4回 主要部移動
- 第5回 X-バー理論
- 第5回 c-統御
- 第6回 束縛理論
- 第7回 コントロール
- 第8回 例外的格付与
- 第9回 受動文
- 第10回 WH移動
- 第11回 島の条件
- 第12回 削除現象
- 第13回 原理とパラメータ
- 第14回 世界の諸言語の分析
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化演習I (宗教文化) 【夜】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

『扶桑略記』の講読。

仏教関係記事を中心とする編年体歴史書である『扶桑略記』から卷廿三「醍醐天皇 上」以降の記事を受講者が分担して輪読する。日本漢文の読解力を身につけてもらうとともに、日本宗教史に関する諸問題について議論していきたい。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋秀樹『古記録入門』(東京堂出版)
その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の進め方
- 2 回 『扶桑略記』と古記録の読み方について
- 3 回 『扶桑略記』 輪読
- 4 回 『扶桑略記』 輪読
- 5 回 『扶桑略記』 輪読
- 6 回 『扶桑略記』 輪読
- 7 回 『扶桑略記』 輪読
- 8 回 『扶桑略記』 輪読
- 9 回 『扶桑略記』 輪読
- 10 回 『扶桑略記』 輪読
- 11 回 『扶桑略記』 輪読
- 12 回 『扶桑略記』 輪読
- 13 回 『扶桑略記』 輪読
- 14 回 『扶桑略記』 輪読
- 15 回 『扶桑略記』 輪読

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

『扶桑略記』 仏教 神道

日本文化演習II (表象文化) 【夜】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本美術史においては研究論文において良く使用される概念でありながら、或いは、有名な作品でありながら、未だ定説を持たないものが数多く存在する。本講義では、これまで論争が繰り広げられて来た、或いは、幾つもの先行研究が発表されて来たにも関わらず、未だ定説を見ない問題について、それらの先行研究を読み進めながら考えて行く。

今年度取り上げる問題は、「異時同図法」の概念について、法華寺所蔵「阿弥陀三尊并持幡童子像」の堂内の掛け方について、MOA美術館所蔵「湯女図」の失われた向かって右側の画面内容についてである。

従って、本授業での目標は、美術史的な考察方法・研究方法の習得であり、最終的には参加者各自に自らの説を提示してもらうこととする。

教科書 /Textbooks

なし。但し、毎回、こちらが提示した先行研究論文を読んで来ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順に関する説明
- 2回 「異時同図法」の概念に関する先行研究の読解①
- 3回 「異時同図法」の概念に関する先行研究の読解②
- 4回 「異時同図法」の概念に関する先行研究の読解③
- 5回 2～4回を踏まえたディスカッション
- 6回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究の読解①
- 7回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究の読解②
- 8回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究の読解③
- 9回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究の読解④
- 10回 法華寺「阿弥陀三尊并持幡童子像」の先行研究の読解⑤
- 11回 6～10回を踏まえたディスカッション
- 12回 「湯女図」に関する先行研究の読解①
- 13回 「湯女図」に関する先行研究の読解②
- 14回 「湯女図」に関する先行研究の読解③
- 15回 12～14回を踏まえたディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度・・・50%、レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学演習I (日本文学) 【夜】

担当者名 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本の文学について、なかでも近代文学の小説作法・思想等について実際に小説を読み解くことにより学ぶものとする。毎時間ごとに発表担当者をきめ、作品の語釈・解釈をレジюмеで提示してもらい、それをもとに参加者全員で議論を行う。時代状況との関係といった歴史的観点からも作品にアプローチできるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

「戦後短篇小説再発見」(講談社学芸文庫)
全18巻のうち、1冊を使用(授業初回時に指示する)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 各種、日本文学史

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

主に戦後の文学(主に短編小説) を考える。作品の語釈・解釈を通じて、戦後文学の表現・思想について考察していくことを目的とする。

第1回 テキストの指示・授業概要説明
第2回 模範演習
第3回～15回 受講者による演習発表

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...50% 授業における発言等の意欲的な参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

作品をきちんと読み、意見を述べるための事前準備。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学演習 【夜】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では平安時代中期に成立した『源氏物語』を扱います。多様な角度からの言語観察を通して、ことばや言語現象とそれを支える古代人の思考の論理（物の捉え方や認識方法など）との関わり、それを育んだ文化的背景や時代的背景との関わりについて考えます。物語のストーリーをなぞることに重点を置くのではなく、あくまでもことばや言語現象を通して、古代日本を生きた人々の価値観・認識・認知・思考方法・社会通念などに迫っていくことを目的とします。受講者はそれぞれ物語中に使用される興味ある語や言語現象を定め、先行研究を踏まえながら実際の用例の分析・考察を行ないます。各人の発表をもとに受講者全員で討議を行いながら、中古日本語に対する理解を深めるとともに、古代を生きた人々の思考の論理に迫ってゆきます。

教科書 /Textbooks

小学館『源氏物語』日本古典文学全集○
小学館『源氏物語』新編日本古典文学全集○

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山崎良幸著『源氏物語における語義の研究』風間書房○
山崎良幸著『あはれとものあはれの研究』風間書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 語義研究・文法研究とその意義
- 第2回 底本と索引 先行研究を踏まえる意義
- 第3回 語義関係の論文を読む(1)
- 第4回 語義関係の論文を読む(2)
- 第5回 語義関係の論文を読む(3)
- 第6回 語義関係の論文を読む(4)
- 第7回 文法関係の論文を読む(1)
- 第8回 文法関係の論文を読む(2)
- 第9回 文法関係の論文を読む(3)
- 第10回 文法関係の論文を読む(4)
- 第11回 各人発表(1)
- 第12回 各人発表(2)
- 第13回 各人発表(3)
- 第14回 各人発表(4)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...60% レポート...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

語義・文法の研究方法とその意義については、「日本語学研究」のなかでも扱うので、これを履修していると、理解がより深いものになります。なお、受講者の発表をもとに講義を展開していきますので、十分な準備時間が必要となることを承知しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学演習 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

前期の「比較文学研究」では、文学批評の誕生から、精神分析批評までの文学理論の変遷を中心として扱うが、後期の「比較文学演習」ではポストコロニアル批評、新歴史主義、カルチュラル・スタディーズ、あるいはフェミニズム批評といったここ10年の新しい文学理論を中心に扱う。前期の「比較文学研究」を受講しておくことが望ましい。

教科書 /Textbooks

大橋洋一編『現代批評理論のすべて』（新書館、2006年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回、必要に応じて指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 T. S. エリオットの批評
- 第3回 新歴史主義
- 第4回 フーコーの批評
- 第5回 ドゥルーズの批評
- 第6回 サイドとオリエンタリズム
- 第7回 フェミニズム批評
- 第8回 ジェンダー批評
- 第9回 クィア批評
- 第10回 ラカン派批評
- 第11回 倫理批評
- 第12回 マルクス主義批評
- 第13回 ネーション・ナショナリズムと文学
- 第14回 カルチュラル・スタディーズ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の発表と課題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業の発表担当者は、テキストを十分に読み解き、自分の見解を整理し、要旨と問題点をまとめること。他の学生はテキストを十分に読み、各自自分の見解をまとめておく。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較言語演習 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1学期の「比較言語研究」で取り上げた言語分析の手法を用いながら、様々な言語現象を分析する。到達目標は以下の通りである。

- (1) 受講生は、各自が興味ある言語現象を選び、文献研究やインフォーマント・ワークによる調査などを通して、各自の研究を進めていく。
- (2) 研究成果を論文としてまとめる技法を身につける。

教科書 /Textbooks

授業中に適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 - 第4回 受講生による研究テーマの発表
- 第5回 - 第11回 関連文献の講読
- 第12回 - 第14回 受講生による研究発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

文献の予習 (特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究I (認知言語学) 【夜】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

当演習においては、文学における隠喩を科学的に追求しようとしています。文学作品を分析するのみならず、アンケート、コンピューター上の実験などについて勉強し、実際にアンケートを行なってから、SPSSによるデータの分析を行なう。文学、メタファー、そして統計学について楽しく勉強する演習である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文学における【メタファー】とは
- 第2回 文学に登場する隠喩研究の難点
- 第3回 文学作品の【認知言語学】的な分析の実践
- 第4回 アンケート調査について
- 第5回 実験について
- 第6回 統計学について
- 第7回 文学作品の分析
- 第8回 文学作品の分析
- 第9回 文学作品の分析
- 第10回 文学作品の分析
- 第11回 学生による発表
- 第12回 学生による発表
- 第13回 学生による発表
- 第14回 今後の課題について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加：30% 小テスト：0% 期末試験：30% 課題：20% 態度：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この科目のために、文学作品を読んだ上で、分析をしなければ、ディスカッションに十分に参加することができません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メタファー、認知言語学、統計学

比較文化研究II (日米文化比較) 【夜】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year
単位 /Credits
2単位
学期 /Semester
1学期
授業形態 /Class Format
演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction of historical and cultural legacy of Japan
- 2回 Introduction of historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II
- 9回 Discussion based on reading materials III
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV
- 12回 Presentations led by students I
- 13回 Discussions on student topics I
- 14回 Presentations led by students II
- 15回 Discussions on student topics II

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化演習I (認知言語学) 【夜】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

当演習においては、様々な名文献を考察し、その文献に潜んでいる隠喩的思想性を追求していきます。多数の文化に見られるメタファーを分析することを通して、異文化間における概念や思想の差異に関する理解を深めます。

教科書 /Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談した上で決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コース紹介
- 第2回 『美学』 (アリストテレス)
- 第3回 『詩学』 (アリストテレス)
- 第4回 『論語』 (孔子)
- 第5回 「山上の垂訓」 (イエス)
- 第6回 『万葉集』
- 第7回 「方丈記」
- 第8回 シェイクスピア (「ソネット」)
- 第9回 ジョン・ダン
- 第10回 小林一茶
- 第11回 アメリカの「独立宣言」
- 第12回 ニーチェ
- 第13回 キップリング
- 第14回 M.L.キング
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加 : 40% 小テスト : 0% 期末試験 : 0% 課題 : 50% 態度 : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to read the weeks assignment and come to class prepared to analyze and discuss the work.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化演習II (日米文化比較) 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
								○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Japanese Communication Patterns I
- 2回 Japanese Communication Patterns II
- 3回 North American Communication Patterns I
- 4回 North American Communication Patterns II
- 5回 Interactions: Interpretations of foreign scholars from the Meiji Period I
- 6回 Interactions: Interpretations of foreign scholars from the Meiji Period II
- 7回 Interactions: Interpretations of foreign scholars from the Meiji Period III
- 8回 Discussion based on reading materials I
- 9回 Discussion based on reading materials II
- 10回 Discussion based on reading materials III
- 11回 Discussion based on reading materials IV
- 12回 Presentations led by students I
- 11回 Discussions on student topics I
- 12回 Presentations led by students II
- 13回 Discussions on student topics II
- 14回 Presentations led by students III
- 15回 Discussions on student topics III

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50% Final 2000 word paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治思想研究【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本近代の政治思想史を「朱子学化」という視点から読み直す。それを通して、今日と将来の日本と東アジアを構想する。

教科書 /Textbooks

小倉紀蔵著『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012）5500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』（九州大学出版会、2004）
○李暎東『近代中国の立憲思想』（法政大学出版会、2005）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要紹介
- 2回 第1章 【朱子学】【日本近代】
- 3回 第2章 【儒教】【主体】
- 4回 第3章 【理】【論理】
- 5回 第4章 【朱子学的思惟】【階層性】
- 6回 第5章 【垂直性】【水平性】
- 7回 第6章 【ころ】【ニヒリズム】
- 8回 第8章 【国体論】【靈魂】
- 9回 第9章 【元田永孚】【教育勅語】
- 10回 第10章 【福沢諭吉】【朱子学的半身】
- 11回 第11章 【丸山眞男】【朱子学的半身】
- 12回 第12章 【主体的韓国人】【朴鐘鴻】
- 13回 第13章 【司馬遼太郎】【近代観】【朝鮮観】
- 14回 第14章 【天皇】【カリスマ】【三島由紀夫】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学生の報告 30% レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代中国政治史研究 【夜】

担当者名 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近代中国に貫かれる政治的特徴を検討する。とくに中華民国時期（1912年～49年）を中心に、革命と戦争、国民国家建設の課題と挫折の歴史を検証する。孫文、袁世凱、陳独秀、胡適、蒋介石などの人物研究が中心。
人物研究を通して、中国における革命と連続性の本質を政治史の観点から理解することを達成目標とする。

教科書 /Textbooks

横山宏章『中華民国』中央公論社新書
横山宏章『中華民国史』三一書房
横山宏章『孫文と袁世凱』岩波書店
横山宏章『陳独秀の時代』慶應義塾大学出版会
横山宏章『中国の異民族支配』集英社
横山宏章『素顔の孫文』岩波書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横山宏章『中華思想と現代中国』集英社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

一回は180分 講義と討論の演習方式
1回 中華民国とは何か
2回 【賢人支配の善政主義】の立場から論ずる
3回 辛亥革命と「排満」
4回 【中華と夷狄】の概念を論証する
5回 孫文の「三序」構想
6回 孫文の【愚民史観】を検証
7回 袁世凱と強国の建設
8回 共和体制における集権政治のあり方を見る
9回 陳独秀、胡適の「新文化運動」
10回 中国における【デモクラシーとサイエンス】を検証
11回 蒋介石の国民国家建設構想と反蒋介石運動
12回 統治のあり方としての【以党治国】論
13回 中華民国と「自由」
14回 中国近代における自由の系譜
15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

討論とレポート
討論80% レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

拙著を読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国経済研究【夜】

担当者名
/Instructor

白石 麻保 / 中国学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国経済や途上国、新興国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。中国経済研究の各種文献、Journal of comparative economicsをはじめとする英文ジャーナル，中文文献，邦文文献の輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い，報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(1) SNA 政策
- 3回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(2) 経済成長
- 4回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(3) 企業
- 5回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(4) 農村、農業
- 6回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済発展の概要(5) 金融
- 7回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(1) SNA、経済発展、経済政策
- 8回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(2) 経済政策、労働、金融
- 9回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済の近年の動向(3) 経済政策、労働、金融、内陸、沿海
- 10回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(1) 経済成長
- 11回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(2) 市場経済、経済成長
- 12回 テキスト輪読、ディスカッション 中国経済が直面する課題、展望(3) 移行経済、市場経済
- 13回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(1) 経済政策、経済成長
- 14回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(2) 経済成長、北京コンセンサス、市場経済
- 15回 まとめ

* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60%

ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ)経済学及び統計学，計量経済学等の知識を必要とするので，学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では70年にも及ぼうとする国際開発援助の歴史を振り返り、国際社会が途上国の抱える課題にどのように取り組んできたのかを学ぶとともに、なぜそれが功を奏してこなかったのかを国際政治の文脈から考察します。その上で、今後の開発のあり方について議論を行います。受講生は国際開発援助に関する知識を深め、過去の失敗とそこから得られた教訓をもとに、今後の開発援助がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持つことが出来るようになります。

教科書 /Textbooks

- 西川潤他『開発を問い直す』日本評論社、2011年。
- 下村恭民『開発援助政策』日本経済評論社、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 城山英明『国際援助行政』東京大学出版会、2007年。
- 下村恭民他『開発援助の経済学』(第4版)有斐閣、2009年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者とテキストを輪読し、ディスカッションを交えて内容の理解に努めます。前半は下村の文献、後半は西川の文献を用います。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 開発援助の目的
- 第3回 トナー・コミュニティ
- 第4回 国際援助コミュニティ
- 第5回 国際関係の中の開発援助政策
- 第6回 開発援助政策に対する途上国の影響
- 第7回 援助国内のステイクホルダーと開発援助政策
- 第8回 開発を問い直す(1) 開発と倫理
- 第9回 開発を問い直す(2) アフリカとアジアの視点
- 第10回 援助潮流の見直し(1) ワシントンコンセンサスの限界
- 第11回 援助潮流の見直し(2) 貧困削減戦略の見直し
- 第12回 開発における「知」
- 第13回 日本の開発経験(1) 内発的発展論
- 第14回 日本の開発経験(2) 災害と援助
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・20% 授業への貢献度(議論への参加)・・・40% レポート・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この分野をはじめて学ぶ受講生は、あらかじめ上記参考書を購入して読むようにしてください。また、学部開講科目の「国際協力論I」を聴講することも勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化における国際政治経済秩序の変容に対し、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。
 野林健・長尾悟『国際政治経済を学ぶ - 多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房、2011年。
 ○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年
 - Joseph M. Grieco & G. John Ikenberry, State Power and World Markets: The International Political Economy, W W Norton & Co Inc, 2002.
 - Benjamin J. Cohen, International Political Economy: An Intellectual History, Princeton University Press, 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。
 ○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。
 関下稔『国際政治経済学要論』晃洋書房、2010年
 ○Robert Gilpin, Global Political Economy: Understanding the International Economic Order, Princeton University Press, 2001.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 国際秩序をめぐる政治と経済
- 第3回 グローバリゼーションと国際関係
- 第4回 国際政治経済の見方(1) 重商主義
- 第5回 国際政治経済の見方(2) 自由主義
- 第6回 国際政治経済の見方(3) 批判理論
- 第7回 戦後の国際経済秩序の枠組み(1) プレトン・ウッズ、GATT体制
- 第8回 戦後の国際経済秩序の枠組み(2) レジームの変容と課題
- 第9回 金融のグローバル化と通貨危機
- 第10回 国際金融秩序の構築
- 第11回 地域主義の展開(1) 北米の経済協定
- 第12回 地域主義の展開(2) ヨーロッパの統合
- 第13回 地域主義の展開(3) アジアの多様性
- 第14回 科学技術と国際政治経済
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加(議論への貢献度など)...20%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障研究 【夜】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

講義

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

教科書 /Textbooks

未定だが、メインとなる書籍は購入すること（例えば、下記のスケジュール例であれば、Just and Unjust Warがメインとなる。13回、14回、15回に用いる論文は事前にコピーを配布する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

正戦理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式をとり、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジュメを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回 ガイダンス

戦争倫理（正戦理論）関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20～30ページ程度の英語論文を2本読み、受講者には15～20分間の要旨報告×2本分、質疑応答をしてもらう。

例えば、以下、11回までは、Michael Walzer, Just and Unjust Wars; A Moral Argument with Historical Illustrations 4th Edn., Basic Books, 2008, を2章ずつ講読してゆく。（各回ともに、15～20分×2章＝30～40分の要旨報告と質疑応答をしてもらう）

第2回 ch.1 Against Realism, ch.2 The Crime of War

第3回 ch.3 The Rules of War, ch.4 Law and Order in the International Society

第4回 ch.5 Anticipations, ch.6. Interventions

第5回 ch.7 War's Ends and the Importance of Winning, ch.8 War's Means and the Importance of Fighting Well

第6回 ch.9 Noncombatant Immunity and Military Necessity, ch.10 War against Civilians

第7回 ch.11 Guerrilla War, ch.12 Terrorism

第8回 ch.13 Reprisals, ch.14 Winning and Fighting Well

第9回 ch.15. Aggression and Neutrality, ch.16 Supreme Emergency

第10回 ch.17 Nuclear Deterrence, ch.18 The Crime of Aggression

第11回 ch.19 War Crimes, Soldiers and their Officers

第12回 Just and Unjust Warの総括、および、小レポートの要旨報告

第13回 Thomas Nagel, "War and Massacre," in T.Nagel et.al., eds., War and Moral Responsibility, Princeton UP, 1974.

第14回 Richard Norman, Killing in Self-defence, in Richard Norman, Ethics, Killing and War, Cambridge UP, 1995, pp.117-157.

第15回 Richard Norman, Killing the Innocent, in ibid., pp.159-206. + 期末レポート要旨報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度（30%）、予習状況（30%）、レポート（40%）から評価したい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。

履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

安全保障研究 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ風景論研究 【夜】

担当者名 /Instructor 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では「風景とは一つの文化的イメージ」であり「一つの制度」であるという認識を前提に、極めて学際的な風景論、風景学の基礎を学ぶとともに、フロンティアや西部、摩天楼の都市など、アメリカ固有の象徴的空間の歴史的・地理的な成立要因を考え、広大な国土を持つアメリカ各地の風景についての理解を、映像資料やテキストを通して深めることを目標とする。

教科書 /Textbooks

- 『風土-人間学的考察』 和辻哲夫著 (岩波文庫)
- 『日本の風景・西欧の景観』 オギュスタン・ヘルク (講談社現代新書)
- その他プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『概説 アメリカ文化史』 笹田直人他編著 (ミネルヴァ書房)
- 『トポフィリア-人間と環境』 イーファー・トゥアン (セリカ書房)
- 『風景の研究』 柴田 陽弘編 (慶應義塾大学出版局)
- 『風景と人間』 アラン・コルバン (藤原書店)
- 『風景学-風景と景観をめぐる歴史と現在』 中川理 (共立出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「アメリカ風景論研究」の目的と研究方法
- 2回 『風土-人間学的考察』に基づき地理的風土と精神風土
- 3回 アメリカの精神風土に及ぼす地理的要因
- 4回 広大なアメリカの国土と風景の視覚的考察
- 5回 アメリカにおける風景観の変容～風景画の発展と崇高の美学
- 6回 風景画の発展と崇高の美学
- 7回 アメリカの四季と動物
- 8回 アメリカの先住民達と森の生活
- 9回 植民地時代から環境保護思想へ
- 10回 西部開拓史とターナーのフロンティア学説
- 11回 アメリカの産業都市の風景とその変遷
- 12回 アメリカの都市空間と近代
- 13回 ニューヨーク・シカゴ・ボストン・ロサンゼルス等の視覚的考察
- 14回 アメリカの主たるユダヤ街、中華街、クエイカー教徒の生活風景
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% 学期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

植民地時代以前から現代までのアメリカ史やアメリカ文化全般について、またはエコロジー思想や環境保護運動などについて、一般的な知識があることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域研究【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

かつての覇権国家であり、現代世界においても一定の影響力を保持しているイギリスの現状に関して、社会の成り立ち、文化の多様性などを多面的に取り上げ、現代世界のありように迫る一助とする。現代イギリス文化を構成している諸要因を通時的・共時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

教科書 /Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 異文化理解の方法(歴史認識をめぐって)
- 3回 異文化理解の方法論(資料読解の方法)
- 4回 異文化理解の方法論(多文化主義の変遷)
- 5回 イギリス文化の状況(1970年代まで)
- 6回 イギリス文化の状況(1980年代以降)
- 7回 文化研究の方法論的変遷(1960年代まで)
- 8回 文化研究の方法論的変遷(1970年代)
- 9回 言語論的展開
- 10回 サッチャー主義とイギリス社会
- 11回 スコットランドの文化と現状
- 12回 ウェールズの文化と現状
- 13回 北アイルランド紛争の背景
- 14回 21世紀イギリス社会の展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解してから授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北欧地域研究 【夜】

担当者名 /Instructor 五月女 律子 / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の政治制度および政党政治の特徴を踏まえた上で、北欧諸国間で進められている地域協力（北欧協力）について学ぶことを目指す。講義は、受講生が政治学、国際関係論の基礎を既に学んでおり、ヨーロッパの政治制度、政党政治、国際関係（ヨーロッパ統合）についても基礎知識を持っていることを前提として進める。到達目標は、北欧諸国に関する知識を養い、北欧地域の特徴について説明できるようになることである。

教科書 /Textbooks

授業時に適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業の前半は、各国の政治制度、政党政治の特徴について学び、後半は第二次世界大戦後の北欧協力の進展をヨーロッパ統合と比較しながら考えることを目指す。

- 1回 ガイダンス、北欧諸国の基礎知識
- 2回 北欧諸国の政治制度（1）【統治体制】
- 3回 北欧諸国の政治制度（2）【議会制度】
- 4回 北欧諸国の政治制度（3）【選挙制度】
- 5回 北欧諸国の政治制度（4）【政党システム】
- 6回 北欧諸国の政党政治（1）【スウェーデン】
- 7回 北欧諸国の政党政治（2）【デンマーク】
- 8回 北欧諸国の政党政治（3）【ノルウェー】
- 9回 北欧諸国の政党政治（4）【フィンランド】
- 10回 北欧協力の進展（1）【1945年以前】
- 11回 北欧協力の進展（2）【1945～50年代】
- 12回 北欧協力の進展（3）【1960年代～70年代】
- 13回 北欧協力の進展（4）【1980年代～90年代半ば】
- 14回 北欧協力の進展（5）【1990年代半ば～現在】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加60%、レポート40%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

政治学、国際関係論に関する基礎知識がない場合には、各自で授業時間外に勉強することが必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治思想演習【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

日本近代の政治思想史を「朱子学化」という視点から読み直す。それを通して、今日と将来の日本と東アジアを構想する。

教科書 /Textbooks

小倉紀蔵著『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012）5500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○金鳳珍『東アジア「開明」知識人の思惟空間』（九州大学出版会、2004）
○李暎東『近代中国の立憲思想』（法政大学出版会、2005）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要紹介
- 2回 第1章 【朱子学】【日本近代】
- 3回 第2章 【儒教】【主体】
- 4回 第3章 【理】【論理】
- 5回 第4章 【朱子学的思惟】【階層性】
- 6回 第5章 【垂直性】【水平性】
- 7回 第6章 【ころ】【ニヒリズム】
- 8回 第8章 【国体論】【靈魂】
- 9回 第9章 【元田永孚】【教育勅語】
- 10回 第10章 【福沢諭吉】【朱子学的半身】
- 11回 第11章 【丸山眞男】【朱子学的半身】
- 12回 第12章 【主体的韓国人】【朴鐘鴻】
- 13回 第13章 【司馬遼太郎】【近代観】【朝鮮観】
- 14回 第14章 【天皇】【カリスマ】【三島由紀夫】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学生の報告 30% レポート 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代中国政治史演習 【夜】

担当者名 /Instructor 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

近代中国に貫かれる政治的特徴を検討する。とくに中華民国時期（1912年～49年）を中心に、革命と戦争、国民国家建設の課題と挫折の歴史を検証する。孫文、袁世凱、陳独秀、胡適、蒋介石などの人物研究が中心。
人物研究を通して、中国における革命と連続性の本質を政治史の観点から理解することを達成目標とする。

教科書 /Textbooks

横山宏章『中華民国』中央公論社新書
横山宏章『中華民国史』三一書房
横山宏章『孫文と袁世凱』岩波書店
横山宏章『陳独秀の時代』慶應義塾大学出版会
横山宏章『中国の異民族支配』集英社
横山宏章『素顔の孫文』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

横山宏章『中華思想と現代中国』集英社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一回は二回分180分 講義と討論の演習方式
- 1回 中華民国とは何か
 - 2回 【賢人支配の善政主義】の立場から論ずる
 - 3回 辛亥革命と「排満」
 - 4回 【中華と夷狄】の概念を論証する
 - 5回 孫文の「三序」構想
 - 6回 孫文の【愚民史観】を検証
 - 7回 袁世凱と強国の建設
 - 8回 共和体制における集権政治のあり方を見る
 - 9回 陳独秀、胡適の「新文化運動」
 - 10回 中国における【デモクラシーとサイエンス】を検証
 - 11回 蒋介石の国民国家建設構想と反蒋介石運動
 - 12回 統治のあり方としての【以党治国】論
 - 13回 中華民国と「自由」
 - 14回 中国近代における自由の系譜
 - 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

討論とレポート
討論80% レポート20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

拙著を読んでおくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国経済演習【夜】

担当者名
/Instructor

白石 麻保 / 中国学科

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期

2学期

授業形態

演習

クラス

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

中国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。中国経済研究の各種文献，Journal of comparative economicsをはじめとする英文ジャーナル，中文文献，邦文文献の輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い，報告・ディスカッションを行う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、ディスカッション 分析視点と手法(1) 経済開発 制度
- 3回 テキスト輪読、ディスカッション 分析の視点と手法(2) 制度 SNA
- 4回 テキスト輪読、ディスカッション 分析の視点と手法(3) 企業
- 5回 テキスト輪読、ディスカッション 分析の視点と手法(4) 農業
- 6回 テキスト輪読、ディスカッション 分析の視点と手法(5) 経済成長
- 7回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(1) 理論モデル、実証モデル
- 8回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(2) 実証モデル、データの扱い方
- 9回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(3) データの扱い方、記述統計
- 10回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(4) 記述統計、数量分析
- 11回 テキスト輪読、ディスカッション 分析と結果(5) 数量分析
- 12回 テキスト輪読、ディスカッション 含意・評価(1) 中国経済への提言
- 13回 テキスト輪読、ディスカッション 含意・評価(2) 他経済への提言
- 14回 テキスト輪読、ディスカッション 含意・評価(3) 研究上の意義
- 15回 まとめ

* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60%

ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ) 経済学及び統計学，計量経済学等の知識を必要とするので，学部レベルの当該科目の知識を習得しているとより理解が深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力演習 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この講義では紛争後の国家建設に焦点を当てる。とりわけリベラル・ピース理論との関係について考察を深め、現状と課題の把握に努める。

教科書 /Textbooks

Roger Mac Ginty and Oliver Richmond eds., The Liberal Peace and Post-War Reconstruction, New York: Routledge, 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション - 紛争後復興とリベラル・ピース理論の関係について
- 第2回 Chap. 1
- 第3回 ディスカッション
- 第4回 Chap. 2
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 Chap. 3
- 第7回 ディスカッション
- 第8回 Chap. 4
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 Chap. 5
- 第11回 ディスカッション
- 第12回 Chap. 6
- 第13回 ディスカッション
- 第14回 Chap. 7
- 第15回 ディスカッション、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・30% 授業への貢献度(議論への参加)・・・40% レポート・・・30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済演習【夜】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化下における国際政治経済秩序の変容に対し、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。
 野林健・長尾悟『国際政治経済を学ぶ - 多極化と新しい国際秩序』ミネルヴァ書房、2011年。
 ○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年
 - Joseph M. Grieco & G. John Ikenberry, State Power and World Markets: The International Political Economy, W W Norton & Co Inc, 2002.
 - Benjamin J. Cohen, International Political Economy: An Intellectual History, Princeton University Press, 2008.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。
 ○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。
 関下稔『国際政治経済学要論』晃洋書房、2010年
 ○Robert Gilpin, Global Political Economy: Understanding the International Economic Order, Princeton University Press, 2001.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 インTRODクシヨN
 第2回 国際秩序をめぐる政治と経済
 第3回 グローバリゼーションと国際関係
 第4回 国際政治経済の見方(1) 重商主義
 第5回 国際政治経済の見方(2) 自由主義
 第6回 国際政治経済の見方(3) 批判理論
 第7回 戦後の国際経済秩序の枠組み(1) ブレトン・ウッズ、GATT体制
 第8回 戦後の国際経済秩序の枠組み(2) レジームの変容と課題
 第9回 金融のグローバル化と通貨危機
 第10回 国際金融秩序の構築
 第11回 地域主義の展開(1) 北米の経済協定
 第12回 地域主義の展開(2) ヨーロッパの統合
 第13回 地域主義の展開(3) アジアの多様性
 第14回 科学技術と国際政治経済
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加(議論への貢献度など)...20%、期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障演習 【夜】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正戦理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

正戦理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、特に古典講読の場合、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が必要不可欠になる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式をとり、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジュメを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回 ガイダンス

戦争倫理(正戦理論)関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20~30ページ程度の英語論文を2本程度読み、受講者には15~20分間の要旨報告×2本分、質疑応答をしてもらう。

例えば、Larry May et al., eds., The Morality of War, Pearson Princeton Hall, 2005, および、Gregory M.Reichberg et al., eds., The Ethics of War, Blackwell Publishing, 2006, などのリーディング教材などを用い、各回のテーマに沿った古典や論文(英文)を熟読する。

第2回 古典(1)古代、原始・初期キリスト教【CiceroからAmbroseまで】

第3回 古典(2)【Augustine】

第4回 古典(3) 中世神学者(1)【Gratian, Thomas Aquinas(1)など】

第5回 古典(4) 中世神学者(2)【Thomas Aquinas(2)】

第6回 古典(5) 近世・近代【ius in bello, ius ad bellumなど】

第7回 古典総括、小レポート要旨報告

第8回 The Doctrine of Double Effect(1)【Boyle, Quinn, Waltzerなど】

第9回 The Doctrine of Double Effect(2)【二重結果の応用】

第10回 E.M.Anscombeの戦争観

第11回 Noncombatant immunity

第12回 Self-Defense

第13回 Collective Defense

第14回 期末レポート要旨報告

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度(30%)、予習状況(30%)、レポート(40%)から評価したい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。

履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

1学期の安全保障研究を履修済みであるかは問わないが、内容的には、2学期で扱うもののほうが高度でより専門的となる。

安全保障演習 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ風景論演習 【夜】

担当者名 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

アメリカ的な空間と風景を認識するとはどういうことか、受講者と討論しながら理解を深める。受講者との討論を通して、アメリカの風景画や自然保護思想などを取り上げる。現代のツーリズムや環境保護運動、或いはアメリカの風景画・水彩画美術などの考察にもつなげたい。

教科書 /Textbooks

- Henry Nash Smith著 Virgin Land: The American West as Symbol and Myth
- Leo Marx著 The Machine in the Garden: Technology and Pastoral Ideal in America

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Sue Rainey著 Creating Picturesque America: Monument to the Natural and Cultural Landscape. Applewood Books (2001)
 - Richard Slotkin著 Regeneration Through Violence; The Mythology of the American Frontier, 1600-1860. Wesleyan UP (1974)
 - Neil Campbell & Alasdair Kean著 American Cultural Studies: An Introduction to American Culture (2006)
- エドモンド・バーク『崇高と美の観念の起源』(みすず書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：アメリカン・スタディーズとはどのような学問か(資料配布)
- 2回 神話としてのアメリカ西部
- 3回 プリント配布資料および映像資料による討論
- 4回 H. N. Smith, Virgin Land のテーマと構造解説
- 5回 H. N. Smith, Virgin Land (pp. 15-50) に基づく考察と討論
- 6回 H. N. Smith, Virgin Land (pp.51-122) に基づく考察と討論
- 7回 H. N. Smith, Virgin Land (pp.123-262) に基づく考察と討論
- 8回 Marx, The Machine in the Garden のテーマと構造解説
- 9回 Marx, The Machine in the Garden の"The Machine"に基づく討論
- 10回 Marx, The Machine in the Garden の"The Garden"に基づく討論
- 11回 Marx, The Machine in the Garden の"The Garden of Ashes"に基づく討論
- 12回 さまざまな影響に曝される風景
- 13回 風景と大気現象と風景の保存
- 14回 空間をめぐる風景と人間の行動様式
- 15回 総合的纏め

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50% 学期末レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

アメリカン・スタディーズの基礎を、アメリカの地理や風景の研究に焦点を当てる。学部時代にできるだけアメリカ関係の授業を受講しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域演習【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周辺の地域に関する文献を読み、続いてイギリス社会を総合的に取り扱った歴史的な著作を中心に議論を展開する。

教科書 /Textbooks

S. Bassnett, Studying British Culture
J. Harris, Private Lives Public Spirit
E・H・カー『歴史とは何か』
成瀬治『近代市民社会の成立』
B・アンダーソン『想像の共同体』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 地域・文化研究の方法論
- 3回 スコットランドの再定義
- 4回 カムリカウェールズが
- 5回 北アイルランド研究の現状
- 6回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
- 7回 イギリスにおける階級とジェンダー
- 8回 イギリス人の「生と死」
- 9回 イギリスの家族構造
- 10回 イギリスにおける「プロパティ」概念
- 11回 イギリス社会における労働
- 12回 イギリス社会における宗教
- 13回 社会と国家
- 14回 社会と社会理論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを正確に読んでから授業に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

北欧地域演習 【夜】

担当者名 /Instructor 五月女 律子 / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

この授業では、北欧諸国の国内政治、対外政策、EUとの関係などについて、英語の文献を輪読することを通して学ぶことを目指す。受講生が北欧諸国の政治についての基礎知識を学びつつ、他のヨーロッパ諸国との相違や国際社会における役割について考察することを目指す予定である。

教科書 /Textbooks

Scandinavian Political Studies や Cooperation and Conflict などの北欧諸国で発行されている英文学術雑誌や、北欧諸国の政治に関する英語の書籍を輪読する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業時に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、スケジュールの決定
- 2回 北欧諸国における政治の基礎知識の確認・復習
- 3回 学生による指定文献の発表(1) 【国内政治】
- 4回 学生による指定文献の発表(2) 【EUとの関係】
- 5回 学生による指定文献の発表(3) 【対外政策】
- 6回 学生による指定文献の発表(4) 【安全保障】
- 7回 学生による指定文献の発表(5) 【国際協力】
- 8回 学生によるレポートのアウトライン発表
- 9回 学生によるレポート内容の発表(1) 【序章】
- 10回 学生によるレポート内容の発表(2) 【1章】
- 11回 学生によるレポート内容の発表(3) 【2章】
- 12回 学生によるレポート内容の発表(4) 【3章】
- 13回 学生によるレポート内容の発表(5) 【結論】
- 14回 レポートの添削
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加40%、口頭発表30%、レポート30%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指定文献を授業前に読んでおくことが必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代英文学研究【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

今日エコクリティストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を基軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソローや、"inhumanism" を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

教科書 /Textbooks

The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty (必要な箇所のコピーは準備します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・80%
毎回の授業への参加度など・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストの英文を精読します。しっかりと予習をして授業に臨んでください。
この講義で学ばエコクリティシズム批評の方法論を身につけた方は、次に、その方法論をベースにした実践ともいえるべき「現代英文学演習」を受けると、より効果的です。

現代英文学研究【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「エコクリティシズム」「ロレンス」「ワーズワス」「ソロー」「ジェファーズ」

英語表現法I 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course will build advanced-level academic English vocabulary through study of the Latin roots, prefixes and suffixes that are commonly used in the construction of English words. The course will be especially useful for learners doing graduate study in literature, linguistics or law. It will provide them with the skills necessary to deconstruct the meaning of unknown words encountered in texts as well as to express their own ideas more eloquently.

教科書 /Textbooks

Ayer, D. English Words from Latin & Greek Elements. 2nd Ed. University of Arizona Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Barnhardt, R. K. (Ed.) Chambers Dictionary of Etymology.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Orientation; the English-English dictionary (Homework: Ayer 1)
 Lesson 2: The origins & development of the English language
 Lesson 3: Definitions; word structure: bases, prefixes, suffixes (Homework: Ayer 2)
 Lesson 4: Prefixes: regressive assimilation (Homework: Ayer 3)
 Lesson 5: Prefixes: other predictable sound changes; acronyms (Homework: Ayer 4-5)
 Lesson 6: Multiple-base words; hybrid words (Homework: Ayer 6-7)
 Lesson 7: Review #1 (units 1-7)
 Lesson 8: Suffixes (adjectival): dissimilation & other sound changes (Homework: Ayer 8-10)
 Lesson 9: Suffixes (adjectival): semantic & functional change (Homework: Ayer 11-13)
 Lesson 10: Suffixes (noun): abstraction, weakening and hyperbole (Homework: Ayer 14-16)
 Lesson 11: Suffixes (noun): diminutives, concept development (Homework: Ayer 17)
 Lesson 12: Suffixes (noun): euphemism, taboo deformation & circumlocution (HW: Ayer 18-19)
 Lesson 13: Suffixes (verbal): clipped words and blends (Homework: Ayer 20-21)
 Lesson 14: Doublets; Latinisms in English; metathesis, Latin phrases in English (Homework: Ayer 22-25)
 Lesson 15: Review #2 (units 8-25)

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term test 50% Final test 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Learners will analyze, define and learn approximately 40 English words per week.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法II 【夜】

担当者名 /Instructor クレイグ・ランバート / Craig P. Lambert / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course will build advanced-level academic English vocabulary through study of the Latin roots, prefixes and suffixes that are commonly used in the construction of English words. The course will be especially useful for learners doing graduate study in literature, linguistics or law. It will provide them with the skills necessary to deconstruct the meaning of unknown words encountered in texts as well as to express their own ideas more eloquently.

教科書 /Textbooks

Ayer, D. English Words from Latin & Greek Elements. 2nd Ed. University of Arizona Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Barnhardt, R. K. (Ed.) Chambers Dictionary of Etymology.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Lesson 1: Orientation; the English-English dictionary (Homework: Ayer 1)
 Lesson 2: The origins & development of the English language
 Lesson 3: Definitions; word structure: bases, prefixes, suffixes (Homework: Ayer 2)
 Lesson 4: Prefixes: regressive assimilation (Homework: Ayer 3)
 Lesson 5: Prefixes: other predictable sound changes; acronyms (Homework: Ayer 4-5)
 Lesson 6: Multiple-base words; hybrid words (Homework: Ayer 6-7)
 Lesson 7: Review #1 (units 1-7)
 Lesson 8: Suffixes (adjectival): dissimilation & other sound changes (Homework: Ayer 8-10)
 Lesson 9: Suffixes (adjectival): semantic & functional change (Homework: Ayer 11-13)
 Lesson 10: Suffixes (noun): abstraction, weakening and hyperbole (Homework: Ayer 14-16)
 Lesson 11: Suffixes (noun): diminutives, concept development (Homework: Ayer 17)
 Lesson 12: Suffixes (noun): euphemism, taboo deformation & circumlocution (HW: Ayer 18-19)
 Lesson 13: Suffixes (verbal): clipped words and blends (Homework: Ayer 20-21)
 Lesson 14: Doublets; Latinisms in English; metathesis, Latin phrases in English (Homework: Ayer 22-25)
 Lesson 15: Review #2 (units 8-25)

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term test 50% Final test 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

Learners will analyze, define and learn approximately 40 English words per week.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語表現法I【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

さまざまな書籍、新聞および雑誌などの記事と映像教材を使い、現代中国の社会、政党、行政などの構造を知りながら、現代中国語の表現への理解を深める。

教科書 /Textbooks

授業中に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『中国文学の昨日と今日』
- ・ 原典と映像で中国を読む

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 資料・教材の配布と説明
- 第2回 中国の言語
- 第3回 現代中国の行政
- 第4回 中国の地理
- 第5回 現代中国の政党
- 第6回 中国の政府
- 第7回 総合討論
- 第8回 中国人の思想(1)
- 第9回 中国人の思想(2)
- 第10回 中国の歴史(古代)
- 第11回 中国の歴史(近代)
- 第12回 中国の歴史(現代)
- 第13回 中国の文学史(1)
- 第14回 中国の文学史(2)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

内容の予習30% 内容の理解30%、レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

日中両国の文学、歴史、思想、地理、政治などの知識を予習と勉強すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語表現法Ⅱ【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

「中国語表現法Ⅱ」の内容を継続し、日本語の文章を中国語（あるいは中国語の文章を日本語に）訳する練習を行いながら、実践的に現代中国語の表現法を身に付けていく。

教科書 /Textbooks

授業中に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『中国文学の昨日と今日』
- ・ 文章で中国の歴史、思想、地理、政治などを深く理解する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 資料・教材の配布と説明
- 第2回 中国語作文1、文体
- 第3回 中国語作文2、構造
- 第4回 作文実践
- 第5回 中国語作文3、資料収集
- 第6回 中国語作文4、注釈法
- 第7回 作文練習
- 第8回 翻訳入門
- 第9回 翻訳の原則
- 第10回 翻訳の技巧
- 第11回 翻訳の理論
- 第12回 翻訳実践
- 第13回 翻訳の評論
- 第14回 翻訳練習
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

内容の理解30% 勉強の意欲30%、レポート40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

中日両国の文学、歴史、思想、地理、政治などの知識を予習と勉強すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会研究【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のB・オバマ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治 新版』(有斐閣アルマ 2010年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 20世紀後半における保守主義政治【保守主義】
- 第3回 レーガン政権のイデオロギー【保守主義】
- 第4回 クリントン政権の歴史的位相【ニューデモクラット】
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
- 第8回 1980年代における国家論の再興【国家論】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1970年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【保守主義】
- 第14回 1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

中国社会史研究【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本科目は漢族を中心とする中国人社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史の変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

教科書 /Textbooks

・ 上田信『海と帝国』(講談社、2005年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』(清文堂、2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献の配布
- 第2回 中国という社会空間
- 第3回 明朝の成立
- 第4回 明朝統治の特質
- 第5回 交易の発展と社会変容
- 第6回 商人社会
- 第7回 社会秩序の変容
- 第8回 北辺貿易と清朝の成立
- 第9回 産業の発展
- 第10回 伝統中国の完成
- 第11回 伝統中国社会と環境問題
- 第12回 伝統中国社会と近世日本社会
- 第13回 土地改革と伝統中国社会の解体
- 第14回 改革開放下中国社会の構造
- 第15回 まとめ(総合的考察-伝統中国社会と現代中国社会)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(60%)・討論(40%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを事前に熟読し発言を準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

現代英文学演習【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

対自然関係、対人関係において、今日様々な問題が生じています。それらは自然環境破壊、愛の不毛性、孤独死等々の現象として現前化し、我々にそれら問題の深刻さを突きつけているのです。

人間はお互いにかなる関係性を築くべきか、また人間は自然とどのようにかわるべきか、といった問題提起を發しつつ、このような危機的状況に生きる人間を扱った作品を次から次へと生み出した19～20世紀のイギリスの作家 D.H.Lawrence。彼の作品群には、多くの有意義なメッセージが含まれており、ますます無視できない存在になってきています。ロレンスの今日的意義を問い直すために、今回は彼の後期の短編“The Man Who Loved Islands”を扱う予定です。

到達目標： 19～20世紀を生きたイギリス人作家（詩人）であるD.H.Lawrenceの短編を通じて英語の読解力を養い、作品のメッセージを現代人の問題に絡めて説明できるようになること。

教科書 /Textbooks

“The Man Who Loved Islands” by D.H.Lawrence (プリントを準備します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 D.H.Lawrence の紹介
- 2回 プリント pp. 97-98 の精読と議論
- 3回 プリント pp. 99-100 の精読と議論
- 4回 プリント pp. 101-02 の精読と議論
- 5回 プリント pp. 103-05 の精読と議論
- 6回 プリント pp. 106-08 の精読と議論
- 7回 第1の島についての議論
- 8回 プリント pp. 109-111 の精読と議論
- 9回 プリント pp. 112-114 の精読と議論
- 10回 プリント pp. 115-117 の精読と議論
- 11回 第2の島についての議論
- 12回 プリント pp. 118-120 の精読と議論
- 13回 プリント pp. 121-124 の精読と議論
- 14回 第3の島についての議論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・80%
授業への参加度など・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストの英文を精読します。しっかりと予習をして授業に臨んでください。
この講義は「エコクリティシズムの理論」の実践ともいうべき内容になっていますので、この講義を受講する前に、その方法論の基礎を学べる「現代英文学研究」を受けておくと、より効果的です。

現代英文学演習【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「現代人の悲劇」「人間と自然」「ロレンスの意義」「エコクリティシズム」

アメリカ社会演習【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

アメリカの社会文化を分析した古典的名著であるL・ハーツの『アメリカ自由主義の伝統』を輪読する。19世紀前半にアメリカを旅したトクヴィルが観察したように、アメリカでは社会革命を経ずして生まれた社会に特有の精神風土が開花することになった。その風土をアメリカが世界大国になった20世紀中期の現実を踏まえて、あらためて考察しなおしたのがハーツの著作である。この演習では、21世紀アメリカの社会的現実を紹介しながら、ハーツの議論の今日的有効性とその限界を考えていく。その上で、参加者自体のアメリカ観の養成をはかる。

教科書 /Textbooks

Louis Hartz with an introduction by Tom Wicker, The Liberal Tradition in America: An Interpretation of American Political Thought since the Revolution (San Diego, CA: Harcourt Brace & Company, 1991)[有賀貞訳『アメリカ自由主義の伝統』(講談社学術文庫 1994年)]

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンス時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【研究史整理】 【方法論】
- 第2回 アメリカにおけるJ・ロック 【自由主義】
- 第3回 トクヴィルとハーツ 【政治参加】
- 第4回 革新主義史学への挑戦者としてのハーツ 【革新主義】
- 第5回 アメリカにおける階級 【社会主義】
- 第6回 アメリカ革命への視座 【アメリカ革命】
- 第7回 共和主義とアメリカ 【共和主義】
- 第8回 ジャクソン期の「民主主義」 【ジャクソン期】
- 第9回 南部政治の特殊性 【南部】 【奴隷制】
- 第10回 南北戦争と南北のイデオロギー対立 【南北戦争】
- 第11回 再建期の思想動向 【再建期】
- 第12回 革新主義を支えたもの 【社会主義】 【キリスト教】
- 第13回 ニューディールの実験主義 【ニューディール】
- 第14回 ハーツと1950年代の自由主義政治 【冷戦】
- 第15回 『アメリカ自由主義の伝統』の今日性 【21世紀】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国社会史演習【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本科目は漢族を中心とする中国人社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史の変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

教科書 /Textbooks

・ 上田信『海と帝国』(講談社、2005年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』(清文堂、2005年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献の配布
- 第2回 中国という社会空間
- 第3回 明朝の成立
- 第4回 明朝統治の特質
- 第5回 交易の発展と社会変容
- 第6回 商人社会
- 第7回 社会秩序の変容
- 第8回 北辺貿易と清朝の成立
- 第9回 産業の発展
- 第10回 伝統中国の完成
- 第11回 伝統中国社会と環境問題
- 第12回 伝統中国社会と近世日本社会
- 第13回 土地改革と伝統中国社会の解体
- 第14回 改革開放下中国社会の構造
- 第15回 まとめ(総合的考察-伝統中国社会と現代中国社会)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(60%)・討論(40%)で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

テキストを事前に熟読し発言を準備すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講者各自の研究テーマを論文として結実させることが、特別研究IA，特別研究IB，特別研究IIA，特別研究IIBを通じた目標である。受講前に研究をどの程度行って来たかや、採用する研究手法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉猟とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的に研究を進めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成の基礎となる研究活動を行う。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議する。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

理論研究と実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行う。
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス・研究モデル、2: 論点整理と動向検討、3: 研究課題への応用と検討)
(1) 理論的な考え方について。実証研究とは何か
(2) 研究とは何か。テーマ設定と関連情報の収集・整理
(3) 課題レポート作成と研究計画の提出
(4) 先行研究についての文献リストの作成
(5) 先行研究についての考察
(6) 分析視点と仮説の設定

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況及び発表内容等を総合して評価する。
平素…40%、課題…40%、討議…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料や文献などの整理、自分なりの意見の整理、論点の検討など

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために、個別的に指導を行う。研究テーマに関するデータの収集・分析方法，論文の執筆技術などについての指導を行い，修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回 論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の研究テーマについて，具体的方法論を十分に検討しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

特別研究基礎、特別研究1の成果及び出てきた課題をふまえ、修士論文の作成に必要な知識及び研究法を習得しつつ、研究の進め方、まとめ方を学ぶ。

目標

- ① 研究に必要な知識を習得する。
- ② 研究を進める上でより効果的な研究法を実践する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 研究計画の検討1【研究目的・課題】
- 3回 研究計画の検討2【研究方法】
- 4回 研究計画の検討3【先行研究の検討】
- 5回 研究計画の検討4【論文の構成】
- 6回 研究方法1【質問紙調査・ワーディング】
- 7回 研究方法2【質問紙調査・予備調査】
- 8回 中間発表
- 9回 研究方法3【音声記録分析】
- 10回 研究方法4【発話分析】
- 11回 修士論文に関わる発表・討論1【序論・目的】
- 12回 修士論文に関わる発表・討論2【序論・先行研究】
- 13回 修士論文に関わる発表・討論3【序論・課題設定】
- 14回 修士論文に関わる発表・討論4【序論・方法】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジユメ等、プレゼン資料を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために、個別的・具体的な助言指導を行うことを目的とする。テーマの設定、資料やデータの収集・分析の方法、論点の明確化および執筆上の技術などについての指導を行い、修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じた文献・資料を必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究計画に即したスケジュールを年度当初に作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組みと自主的研究活動 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

特別研究 (M) IIA では、調査の実施と結果の検討及び、中間報告へ向けて論文のモデル作成的なまとめにより、調査計画や必要な資料の確認等を目的とする。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第3回 論題の整理
第4回～第7回 先行研究の視点・結果・残された課題の整理
第8回～第14回 調査実施と結果の整理・集計報告
第15回 論題の見直し

成績評価の方法 /Assessment Method

報告、レポートにより評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

報告の準備をする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文完成に向けての個別指導を対面形式で行う。最初は、確定した修士論文の構想に沿って、引用文献の収集と分析、テキストの再分析を行ってもらい、修士論文執筆に向けての基礎固めを行ってもらおう。それらの作業の進捗状況を授業時に報告してもらおう。修士論文の執筆開始後は、毎回、新たに執筆された箇所に関する指導を行う。毎回、修士論文の完成へと向けた課題を与える予定である。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、修士論文のテーマと関連した和文、英文の評論文をプリントの形で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MLA 英語論文の手引き 第5版 (北星堂)
修士論文中の引用は上記に記載されている規則に則って行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 1
- 3回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 2
- 4回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 3
- 5回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 4
- 6回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 5
- 7回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 6
- 8回 修士論文の執筆状況の報告と指導 1
- 9回 修士論文の執筆状況の報告と指導 2
- 10回 修士論文の執筆状況の報告と指導 3
- 11回 修士論文の執筆状況の報告と指導 4
- 12回 修士論文の執筆状況の報告と指導 5
- 13回 修士論文の執筆状況の報告と指導 6
- 14回 修士論文の執筆状況の報告と指導 7
- 15回 夏休み中の研究に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文に関する報告100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

修士論文執筆に向けての基礎固めの進捗状況、修士論文執筆開始後は、その執筆状況を授業時に説明できるようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆指導を行う。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決める

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文に関する発表
- 2回 修士論文に関する発表
- 3回 修士論文に関する発表
- 4回 修士論文に関する発表
- 5回 修士論文に関する発表
- 6回 中間検討
- 7回 修士論文に関する発表
- 8回 修士論文に関する発表
- 9回 修士論文に関する発表
- 10回 修士論文に関する発表
- 11回 修士論文に関する発表
- 12回 中間検討
- 13回 修士論文に関する課題検討
- 14回 修士論文に関する課題検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表内容によって判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回与えられた課題をきちんと行うこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修論指導。

教科書 /Textbooks

研究論文が中心になっているので、授業中に適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』(改訂版)駿河台出版社
- 朱 徳熙 『語法講義』(中国語原書と日訳)白帝社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』同学社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』大修館書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
修論作成について討論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の練習・発表・コメントにより100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIA 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student thesis. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students to incorporate into their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course. From this point students should have a general outline of their thesis.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied and suggested by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Thesis Fundamentals
- 3回 Thesis guidance on research methods
- 4回 Thesis guidance on research and materials
- 5回 Presentation of thesis outlines by student A.
- 6回 Presentation thesis outlines by student B.
- 7回 Presentation thesis outlines by student C.
- 8回 Presentation thesis outlines by student D.
- 9回 Discussion centered on thesis development for student A.
- 10回 Discussion centered on thesis development for student B.
- 11回 Discussion centered on thesis development for student C.
- 12回 Discussion centered on thesis development for student D.
- 13回 Discussions and Presentations led by students based on thesis chapters for student A and B.
- 14回 Discussions and Presentations led by students based on thesis chapters for student C and D.
- 15回 Final presentations and assessments.

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations and drafts 50%

Final paper 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 田島 司 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

受講者各自の研究テーマを論文として結実させることが、特別研究IA，特別研究IB，特別研究IIA，特別研究IIBを通じた目標である。受講前に研究をどの程度行って来たかや、採用する研究手法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉猟とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的に研究を進めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成の基礎となる研究活動を行う。
生涯学習・生涯教育の視点から見た現代社会の人間関係に関する課題と方法の設定について学び、文献研究などを行いながら、結果を発表し、討議する。
それらを踏まえて、各自で考察・検討を深め、自分なりの視点を客観的に説明できる力を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
理論研究と実証研究を中心に概ね以下のスケジュールで演習を行う。
以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1:ガイダンス・研究モデル、2:論点整理と動向検討、3:研究課題への応用と検討)
(1)調査計画
(2)調査活動の実施(予備調査、本調査)
(3)調査結果の分析
(4)それらの文章化(補足調査)
(5)まとめたものを発表しながら相互に検討・批評を行う。
(6)調査協力者への報告や提案書の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する
平素…40%、課題…40%、討議…20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

資料や文献などの整理、自分なりの意見の整理、論点の検討など

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために、個別的に指導を行う。研究テーマに関するデータの収集・分析方法，論文の執筆技術などについての指導を行い，修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに応じた文献を必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回 論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の自主的研究活動 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

自分の研究テーマについて，具体的方法論を十分に検討しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

概要

特別研究基礎、特別研究I、特別研究 (M) IIAでの成果及び課題をふまえ、修士論文の作成に必要な知識及び研究法を学ぶ。

目標

- ①研究に必要な知識を習得する。
- ②研究を進める上でより効果的な研究法を実践する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 発表・討論 1 【本論草稿①】
- 3回 発表・討論 2 【本論草稿②】
- 4回 発表・討論 3 【本論草稿③】
- 5回 発表・討論 4 【結論草稿①】
- 6回 発表・討論 5 【結論草稿②】
- 7回 発表・討論 6 【図表及び資料】
- 8回 中間報告
- 9回 発表と討論 1 【論文の仕上げ①序論】
- 10回 発表と討論 2 【論文の仕上げ②本論】
- 11回 発表と討論 3 【論文の仕上げ③結論】
- 12回 発表と討論 4 【論文の仕上げ④キーワード】
- 13回 発表と討論 5 【仕上げ・最終チェック】
- 14回 発表と討論 6 【仕上げ・要旨】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度...50% 発表報告...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

配布資料は事前によく読んでおくこと。発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために、個別的・具体的な助言指導を行うことを目的とする。テーマの設定、資料やデータの収集・分析の方法、論点の明確化および執筆上の技術などについての指導を行い、修士論文の完成を目指す。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに応じた文献・資料を必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の研究計画に即したスケジュールを年度当初に作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の授業への取り組みと自主的研究活動 ... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 石塚 優 / MASARU Ishitsuka / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

特別研究 (M) IIB では調査結果等を論文にまとめるために、具体的な報告を中心に進め、完成を目指す。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～4回 論題の見直しや論文の構成の検討・報告
第5回～15回 先行研究、調査結果の検討等を通して、論文の構成を見直すとともに、完成に向けて進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告により評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

論文の構想を具体化した報告を準備する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

1年次の特別研究Ⅰ、及び1学期の特別研究ⅡAの成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために、具体的に個別指導を行い、論文の完成を目指します。(講義全体のキーワードは「修士論文作成」「論の拡大」などです。)

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初に2学期の論文作成計画書を確認、修正し、それによって指導をしていきます。

- 第1回 導入。担当学生と相談の上、計画書を作成。
- 第2回 前回作成した計画書に従い、指導など(1)。
- 第3回 計画書に従い、指導など(2)。
- 第4回 計画書に従い、指導など(3)。
- 第5回 計画書に従い、指導など(4)。
- 第6回 計画書に従い、指導など(5)。
- 第7回 計画書に従い、指導など(6)。
- 第8回 計画書に従い、指導など(7)。
- 第9回 計画書に従い、指導など(8)。
- 第10回 計画書に従い、指導など(9)。
- 第11回 計画書に従い、指導など(10)。
- 第12回 計画書に従い、指導など(11)。
- 第13回 計画書に従い、指導など(12)。
- 第14回 計画書に従い、指導など(13)。
- 第15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書...80% 授業への参加度など...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
					○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための詳細な個別指導を継続的に対面形式で行う。個別指導に沿った加筆訂正を原稿に加え続けることにより、修士論文を無理なく完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MLA 英語論文の手引(第5版) (北星堂)
修士論文中の引用は上記の書物を参照した上で行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 1
- 2回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 2
- 3回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 3
- 4回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 4
- 5回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 5
- 6回 修士論文草稿の章立に関する指導 1
- 7回 修士論文草稿の章立に関する指導 2
- 8回 修士論文草稿の段落構成に関する指導 1
- 9回 修士論文草稿の段落構成に関する指導 2
- 10回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 1
- 11回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 2
- 12回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 3
- 13回 修士論文草稿に関する指導：単語レベル
- 14回 修士論文草稿に関する指導：引用文献リスト
- 15回 完成した修士論文の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の執筆状況に関する報告100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

指示に従って、修士論文の加筆修正作業を行っておくこと。
修士論文の執筆状況に関して、授業時に報告できるようにしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための指導

教科書 /Textbooks

受講生と相談する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文に関する発表
- 2回 修士論文に関する発表
- 3回 修士論文に関する発表
- 4回 修士論文に関する発表
- 5回 修士論文に関する発表
- 6回 中間検討
- 7回 修士論文に関する発表
- 8回 修士論文に関する発表
- 9回 修士論文に関する発表
- 10回 修士論文に関する発表
- 11回 修士論文に関する発表
- 12回 修士論文に関する課題検討
- 13回 修士論文に関する発表
- 14回 修士論文に関する課題検討
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表内容によって判断する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

毎回与えられた課題をしっかりと行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

修論指導。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究論文が中心になっているので、授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1 ~ 15回
修論作成について討論する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の討論・修論の作成により100%で評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

積極的な思考・問題提起・資料準備などを望んでいる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 (M)IIB 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
						○	○	○	○	○	○	

授業の概要 /Course Description

本年度はロジャー・ウィリアムソン先生からの指導を引き継ぎ、修士論文の完成まで指導をします。その後の研究の充実をめざし、がんばって仕上げましょう。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 中間発表の総括と精査(1)
- 第02回 中間発表の総括と精査(2)
- 第03回 修士論文作成のための協議と検討(1)
- 第04回 修士論文作成のための協議と検討(2)
- 第05回 修士論文作成のための協議と検討(3)
- 第06回 修士論文作成のための協議と検討(4)
- 第07回 修士論文作成のための協議と検討(5)
- 第08回 修士論文作成のための協議と検討(6)
- 第09回 修士論文作成のための協議と検討(7)
- 第10回 修士論文作成のための協議と検討(8)
- 第11回 修士論文作成のための最終調整(1)
- 第12回 修士論文作成のための最終調整(2)
- 第13回 修士論文作成のための最終調整(3)
- 第14回 修士論文作成のための最終調整(4)
- 第15回 修士論文作成のための最終調整(5)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表、論文の作成状況等に応じて評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords